Canon

Canon EOS-1D DIGITAL 使用説明書

J

EOS-1D DIGITAL

使用説明書



ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。将来いつでも使用できるよう大切に保管してください。

Exif Print

J

日本語版

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS-1Dは、高精度エリアAF機能を搭載した高性能デジタルAF一眼レフカメラです。本機は、有効画素数約415万・高精細大型CCDセンサー搭載、全EFレンズ群対応、いつでもすぐに撮影できる画期的な機動性、簡単な自動撮影から高度な応用撮影にまで最適対応する豊富な撮影機能など、さまざまな特長を備えています。
なお、記録媒体には、コンパクトフラッシュカード（CFカード Type I、II）を使用します。

ご使用になる前に、カメラを手にとりながら、このカメラユーザーガイドをお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

＊ CFカードは、キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。

妨害電波自主規制について

このカメラ（本機）は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準にもとづくクラスB情報技術装置です。このカメラ（本機）は、家庭環境で使用することを目的としていますが、このカメラ（本機）をラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

試し撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。
万一、カメラ（本機）や記録媒体（CFカード）の不具合により撮影画像の記録やコンピューターへの読み込みがされなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- CanonおよびEOSは、キヤノン株式会社の商標です。
- Adobe、およびPhotoshopは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- IBM PC/ATシリーズは、米国International Business Machines社の商標または登録商標です。
- Macintoshは、米国および他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、現在、商標登録出願中です。
- DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCFは、主としてデジタルカメラの画像ファイルを関連機器間で簡便に利用し合うことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

同梱品の確認

初めてご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

- □ **EOS-1D**／カメラ本体（ボディキャップ、バッテリー室キャップ付き。日付／時計機能用リチウム電池内蔵）
- □ **アイカップ Ec-II**
- □ **ニッケル水素パック NP-E3**（保護カバー付き）
- □ **ニッケル水素チャージャー NC-E2**
- □ **DCカプラーキット DCK-E1**
- □ **ネックストラップ L4**
- □ **ハンドストラップ E1**
- □ **インターフェースケーブル IFC-200D6**

- □ **EOS Digital（デジタル） Solution Disk（ソリューションディスク）**
- □ **Adobe（アドビ） Photoshop（フォトショップ） LE Disk（エルイーディスク）**

- □ **EOS-1D 使用説明書**（本書）
  EOS-1Dの撮影機能について説明しています。
- □ **ニッケル水素パック NP-E3 使用説明書**
- □ **ニッケル水素チャージャー NC-E2 使用説明書**
- □ **DCカプラーキット DCK-E1 使用説明書**
- □ **EOS-1D ソフトウェア使用説明書**
  ソフトウェアのインストール方法や、EOS-1Dで撮影した画像のコンピューターへの取り込み、RAW画像の現像処理・画像処理、EOS-1Dの各種カスタマイズの方法について説明しています。

- □ **お客様ご相談窓口**
- □ **保証書**
- □ **クイックオペレーションガイド**
- □ **EOS-1D Accessories（アクセサリーズ）**
  EOS-1Dの主要アクセサリーを紹介しています。

※ 撮影画像を記録するCFカードは同梱されておりません。別途ご購入ください。
なお、CFカードはキヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。

このデジタルカメラは、Exif 2.2（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます。

目　次

はじめに

1 使用前の準備と基本操作..........21

2 撮影画像に関する設定..........37

3 オートフォーカスとピント合わせ..........59

4 測光方式の選択..........75

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。
その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ **警告：**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意：**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

その他の絵表示の例

行為を禁止する記号



禁止　　分解禁止　　接触禁止

⃠記号は、行為を禁止する内容を告げるものです。
⃠の中に具体的な禁止内容が描かれています。

⚠ 警告

バッテリー、バックアップ電池、電源について

このカメラで指定されていないバッテリーやバックアップ電池は使用しないでください。バッテリーやバックアップ電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。

バッテリーやバックアップ電池を火の中に入れたり、強い衝撃を与えたり、分解、過熱、ショートは絶対しないでください。また、水の中に入れたりしないでください。バッテリーやバックアップ電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。

バックアップ電池のような充電できない電池を無理に充電しないでください。バックアップ電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。

バックアップ電池を取り出した場合は、お子様の手の届かないところへ置いてください。万一、飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が冒される恐れがありますので、ただちに医師に相談してください。

バッテリーの充電中、万一、バッテリーが異常に熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等の異常が起こった場合、ただちにチャージャーのプラグをコンセントから抜いて充電をやめてください。そのまま放置しておくと、火災の原因となります。その後、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

バッテリーやバックアップ電池を破棄する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。廃棄の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。

バッテリーやバックアップ電池の「＋」と「－」の向きをまちがえないようにしてください。バッテリーやバックアップ電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。

可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となることがあります。

バッテリーの充電は専用のチャージャーを使用してください。指定外のチャージャーを使用した場合、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂の原因となります。

バッテリーの液が目に入らないように注意してください。失明する恐れがあります。バッテリーの液が目に入ったときは、こすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。

バッテリーを充電するときは、0℃～＋40℃の範囲外で行わないでください。バッテリーが液漏れ、発熱、破裂を起こし、火傷、けがの原因となります。

バッテリーを充電するときは、乳幼児やお子様の手の届かないところで行ってください。コードを誤って首に巻き付けたり、感電、けがの原因となります。

カメラ本体やチャージャー、付属の接続ケーブルの接点部に金属類を差し込まないでください。感電、発熱、発火の原因となります。

AC電源を使用する際は、必ず専用のDCカプラーとACアダプターを使用してください。また、ACアダプターに記載されている電源を使用してください。使用電源をまちがえると、ACアダプターやカメラ本体がこわれたり、発熱、発火、感電、けがの原因となります。

電源コード類はコードを引っ張らずに、必ずプラグを手で持ってコンセントから抜いてください。コードが破損し、発熱、発火、感電、けがの原因となります。

専用のチャージャーは、他の機器に使用しないでください。発熱、発火、感電、けがの原因となります。

その他の取り扱いについて

自分でカメラを分解、改造しないでください。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。

落下等によりカメラが破損した場合は、内部には触れないでください。さらに、内部が露出した場合は、絶対に手を触れないでください。高電圧がかかり、感電する原因となります。速やかにお買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

レンズまたはレンズをつけたカメラで太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。

湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。

カメラは乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻きつけると、窒息することがあります。

自動車などの運転中に運転者はカメラを絶対に操作しないでください。交通事故の原因となります。

⚠注意

カメラを高温状態の車の中に放置したり、熱いものの近くに置かないでください。カメラ自体が高温になり、触ると火傷の原因となることがあります。

カメラを低温状態中に放置しないでください。カメラ自体が低温になり、触るとけがの原因になります。

レンズまたはレンズをつけたカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。

カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたりしないように注意してください。けがをする原因となります。

カメラを三脚に取り付けたまま移動しないでください。つけたまま移動すると、つまずいたりぶつけたりして、けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ・レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。

万一、カメラごと水に落としたり、内部に水が入った場合は、バッテリーおよびバックアップ電池を抜いて、速やかに、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。

キーホルダーなどの金属類でバッテリーの「＋」と「−」をショートさせないでください。発熱、火傷、けがの原因となることがあります。

バッテリーやバックアップ電池を高温の場所で使用・放置しないでください。バッテリーやバックアップ電池を液漏れさせたり、性能や寿命を低下させる原因となることがあります。また、バッテリーやバックアップ電池自体が高温になり触ると火傷、けがの原因となることがあります。

バッテリーの液が皮膚や衣服に付着しないように注意してください。皮膚に障害を起こすおそれがあります。バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。

電源コードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。感電、発熱、発火の原因となることがあります。

チャージャーやACアダプターは使用後や使用しないときは、電源側とカメラ側のプラグを抜いて保管してください。接続したまま長期間放置すると感電、発熱、発火の原因となることがあります。

長時間使用時のご注意

メインスイッチを〈ON〉にしたまま長時間使用すると、本体温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温火傷の原因となることがありますので、ご注意ください。

重要な安全機能および予防策

CFカードアクセスランプ点滅中にCFカードスロットカバーを開けないでください。点滅中はデータの読み取り、書き込みが行われているため、このときCFカードスロットカバーを開くとデータが破壊されてしまいます。

カメラに付属のケーブル以外は使用しないでください。カメラとコンピューターの接続は付属のインターフェースケーブルを使用してください。これ以外のケーブルを使用すると故障の原因となることがあります。

特定条件下での画質低下について

- CCDの一般的な特性として、ライトなどの高輝度被写体が撮影画面外のすぐ左側にあると、その影響で撮影画面に横縞が入ることがありますので、撮影画面外のすぐ左側に高輝度被写体がこないように撮影してください。縦位置撮影の場合は、縦位置シャッターボタンが上にくるようにして撮影すると、天井照明からの影響を少なくすることができます。
- 太陽などの高輝度被写体を撮影すると、光源の縦、または横方向に帯状のノイズが発生することがありますので、あらかじめご了承ください。

取り扱い上のご注意

カメラについて

(1) カメラは精密機器です。落としたりショックを与えたりしないでください。

(2) このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また、水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。

(3) カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。

(4) 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。

(5) カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。

(6) レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミがついているときは、市販のブロアーブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。

(7) カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。

(8) カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは結露の発生をふせぐために、カメラをビニール袋に入れ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。

(9) 結露が発生したときは、故障の原因となりますので、カメラをお使いにならないでください。CFカード、バッテリーをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。

(10) カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り外し、風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。

(11) カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。

(12) 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかった後や海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

(1) 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られています。使用中に黒、赤、緑のわずかな点が現われ、消えないことがありますが、これは有効画素99.98%の範囲内で、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。

(2) 強く押さえたり、衝撃を与えないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
(3) 汚れたときは、市販のブロワーブラシで吹き払ったり、傷が付かないよう、やわらかい布で軽くふいてください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
(4) 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

日付／時計機能用リチウム電池について

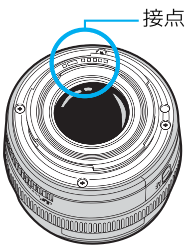
(1) リチウム電池はお子様の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと大変危険です。万一お子様が飲み込んだ場合、化学物質による被害を受ける危険性があります。ただちに医師に相談してください。
(2) 金属製のピンセットなどでつかまないでください。ショートするおそれがあり危険です。
(3) 分解や加熱をしないでください。破裂する危険があります。

CFカードについて

(1) CFカードは精密にできています。落としたり振動を与えたりしないようにしてください。CFカードに記録されている画像が壊れる原因となります。
(2) テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや静電気の発生しやすい所で保管、使用しないでください。CFカードに記録されている画像データが消えてしまうことがあります。
(3) 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。CFカードが変形して使用できなくなります。
(4) CFカードに液体をこぼさないでください。
(5) 大切な画像データを守るため、CFカードは必ずケースなどに入れて保管してください。
(6) 指定外のCFカードを使用すると、画像の記録・再生ができないものがあります。このような場合は、指定のCFカードをご使用ください。
(7) 曲げたり、強い力や衝撃を加えないでください。
(8) 温度の高い所、ほこりや湿気の多い所、静電気や電磁波が発生している所に保管しないでください。

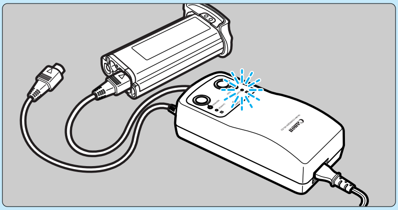
レンズの接点について

レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



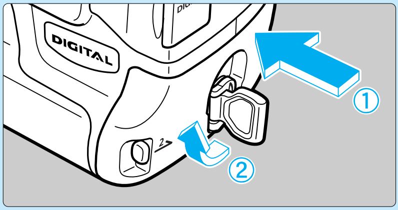
すぐ撮影したい方のために

(→＊＊)の＊＊部は参照ページを示しています。
詳しい使用方法につきましては、参照ページをご覧ください。



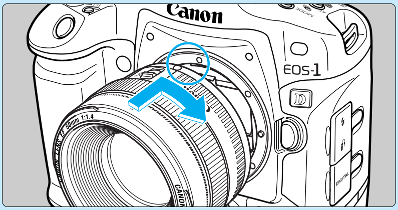
1 バッテリーを充電する

チャージャーに電源コードとバッテリーを接続します。CHARGEランプが点灯から速い点滅に変わったら、充電完了です。充電時間は約120分です。(→22)



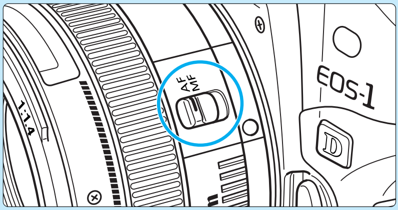
2 バッテリーを入れる

充電済みバッテリーを押しながら、着脱つまみを矢印方向に回して入れます。
(→23)



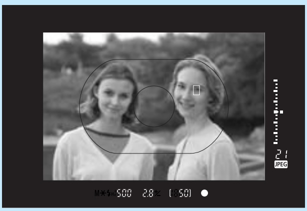
5 レンズを取り付ける

レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。(→26)



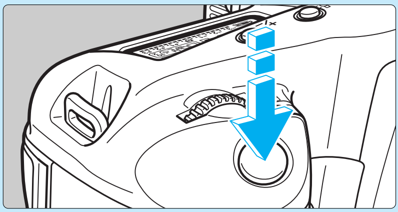
6 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

(→26)



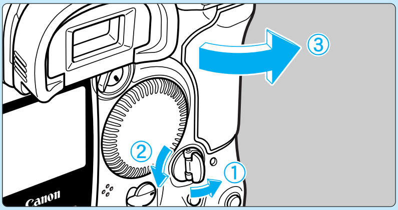
9 ピントを合わせる

写したいもの(被写体)にエリアAFフレームを合わせ、軽くシャッターボタンを押して、ピントを合わせます。(→59)



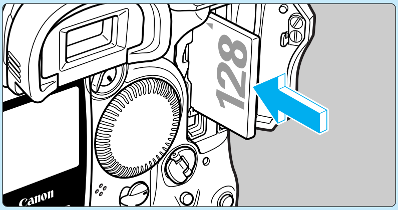
10 撮影する

さらにシャッターボタンを押して撮影します。(→29)



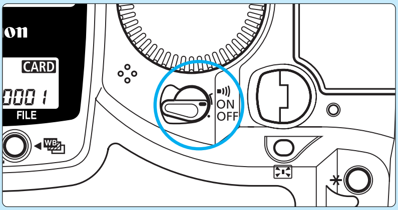
3 CFカードスロットカバーを開ける

開放つまみをおこし、矢印方向に回して開きます。(→27)



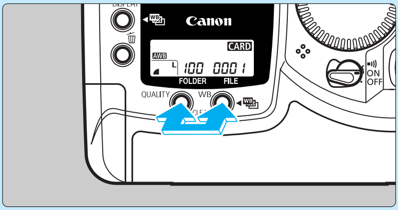
4 CFカードを入れる

CFカードを入れ、カバーを閉じます。(→27)



7 〈〉メインスイッチを〈ON〉にする

(→29)



8 カメラを初期状態にする

(→34)

〈QUALITY〉ボタンと〈WB〉ボタンを2秒間、同時に押します。



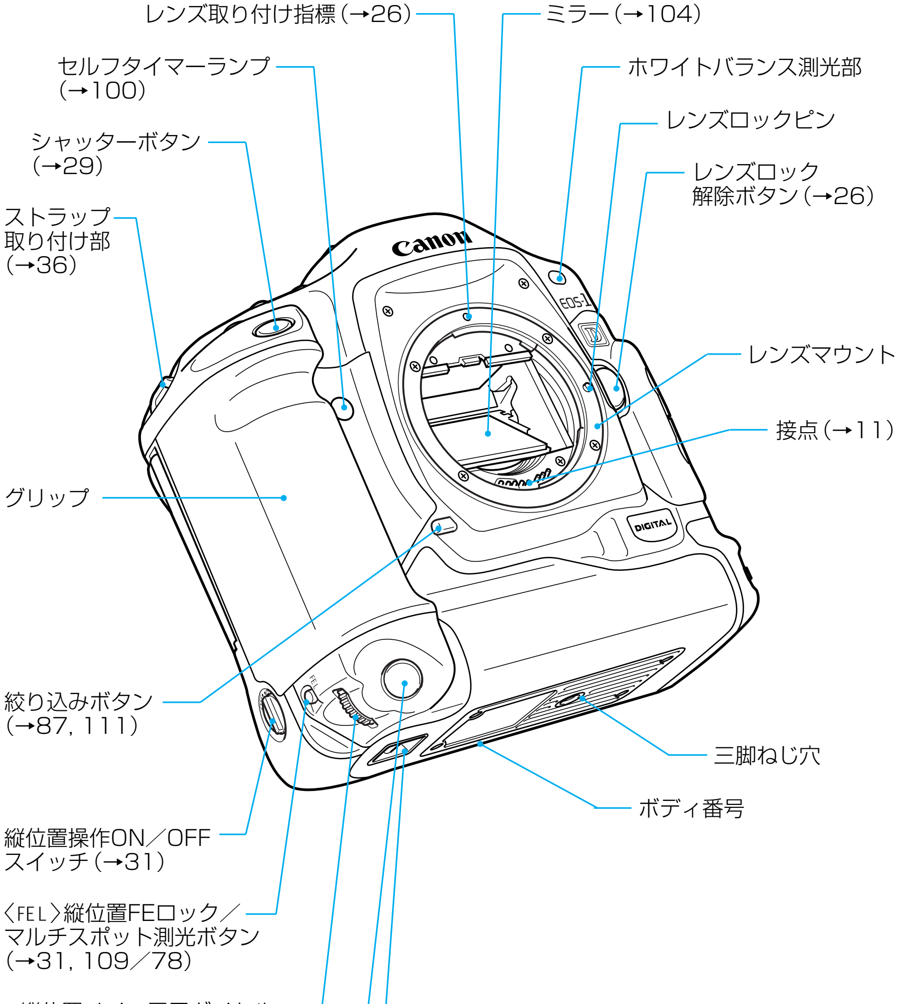
11 撮影した画像を確認する

撮影した画像が約2秒間表示されます。表示する時間は変更することができます。(→53)

- 今までに撮影した画像を確認したい場合は、『撮影した画像を再生する』(→116)を参照してください。
- 撮影した画像を消去したい場合は、『撮影画像を消去する(1コマ消去)』(→122)を参照してください。

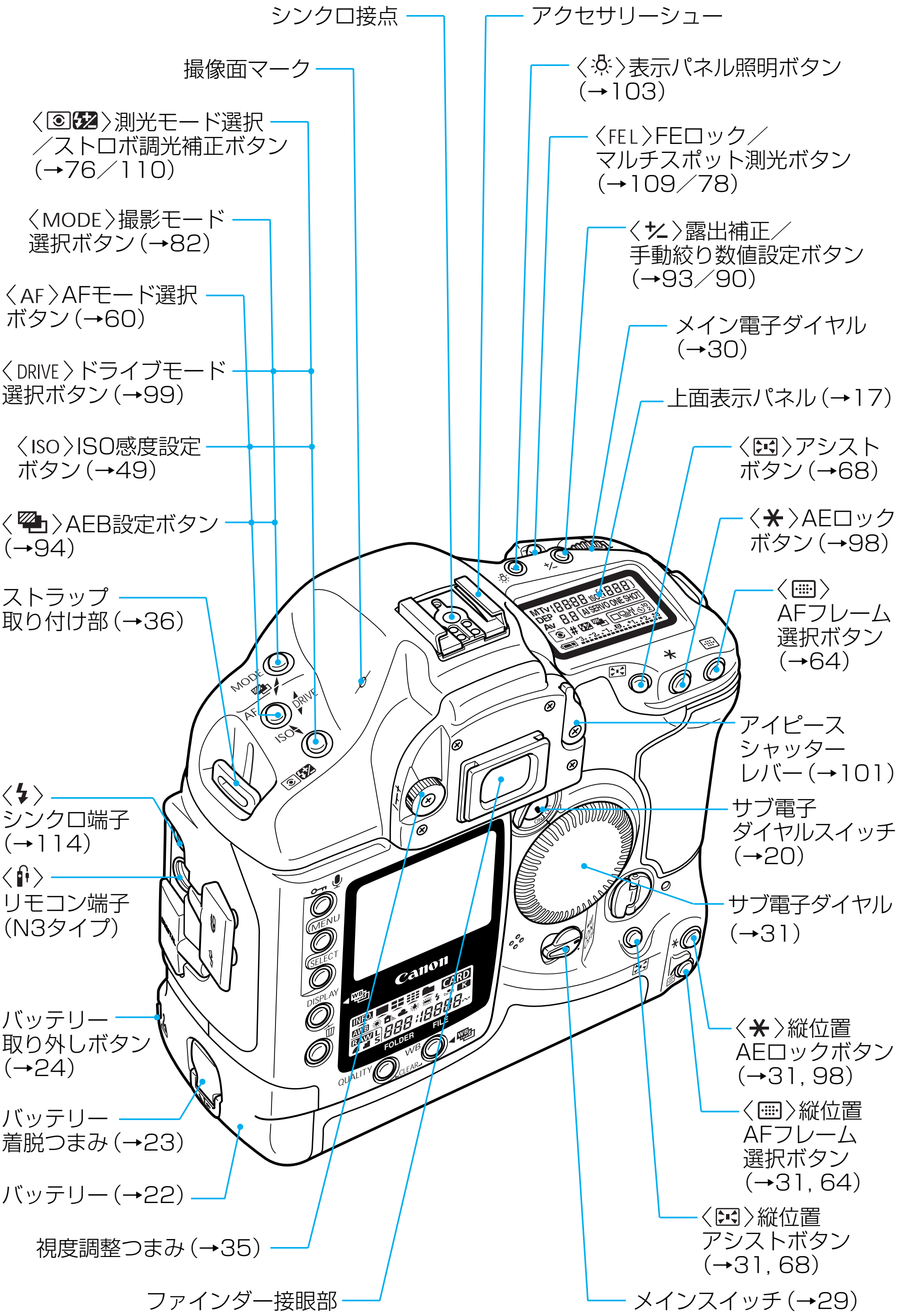
各部の名称

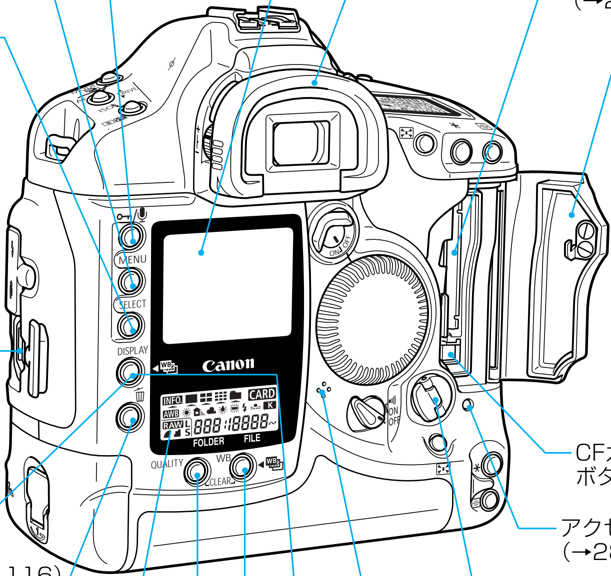
（→＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。





ボディキャップ（→26）


シンクロ接点
アクセサリーシュー
撮像面マーク
〈☼〉表示パネル照明ボタン（→103）
〈◉⚡〉測光モード選択／ストロボ調光補正ボタン（→76／110）
〈FEL〉FEロック／マルチスポット測光ボタン（→109／78）
〈MODE〉撮影モード選択ボタン（→82）
〈±〉露出補正／手動絞り数値設定ボタン（→93／90）
〈AF〉AFモード選択ボタン（→60）
メイン電子ダイヤル（→30）
〈DRIVE〉ドライブモード選択ボタン（→99）
上面表示パネル（→17）
〈ISO〉ISO感度設定ボタン（→49）
〈⊡〉アシストボタン（→68）
〈AEB〉AEB設定ボタン（→94）
〈✱〉AEロックボタン（→98）
ストラップ取り付け部（→36）
〈▦〉AFフレーム選択ボタン（→64）
アイピースシャッターレバー（→101）
〈⚡〉シンクロ端子（→114）
サブ電子ダイヤルスイッチ（→20）
〈🎚〉リモコン端子（N3タイプ）
サブ電子ダイヤル（→31）
バッテリー取り外しボタン（→24）
〈✱〉縦位置AEロックボタン（→31, 98）
バッテリー着脱つまみ（→23）
〈▦〉縦位置AFフレーム選択ボタン（→31, 64）
バッテリー（→22）
〈⊡〉縦位置アシストボタン（→31, 68）
視度調整つまみ（→35）
ファインダー接眼部
メインスイッチ（→29）
MODE
AF
DRIVE
ISO
Canon
MENU
SELECT
DISPLAY
QUALITY
WB
FOLDER
FILE
CARD



〈⊶/🎙〉プロテクト／録音ボタン（→119／121）

〈MENU〉メニューボタン（→33）

〈SELECT〉選択ボタン（→33）

〈**DIGITAL**〉デジタル端子

〈DISPLAY〉ディスプレイボタン（→54, 116）

〈🗑〉消去ボタン（→122）

背面表示パネル（→18）

〈CLEAR〉クリアボタン（→34）

〈QUALITY〉記録画質選択ボタン（→38）

液晶モニター（→32, 34）

アイカップ（→35）

CFカードスロット（→27）

CFカードスロットカバー（→27）

CFカード取り出しボタン（→28）

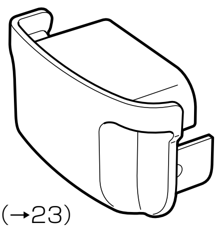
アクセスランプ（→28）

CFカードスロットカバー開放つまみ（→27）

録音マイク（→121）

ホワイトバランスブラケティングボタン

〈WB〉ホワイトバランス選択ボタン（→41）



バッテリー室キャップ（→23）

上面表示パネル

絞り数値（00 ～ 9 1）
DEP回数（1，2）
AEBステップ量（0.0 ～ 3.0）
AFフレーム選択モード
（AF，[ ]，HP）

撮影モード
P　：プログラムAE
M　：マニュアル露出
Tv　：シャッター速度優先AE
DEP：深度優先AE
Av　：絞り優先AE

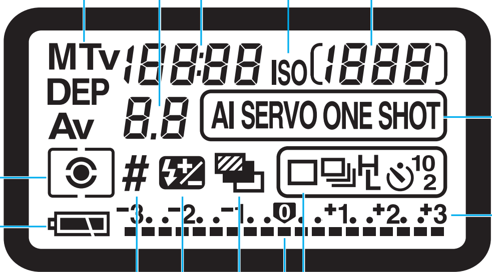
測光モード
評価測光
部分測光
スポット測光
中央部重点
平均測光

シャッター速度（16000 ～ 30"）
バルブ（buLb）
バルブ露光時間（分：秒）（00:00 ～ 59:59）
深度優先AE作動表示（dEP）
AFフレーム選択モード（[ ]，SEL）
FEロック（FEL）
データ処理中（buSY）
エラー表示（Err）

撮影可能コマ数（1999 ～ 0）
ISO感度
（200 ～ 1600，L，H）
セルフタイマー作動表示
（10 ～ 1）
バルブ露光時間（時間）（1～ 23）
エラー番号

ISO表示

AFモード
ONE SHOT
ワンショットAF
AI SERVO
AIサーボAF



露出段数目盛

バッテリー
チェックマーク

PFマーク

ストロボ調光補正

AEB

ドライブモード
1コマ撮影
H 高速連続撮影
L 低速連続撮影
10 セルフタイマー（10秒）
2 セルフタイマー（2秒）

露出補正レベル
AEBレベル
ストロボ調光補正レベル
CFカード書き込み経過

上の図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分のみ表示されます。

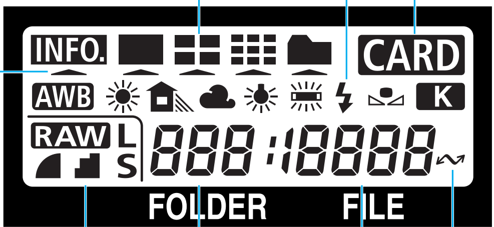
背面表示パネル

液晶モニター表示形式
INFO. 1コマ表示（情報表示あり）
1コマ表示
4コマインデックス表示
9コマインデックス表示
フォルダモード
（フォルダの選択／作成）

ホワイトバランス
AWB オート
太陽光
日陰
くもり
電球
蛍光灯
ストロボ
マニュアル
K 色温度

CARD CFカードマーク

選択マーク



記録画質
L ラージ／ファイン
L ラージ／ノーマル
S スモール／ファイン
RAW ロウ

通信マーク＊

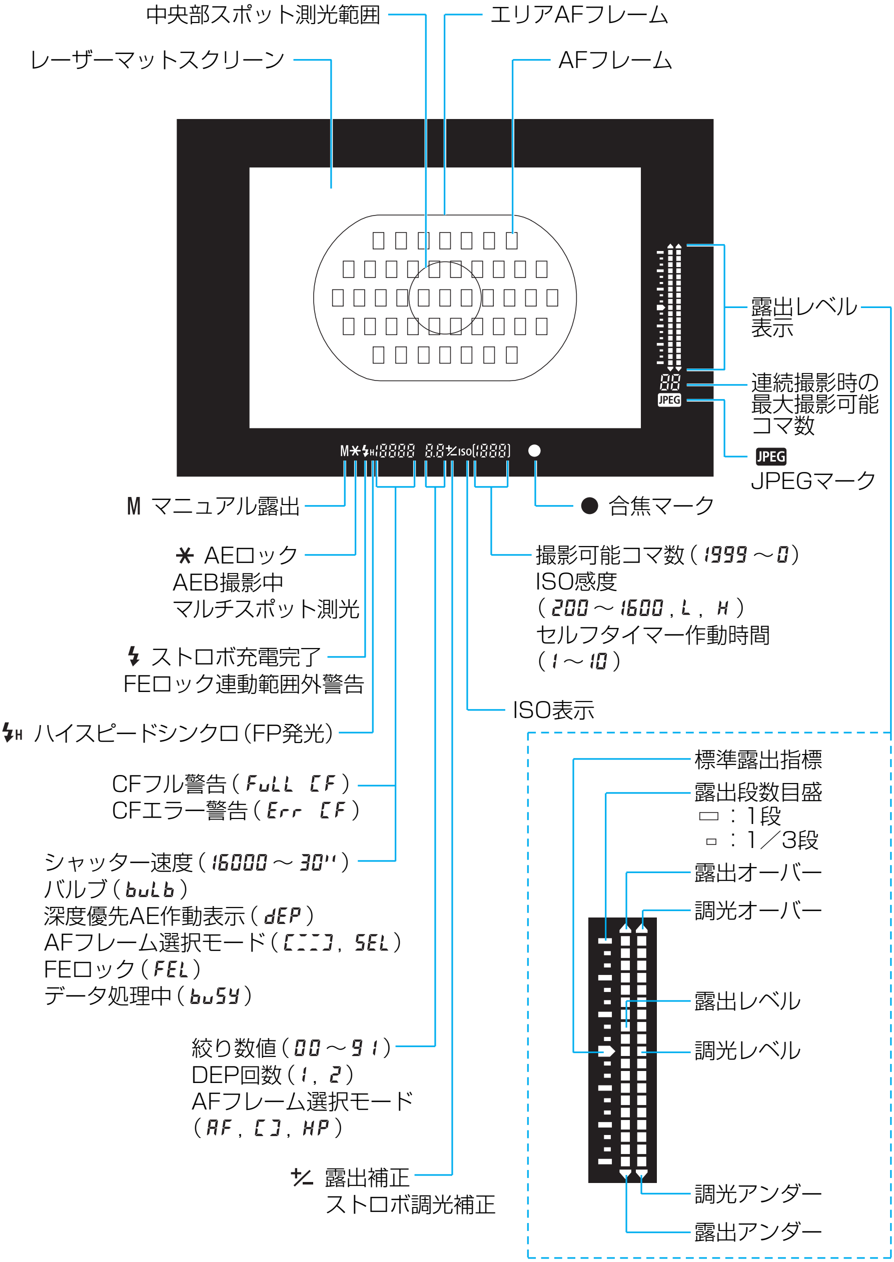
ホワイトバランス
ブラケティングレベル

フォルダ番号（100～999）

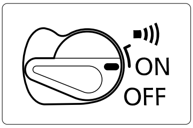
ファイル番号
（0001～9999）
色温度数値（2800～10000）
カスタムホワイトバランス＊
（PC-1～PC-3）

上の図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分のみ表示されます。
＊の表示は、付属のソフトウェア関連の表示です。

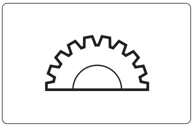
ファインダー内表示


中央部スポット測光範囲
エリアAFフレーム
レーザーマットスクリーン
AFフレーム
露出レベル表示
連続撮影時の最大撮影可能コマ数
JPEG
JPEGマーク
M マニュアル露出
● 合焦マーク
AEロック
AEB撮影中
マルチスポット測光
撮影可能コマ数（1999～0）
ISO感度
（200～1600，L，H）
セルフタイマー作動時間
（1～10）
ストロボ充電完了
FEロック連動範囲外警告
ISO表示
H ハイスピードシンクロ（FP発光）
標準露出指標
露出段数目盛
：1段
：1／3段
CFフル警告（FuLL CF）
CFエラー警告（Err CF）
露出オーバー
調光オーバー
シャッター速度（16000～30"）
バルブ（buLb）
深度優先AE作動表示（dEP）
AFフレーム選択モード（[‐‐‐]，SEL）
FEロック（FEL）
データ処理中（buSY）
露出レベル
調光レベル
絞り数値（00～91）
DEP回数（1，2）
AFフレーム選択モード
（AF，[ ]，HP）
露出補正
ストロボ調光補正
調光アンダー
露出アンダー

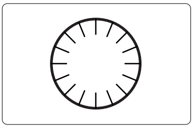
本使用説明書上のお断り



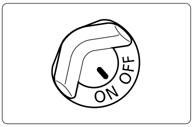
- 本文中の〈〉はメインスイッチを示しています。
  〈〉スイッチが〈ON〉になっていることを前提に、それぞれの操作方法を説明しています。各操作をする前に、先ず最初に〈〉スイッチを〈ON〉か〈〉にしてください。



- 本文中の〈〉はメイン電子ダイヤルを示しています。



- 本文中の〈〉はサブ電子ダイヤルを示しています。



- 本文中の〈〉はサブ電子ダイヤルスイッチを示しています。
  〈〉操作は、〈〉スイッチが〈ON〉になっていることを前提に操作方法を説明しています。操作する前に〈ON〉になっていることを確認してください。

- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。『各部の名称』(→14) を参照してください。
- (→＊＊)の＊＊部は参照ページを示しています。
- 本書では、EF50mm F1.4 USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- メニュー機能およびカスタム機能は、初期状態を前提に説明しています。
- (6)／(16)はボタンから指を離しても、その状態がタイマーによりそれぞれ6秒間／16秒間保持されることを示しています。
- 作例写真は、原則として35mmフィルム使用の一眼レフカメラで撮影したものを使用しています。
- 本文中の以下のマークがついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。

  ：撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。

  ：基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

  ：カメラ操作上あるいは撮影時のヒントが書かれています。

  C.Fn：それぞれの機能に関するカスタム機能の簡単なガイドが書かれています。
  詳細については『カスタム機能で変更できる内容』(→133) を参照してください。

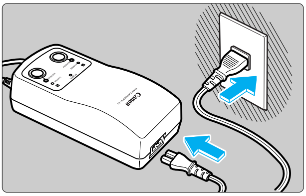
1 使用前の準備と基本操作

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、EOS-1Dの操作の基本について説明しています。

バッテリーを充電する

バッテリーを充電します。

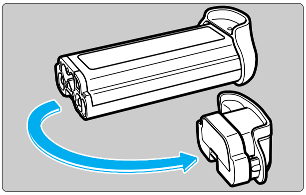
- バッテリーの詳しい取り扱い操作については、付属のニッケル水素パックNP-E3の使用説明書を参照してください。
- バッテリーの充放電に関する詳しい取り扱い操作については、付属のニッケル水素チャージャーNC-E2の使用説明書を参照してください。



1 電源コードを接続する

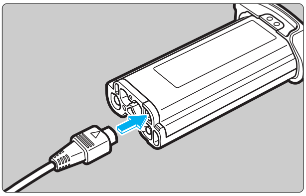
- 電源コードをチャージャーに接続します。
- プラグをコンセントに差し込みます。

➡ 〈POWER〉ランプが点灯します。



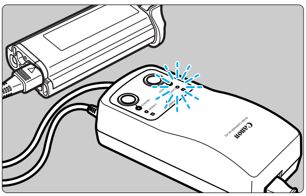
2 保護カバーを外す

- 外したカバーはバッテリー室キャップに取り付けて保管してください。
- バッテリーをカメラから取り外したときは、ショート防止のため必ず保護カバーを取り付けてください。



3 バッテリーを接続する

- 充放電端子に充放電プラグを差込みます。
- 充放電プラグは、A、Bどちらを使用しても充電できます。



4 充電する

➡ バッテリーを接続すると自動的に充電が始まり、〈**CHARGE**〉ランプが点灯します。

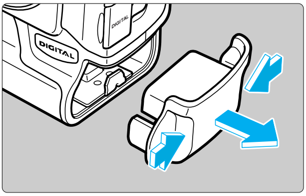
➡ 充電が完了すると速い点滅（1秒に2回）に変わります。

➡ **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、バッテリー1本あたり約120分です。**

- 充電が終わったら、バッテリーを外し、電源コードをコンセントから抜いてください。

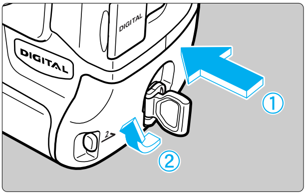
バッテリーを入れる／取り出す

入れ方



1 バッテリー室キャップを取り外す

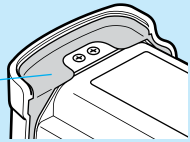
- キャップの両脇をつまんで引き出します。
- バッテリー室キャップには、バッテリーの保護カバーを取り付けることができます。外したキャップはなくさないよう、大切に保管してください。



2 バッテリーを入れる

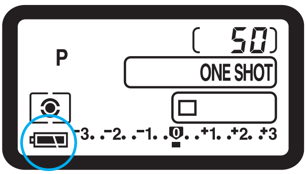
- バッテリーを押しながら、着脱つまみを矢印方向に回して入れます。

> バッテリーの防滴パッキンにゴミなどが付着している場合は、湿らせた綿棒などで取り除いてください。



バッテリーチェックについて

バッテリーを交換したときや撮影の前などには、バッテリーの容量を確認してください。



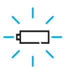
〈 〉スイッチを〈ON〉にする

➡ 〈 〉スイッチを入れると自動的にバッテリーチェックが行われ、表示パネルにバッテリーチェックマークが表示されます。

 ：バッテリーの容量は十分です。

 ：残量が少なくなっています。

 ：もうすぐバッテリー切れになります。

 ：バッテリーを充電してください。

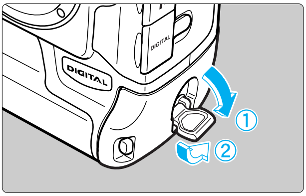
撮影コマ数について

温　度	撮影コマ数
常　温（+20℃）	約500
低　温（0℃）	約350

- 撮影コマ数は、当社試験基準によります。
  (フル充電のバッテリー、EF50mm F1.4 USM、撮影画像の確認 [**入**]、撮影画像の確認時間 [**2秒**]、記録画質 [RAW ＋ L ◢] で撮影・記録)

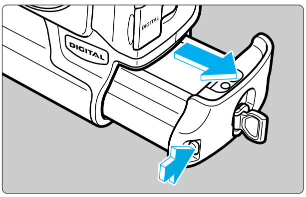
- 実際の撮影条件との違いにより、撮影コマ数は表記数値よりも少なくなる場合があります。
- 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影コマ数は少なくなります。
- シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AFのみ行って撮影しないという操作を頻繁に行なうと、撮影コマ数が少なくなります。
- 低温下（0℃）での撮影コマ数は、表記数値よりも少なくなる場合があります。

取り出し方



1 着脱つまみを開き位置まで回す

- 着脱つまみをおこし、矢印方向に回します。



2 バッテリー取り外しボタンを押す

- 取り外しボタンを押し、バッテリーを引き出します。

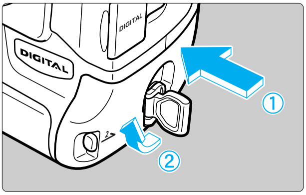
Ni-MH

使用後はリサイクルへ

ニッケル水素電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。
リサイクルについては、ご購入販売店にお問い合わせください。

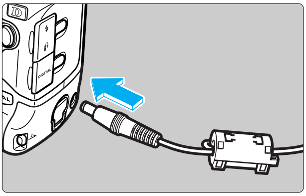
家庭用電源を使用する

DCカプラーキットを使うと、家庭用電源を使用してカメラを使うことができます。家庭用電源を使用すると、バッテリーの残量を気にせずに撮影を行うことができます。



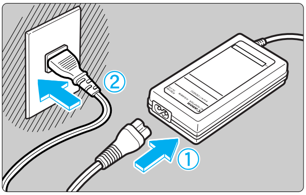
1 DCカプラーを入れる

- カプラーを押しながら、着脱つまみを矢印の方向に回して入れます。



2 DCプラグを接続する

- ACアダプターのプラグをDC端子に接続します。



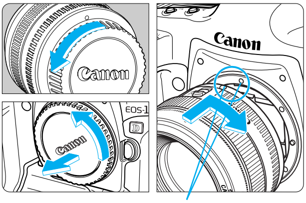
3 電源コードを接続する

- 電源コードをACアダプターに接続します。
- プラグをコンセントに差し込みます。
- 使い終わったら、カメラの〈 〉スイッチを〈OFF〉にしてからDCプラグを抜いてください。

- 付属のDCカプラーキット以外は使用しないでください。
- DCカプラーキットは、このカメラ以外で使用しないでください。
- DCカプラーは防滴構造になっていませんので、屋外で使用するときは、濡らさないよう注意してください。
- カメラの〈 〉スイッチが〈ON〉の状態でDCプラグ、またはACアダプターの電源コードを抜かないでください。カメラが作動しなくなることがあります。作動しなくなった場合、カメラからDCカプラーを取り出して、再度入れ直すと正常な状態に戻ります。

レンズを取り付ける／取り外す

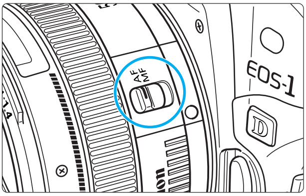
取り付け方



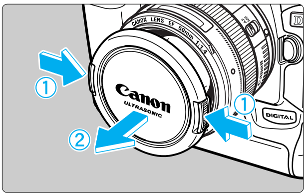
レンズ取り付け指標

1 **キャップを外す**
- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2 **レンズを取り付ける**
- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

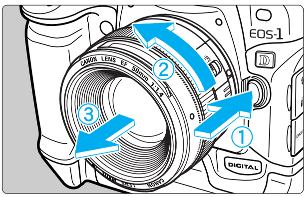


3 **レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする**
- 〈**MF**〉(あるいは〈**M**〉)になっているとオートフォーカスできません。



4 **レンズキャップを外す**

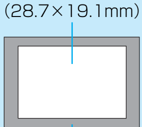
取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印方向に回す
- レンズ取り付け指標が真上になるまで回してから、外してください。

- EOS-1Dの有効画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さい(右図)ため、EOS-1Dに装着したEFレンズの有効撮影画角は、「表示焦点距離×約1.3倍」相当になります。
- **AF**はAuto Focus(オートフォーカス)の略で自動焦点のことです。
- **MF**、**M**はManual Focus(マニュアルフォーカス)の略で手動焦点のことです。
- 外したダストキャップ、ボディキャップ、レンズキャップはなくさないように保管してください。

EOS-1D撮影画面
(28.7×19.1mm)

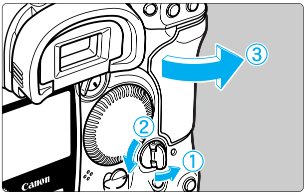


35mm判フィルム撮影画面
(36×24mm)

CFカードを入れる／取り出す

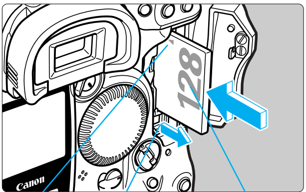
撮影した画像は、CFカードに保存されます。
このカメラで使用できるCFカードは、16MB以上のタイプ I、タイプ IIのCFカードです。
ラージ／ファイン以上の高画質で撮影される場合は、64MB以上の大容量CFカードの使用をおすすめします。

入れ方



1 カバーを開く

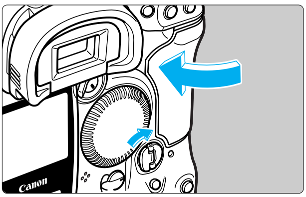
- 開放つまみをおこし、矢印方向に回して開きます。



2 CFカードを入れる

- CFカードのラベル面（〈◄〉マーク印刷側）を左側にして、〈◄〉マークの矢印の向きにしっかりと奥まで差し込みます。

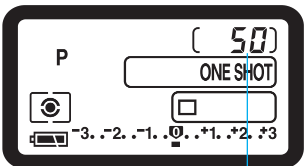
➡ CFカード取り出しボタンが飛び出します。



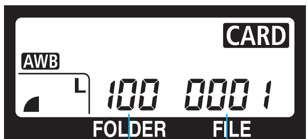
3 カバーを閉じる

- 開放つまみが元の位置に戻るまでカバーを押します。
- 〈 〉スイッチを〈ON〉にすると、上面表示パネルとファインダー内に撮影可能コマ数が表示されます。また、背面表示パネルには、ファイル番号が表示されます。

上面表示パネル



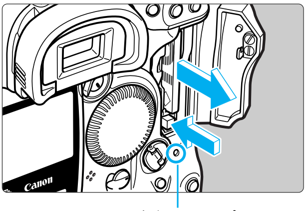
背面表示パネル



- 撮影可能コマ数表示は、使用されるCFカードの空き容量や、設定したISO感度によって変動します。
- ファイル番号表示は、ファイル番号の設定方式（→56）によって異なります。ファイル番号・オートリセットのときは、選択中のフォルダに入っている画像の最大ファイル番号を表示します。通し番号のときは、最後に撮影された画像のファイル番号を表示します。

C.Fn 撮影可能コマ数表示をISO感度表示にしたり、ファイル番号表示を撮影可能コマ数表示に変更することができます。（C.Fn-08→135）

取り出し方



アクセスランプ

1 カバーを開く

- 〈⊖〉スイッチを〈OFF〉にします。
- 表示パネルに「buSY」が表示されていないことを確認します。
- アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。

2 CFカードを取り出す

- CFカード取り出しボタンを押し込みます。

➡ CFカードが出てきます。

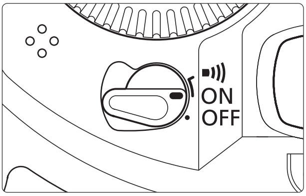
- カバーを閉じます。

- **アクセスランプ点滅中（ファインダー内および表示パネルに「buSY」表示）は、絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。また、場合によってはカメラ本体が破損する原因となります。**
  - **・カメラ本体に振動や衝撃を与える**
  - **・CFカードスロットカバーを開く**
  - **・バッテリーを取り外す**
- CFカードへ記録画像が書き込まれているとき（アクセスランプ点滅中）は、メニュー機能の操作はできません。このとき〈MENU〉ボタンを押すと、液晶モニターに［**処理中...**］の警告が表示されます。
- 初めて使用されるCFカードや、表示パネルに「Err CF」が表示された場合は、『CFカードを初期化する』（→126）を参照してフォーマットしてください。
- 8MB以下のCFカードは使用しないでください。画像サイズが大きくなると、CFカードに保存できないことがあります。
- マイクロドライブは、ハードディスクを使用した記録媒体であり、大容量な上に、1MBあたりの単価が安いという利点があります。しかし、フラッシュメモリーを搭載したCFカードに比べると振動や衝撃に弱いので、マイクロドライブをお使いになるとき、特に記録や再生中は、カメラに振動や衝撃を加えないよう、十分にご注意ください。

操作の基本

メインスイッチ

このカメラは〈⊜〉を入れて初めて作動します。〈⊜〉には次の3つの設定位置があります。



〈OFF〉: カメラは作動しません。
カメラを使用しないときはこの位置にします。

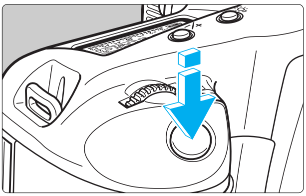
〈ON〉：カメラを作動させるときはこの位置にします。

〈■)))〉：〈ON〉と同じですが、次の状態では電子音が鳴ります。
- ワンショットAFでピントが合ったとき。
- 手動ピント合わせでピントが合ったとき。

- バッテリーの消耗を防ぐため、約1分間、何も操作しないと自動的に電源が切れます。（→130）再度、カメラを使用するには、シャッターボタンを半押ししてください。
- 撮影直後に〈⊜〉を〈OFF〉にすると、CFカードへの画像記録を行うため、数秒間アクセスランプが点滅する場合があります。CFカードへの画像記録が終了すればアクセスランプは消え、自動的に電源が切れます。

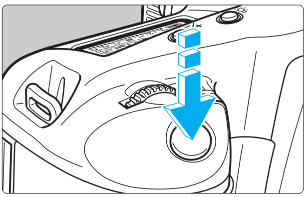
シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。



半押し（⏱6）

AF（オートフォーカス）によるピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッター速度と絞り数値）は表示パネルとファインダー内に表示されます。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。

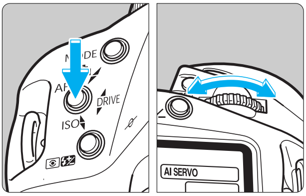
シャッターボタン半押し後のタイマー（⏱6）が切れた状態から撮影するときは、シャッターボタン半押し後、一呼吸置いてから全押ししてください。シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。

カメラがどんな状態（画像再生中、メニュー選択中、画像記録中など）にあっても、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

電子ダイヤルによる機能の選択と設定

〈 〉による基本操作

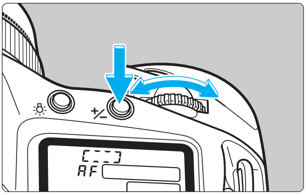
〈 〉は撮影に関する設定にのみ使用します。基本操作には、次の3とおりがあります。



（1）ボタンを押したまま、表示パネルを見ながら〈 〉を回す

ボタンから指を離すと選択した内容が設定され、撮影準備状態に戻ります。

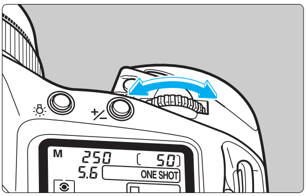
- 撮影モード、AFモード、測光モード、ドライブモード、ISO感度、AEBの設定に使用します。



（2）ボタンを押した後、〈 〉を回す

ボタンを押すとその機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈 〉を回します。タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると撮影準備状態に戻ります。

- AFフレームの選択と〈+/−〉ボタンを使用した露出補正の設定に使用します。



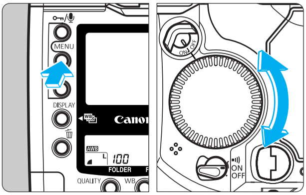
（3）〈 〉のみを回す

表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値などの設定に使用します。

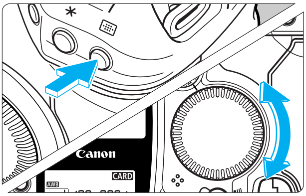
〈○〉による基本操作

AFフレーム選択などの撮影準備操作と液晶モニター内容の選択・設定に使用します。撮影準備操作での〈○〉は、〈○〉スイッチが〈ON〉になっているときのみ働きます。
〈○〉による基本操作には、次の3とおりがあります。



(1) ボタンを押したまま、〈○〉を回す

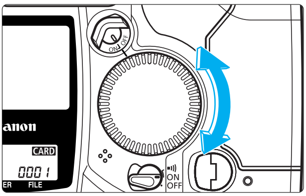
- メニュー機能の選択・設定やストロボ調光補正などに使用します。ボタンから指を離すと選択した内容が設定されます。
- 液晶モニター使用時は、記録画像の確認や選択などに使用します。



(2) ボタンを押した後、〈○〉を回す

ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈○〉を回します。
タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると撮影準備状態に戻ります。

- AFフレームの選択や露出補正などに使用します。



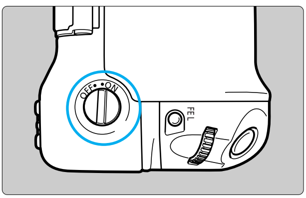
(3) 〈○〉のみを回す

撮影時は、ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈○〉を回します。

- 撮影時は、マニュアル絞り数値の設定に使用します。

縦位置撮影時の操作

ボディ下部には、縦位置撮影用のシャッターボタン、メイン電子ダイヤル、AFフレーム選択ボタン、AEロックボタン、アシストボタン、FEロック／マルチスポット測光ボタンが配置されています。

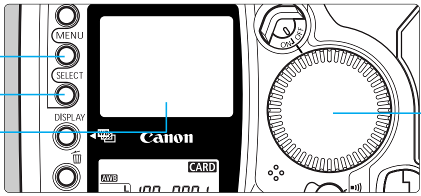


- 縦位置撮影用・操作部材を使用するときは、縦位置操作ON／OFFスイッチを〈ON〉にします。
- 使用しないときには、操作部材が誤って作動しないよう、縦位置操作ON／OFFスイッチを〈OFF〉にします。

1 準備と基本操作

メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、RAW画像とJPEG画像の同時記録や、日付時刻、カスタム機能など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。基本操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈SELECT〉ボタン、〈◎〉を使って、次の手順で行います。
メニュー機能に関する詳しい内容については『メニューによる機能設定』（→127）を参照してください。



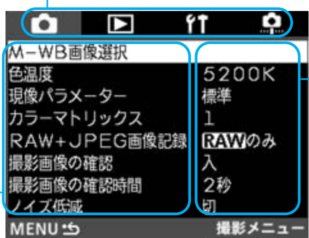
メニュー機能・操作早わかり

1 メニュー画面を表示する
〈MENU〉ボタンを押す。

2 タグ（ ）を選ぶ
〈MENU〉＋〈◎〉で選択。

	撮影系
	再生系
	セットアップ系
	カスタム／パーソナル機能

3 メニュー項目を選ぶ
〈SELECT〉＋〈◎〉で選択。
選んだら〈SELECT〉ボタンから指を離す。



4 メニュー内容を選ぶ
〈SELECT〉＋〈◎〉で選択。
〈SELECT〉ボタンから指を離すと選んだ内容が即、設定されます。
〈MENU〉ボタンで終了。

タグ名称

このマークのある画面で〈MENU〉ボタンを押すと、ひとつ上の階層画面に切り換わります。

メニュー機能の詳しい説明

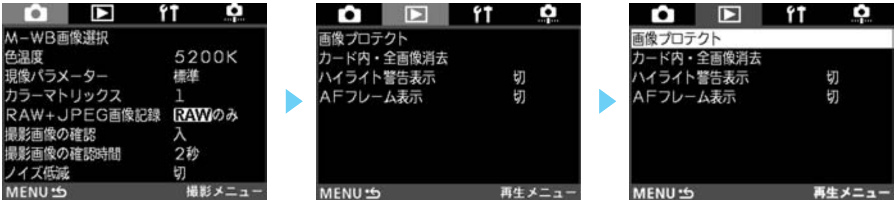
1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。もう一度押すと表示が消えます。
- メニューが表示された状態で次の手順に進んでください。



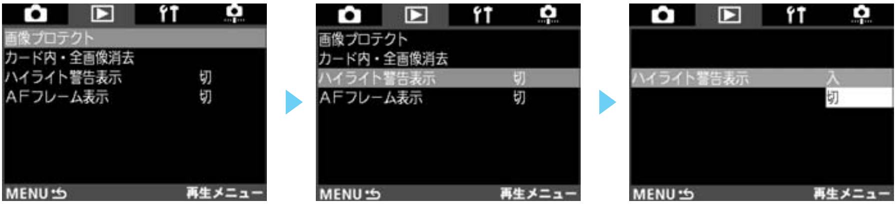
2 タグ（　）を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◎〉を回してタグを選び、〈MENU〉ボタンから指を離します。



3 メニュー項目を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回してメニュー項目を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



4 メニュー内容を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回してメニュー内容を選び、**〈SELECT〉ボタンから指を離すと選んだ内容が即、設定されます。**

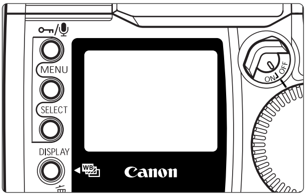


5 終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えてメニューが終了します。

> - 手順1で〈MENU〉ボタンを押し続けると、メニュー表示後、〈◎〉ですぐにタグを選ぶことができます（〈MENU〉ボタンは〈◎〉操作中も押し続けます）。
> - メニュー画面を表示している状態でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。
> - メニューの終了は、シャッターボタン半押しでも行えます。
> - 日本語以外の表示形式を4種類選ぶことができます。（→131）
> - 撮影した画像に記録される日付／時刻が正しく設定されているかご確認ください。（→148）

液晶モニターについて

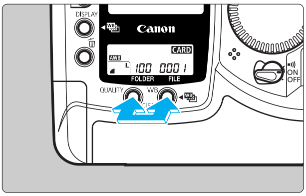


背面の液晶モニターは、記録画像の確認や選択、メニュー機能の選択・設定に使用します。

- 液晶モニター使用時は、〈 〉スイッチが〈OFF〉でも〈 〉を使用することができます。
- 液晶モニターをファインダーとして見ながら撮影することはできません。

液晶モニターの明るさを変えることができます。(→130)

カメラの各機能設定を初期状態にするには



〈QUALITY〉ボタンと〈WB〉ボタンを2秒間、同時に押す

➡ カメラの状態は次の表のようになります。

撮影機能関係

撮影モード	〈**P**〉プログラムAE
AFモード	ワンショットAF
測光方式	評価測光
ドライブモード	1コマ撮影
AFフレームの選択	自動選択
露出補正	0(ゼロ)
ストロボ調光補正	0(ゼロ)
AEロック	解除
FEロック	解除
AEB撮影	解除
カスタム機能	設定状態のまま
AFフレームの登録	中央AFフレーム

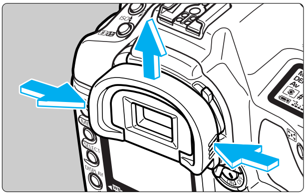
記録画像関係

記録画質	**L** ◢(ラージ/ファイン)
ホワイトバランス	AWB(オート)
ホワイトバランスブラケティング撮影	解除
現像パラメーター	標準
カラーマトリックス	1

この操作をすると、〈**P**〉プログラムAEで自動撮影を行う準備が自動的に完了します。(→82)

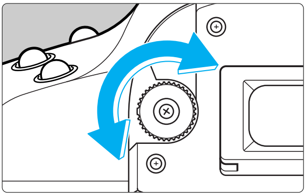
鮮明なファインダーに調整する

ファインダー内が鮮明に見えるように調整します。視度調整することによってメガネを使用している方でもメガネをかけずにファインダー内をはっきり見ることができます。調整は、－3～＋1dptの範囲で行うことができます。



1 アイカップを外す

- アイカップの両脇をつまんだまま引き上げて取り外します。



2 視度調整つまみを回す

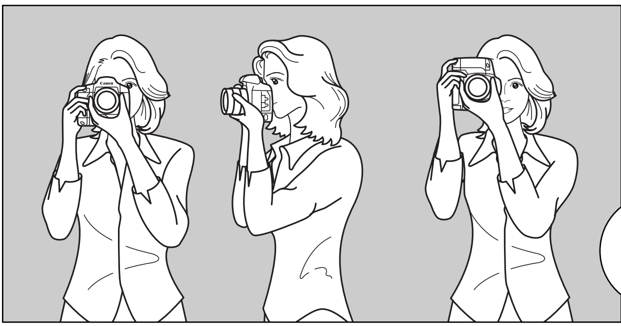
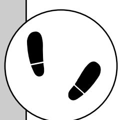
- ファインダー内のAFフレームまたは中央部スポット測光範囲マークが最も鮮明に見えるようにつまみを右または左に回します。

3 アイカップを接眼部に取り付ける

視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズE（10種）のご利用をおすすめします。（→167）

カメラの構え方

鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。

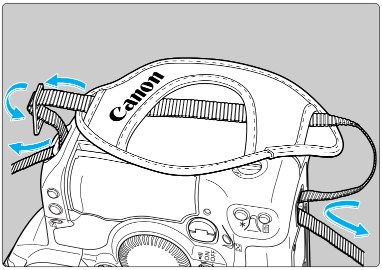
横位置　　縦位置

- カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体につけます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを額につけるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 両足はそろえずに、片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

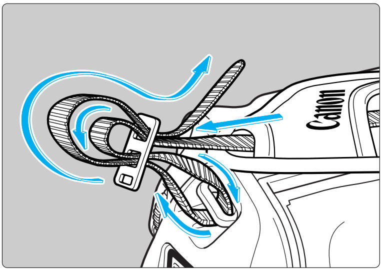
ストラップ／ハンドストラップの付け方

ハンドストラップを取り付ける

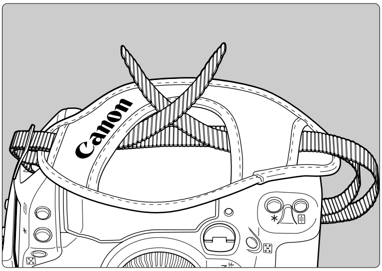
1



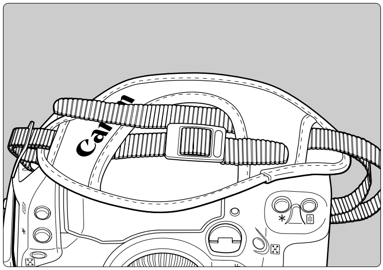
2



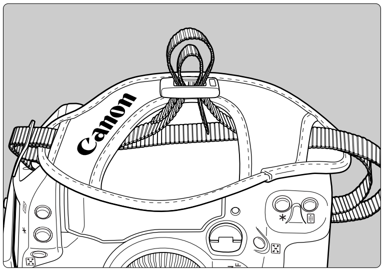
3



4

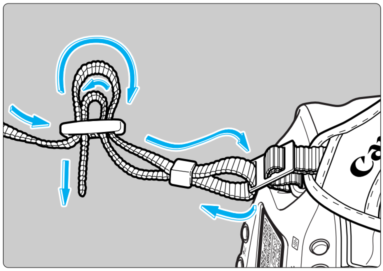


5



ストラップを取り付ける

6



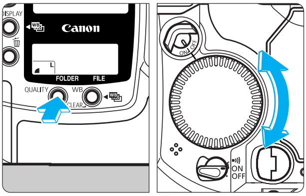
取り付け終わりましたら、ストラップを引っ張っても止め具の部分でゆるまないことを確認してください。

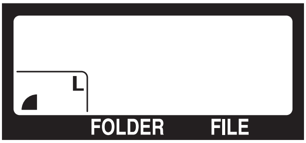
撮影画像に関する設定

この章では、記録画質、ホワイトバランス、ISO感度、現像パラメーター、撮影直後の画像確認、撮影画像の確認時間、フォルダの作成と選択、ファイル番号といった、撮影に関わるデジタルカメラ特有の機能設定について説明します。

MENU 記録画質の選択

撮影する画像の「記録画質」は、以下の4種類から選ぶことができます。
〈L ◢〉、〈L ▟〉、〈S ◢〉は撮影後の現像処理が必要ありません。〈RAW〉は撮影後、コンピューターで現像処理を行います。





記録画質を選ぶ

- 〈QUALITY〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望する記録画質を選び、〈QUALITY〉ボタンから指を離します。
- JPEG記録形式の〈L ◢〉、〈L ▟〉、〈S ◢〉を選択すると、ファインダー内・右に〈JPEG〉が表示されます。

L ◢ ラージ／ファイン

約406万画素の画像を低圧縮でJPEG記録します。JPEG画像を最高画質で記録したいときに選択します。なお、1コマあたりの画像サイズが大きいため、撮影できるコマ数は少なくなります。

L ▟ ラージ／ノーマル

約406万画素の画像を高圧縮でJPEG記録します。比較的高画質なJPEG画像を記録しながら、記録できるコマ数を多くしたいときに選択します。

S ◢ スモール／ファイン

約406万画素の画像を、約100万画素に変換して低圧縮でJPEG記録します。画像サイズよりも撮影できるコマ数を優先したいときに選択します。

RAW ロウ

約415万画素の画像を、画像劣化のない圧縮方式でRAW記録します。記録した画像の処理をコンピューターで行いたいときに選択します。なお、1コマあたりの画像サイズが大きいため、撮影できるコマ数は少なくなります。

現像処理について

撮像素子の生（RAW）データをデジタル化して、ホワイトバランスや画質調整することを現像処理といいます。〈L ◢〉、〈L ▟〉、〈S ◢〉はカメラ内部で現像処理され、JPEG形式で記録されます。〈RAW〉画像の現像処理は、撮影時に設定されていたカラーマトリックス、ホワイトバランス、現像パラメーターの内容で行われます。なお、現像処理は、付属のソフトウェアを用いて何回でもやり直すことができます。

記録画質に対する1コマのサイズと撮影可能コマ数の目安

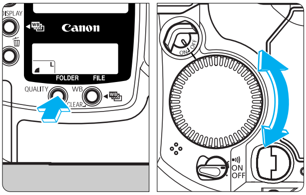
記録画質	画像サイズ（記録画素数）	記録形式	圧縮率	1コマのサイズ（約MB）	撮影可能コマ数（約コマ）
L ◢ ラージ／ファイン	2464×1648（約406万）	JPEG	低圧縮	2.4	47
L ▟ ラージ／ノーマル			高圧縮	1.3	89
S ◢ スモール／ファイン	1232×824（約100万）		低圧縮	1.1	109
RAW ロウ	2496×1662（約415万）	ロスレス圧縮RAW		4.8	22
RAW ＋ L ◢	–	RAW＋JPEG		7.2	13
RAW ＋ L ▟				6.1	16
RAW ＋ S ◢				5.9	17

- 撮影コマ数は、128MBのCFカード／FC-128M（別売品）使用時のコマ数です。
- 1コマのサイズと撮影コマ数は、当社試験基準によります。（ISO200設定時）
- 1コマのサイズ、記録コマ数は被写体、撮影モード、ISO感度により異なります。
- ご使用になるCFカードの撮影可能コマ数は、上面表示パネル（→27）で確認することができます。
- RAW＋L ◢／L ▟／S ◢では、RAW画像とJPEG画像を同時に記録することができます。（→40）

- RAW形式で記録した画像をコンピュータで開くには、付属のソフトウェアが必要です。詳しくは、付属の「EOS-1D ソフトウェア使用説明書」を参照してください。
- ISO感度（→49）を高くすると画像に含まれるノイズ成分が多くなるため、1コマのサイズが大きくなり、撮影コマ数が減少します。撮影コマ数は、上面表示パネルで確認することができます。（→27）

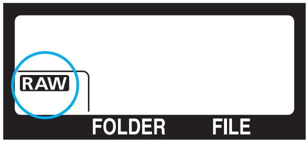
MENU RAW画像とJPEG画像の同時記録

記録画質を〈RAW〉に設定したときに、RAW画像と同時にJPEG画像を記録することができます。
画像劣化がなく、使用目的に最適な現像処理を行うことができるRAW画像と、撮影後の現像処理が不要で即時性に優れるJPEG画像の2種類を同時記録したいときに有効です。



1 [RAW] を選ぶ

- 〈QUALITY〉ボタンを押しながら〈○〉を回して〈RAW〉を選び、〈QUALITY〉ボタンから指を離します。





2 メニューから [RAW+JPEG画像記録] を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈○〉を回して、〈📷〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈○〉を回して[**RAW+JPEG画像記録**]を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



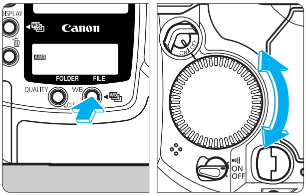
3 同時記録するJPEG形式を設定する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈○〉を回して希望するJPEG形式を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 撮影すると、RAW画像とJPEG画像が同時に記録されます。
- 同時記録をやめるときは、メニュー内容の[**RAWのみ**]を選択します。

- RAWとJPEG画像の同時記録を設定すると、ファインダー内の〈JPEG〉は表示されません。また、背面表示パネルには、同時記録されるJPEG記録画質(〈**L** ◢〉、〈**L** ▟〉、〈**S** ◢〉)は表示されません。
- 同時記録された画像は、同じファイル番号で、拡張子が異なります。JPEG画像には「JPG」、RAW画像には「TIF」の拡張子が付きます。
- 同時記録設定中でも、前ページの〈**L** ◢〉、〈**L** ▟〉、〈**S** ◢〉選択は変わらずに行うことができます。

WB ホワイトバランスの選択

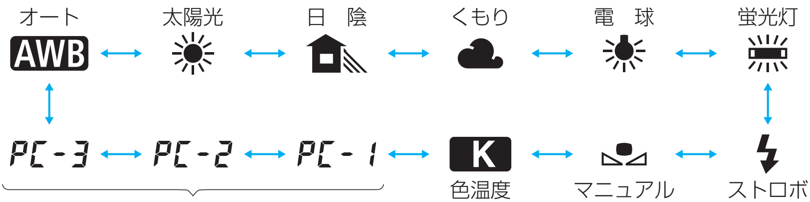
ホワイトバランスは、オート、太陽光、日陰、くもり、電球、蛍光灯、ストロボ、マニュアル、色温度、カスタムホワイトバランス（付属のソフトウェアで設定→45）の中から選ぶことができます。





ホワイトバランスを選ぶ

- 〈WB〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望するホワイトバランスを選び、〈WB〉ボタンから指を離します。



カスタムホワイトバランス（→45）
カメラに登録されていないときは表示されません。

ホワイトバランスについて

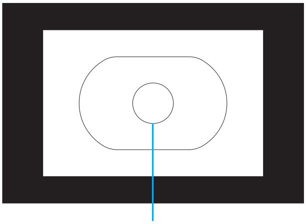
光源中に含まれるRGB3原色（赤・緑・青）の構成比は、色温度によって変化します。色温度が高い場合は、青の要素が強くなり、色温度が低い場合は、赤の要素が強くなり、赤→オレンジ→黄→白→青白と変化していきます。例えば、白熱電球下で白い被写体を撮影すると赤みを帯びた画像になり、蛍光灯下では緑っぽい画像になります。
人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。従来のフィルムを使用するカメラでは、色補正のフィルターをつけたり、フィルムを交換して調整しますが、デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、被写体に含まれる色の基準となる白を決め、白を基準に色を補正して自然な色合いで撮影することができます。
このカメラの〈AWB〉は、撮像素子と外部ホワイトバランス測光部を使用して行います。外部ホワイトバランス測光部がふさがれても〈AWB〉は行われますが、ふさがないときの〈AWB〉に比べて、ホワイトバランスが異なる場合があります。希望どおりの画像が撮影できないときは、〈AWB〉以外に設定して撮影してください。

ホワイトバランスの種類

マーク	設定条件	色温度／K（ケルビン）
AWB	カメラの設定にまかせて撮影するときに選びます。	約3000～7000
	晴天の屋外で撮影するときに選びます。	約5200
	屋外の日陰で撮影するときに選びます。	約7000
	曇天や日陰、薄暮、夕焼け空などで撮影するときに選びます。	約6000
	白熱電球の照明で撮影するときに選びます。	約3200
	白色蛍光灯の照明で撮影するときに選びます。	約4000
	ストロボを使用して撮影するときに選びます。	約5600
	基準となる白い被写体を撮影し、この画像からホワイトバランスデータを取り込むことで、その場の撮影環境に最適なホワイトバランスを設定することができます。（→43）	約2000～10000
K	ホワイトバランスの色温度を2800～10000K（100Kステップ）の範囲で直接設定することができます。（→44）	約2800～10000
PC-1 PC-2 PC-3	付属のソフトウェアで設定したホワイトバランスデータをカスタムホワイトバランスとして3つ登録することができます。（→45） （カメラに登録されていないときは表示されません）	－

MENU マニュアルホワイトバランス

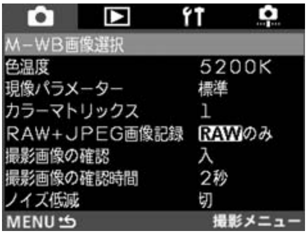
マニュアルホワイトバランスは、ホワイトバランスの基準となる白い被写体を撮影し、この画像を選ぶことでホワイトバランスデータを取り込み、ホワイトバランスを設定します。



中央部スポット測光範囲マーク

1 白い被写体を撮影する

- 中央部スポット測光範囲の領域全体に、白い被写体がくるようにします。
- 白い被写体が標準露出になるよう撮影します。露出がアンダー、またはオーバーになると正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。



2 メニューから [M-WB画像選択] を選ぶ

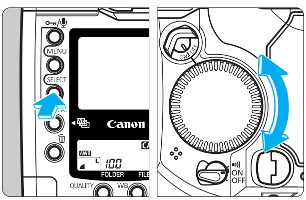
- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して、〈📷〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して [M-WB画像選択] を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ 9コマインデックス表示になります。



3 画像を選ぶ

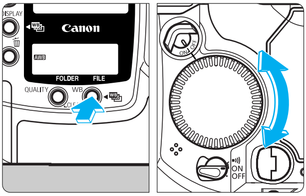
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して希望する画像を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- EOS-1D以外で撮影した画像は選択できません。

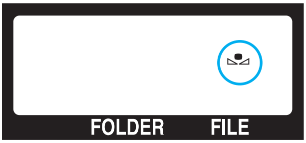




4 設定する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して [OK] を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ ホワイトバランスデータが取り込まれます。





5 マニュアルホワイトバランスを選ぶ

- 〈WB〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して〈 〉を選び、〈WB〉ボタンから指を離します。
- ➡ マニュアルホワイトバランスが設定されます。

- 基準となる白い被写体には、無地の白い紙などをおすすめします。
- 各撮影環境で撮影した白い被写体の画像をCFカード内に記録しておき、撮影の際に、この撮影画像を［**M-WB画像選択**］で選ぶことで各撮影環境に最適なホワイトバランスを簡単に設定することができます。

MENU 色温度を直接設定する

ホワイトバランスの色温度を2800～10000K（100Kステップ）の範囲で設定することができます。



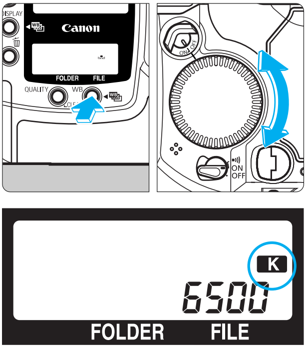
1 メニューから［色温度］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して、〈 〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**色温度**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



2 色温度を設定する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望する色温度に設定し、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- 設定できる色温度範囲は、2800から10000K（100Kステップ）です。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、メニューが終了します。



3 色温度を選ぶ

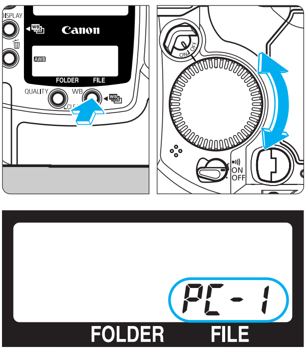
- 〈WB〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して〈K〉を選び、〈WB〉ボタンから指を離します。

➡ 色温度が設定されます。

> ● 〈K〉は、自然光の色温度を設定するときに使用してください。人工光源の色温度を設定すると、正確なホワイトバランスが得られないことがあります。
> ● カラーメーターで測定した色温度数値を〈K〉に設定する場合は、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

カスタムホワイトバランスを設定する

カスタムホワイトバランスとは、付属のソフトウェア上で、任意に設定したホワイトバランスのことです。より厳密なホワイトバランス設定ができますので、一定光源下での撮影を繰り返し行うスタジオ撮影などに適しています。詳しくは、付属の「EOS-1D ソフトウェア使用説明書」を参照してください。



登録されたカスタムホワイトバランスを選ぶ

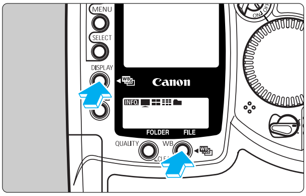
- 〈WB〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して、[PC-1]、[PC-2]、[PC-3]のいずれかを選び、〈WB〉ボタンから指を離します。

➡ カスタムホワイトバランスが設定されます。

2
画像に関する設定

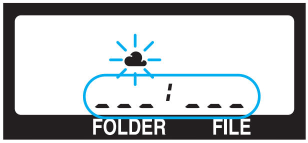
ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

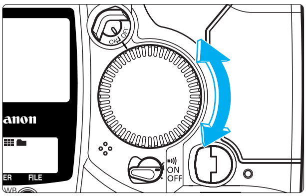
設定しているホワイトバランスモードの標準色温度から、1段ステップ、±3段の範囲で、自動的に色温度を変えながら3コマの画像を撮影することができます。これをホワイトバランスブラケティング撮影といいます。1段は、色温度変換フィルターの5ミレッドに相当します。設定したドライブモード（→99）で、標準色温度、青色寄りに補正（マイナス補正）、赤色寄りに補正（プラス補正）の順に撮影します。

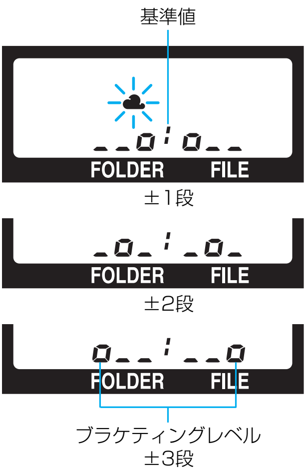


1 〈DISPLAY〉ボタンと〈WB〉ボタンを同時に押す

➡ 背面表示パネルに〈- - - ' - - -〉が表示されます。







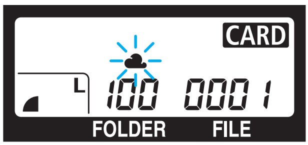
2 ブラケティングレベルを設定する

- 〈DISPLAY〉ボタン、〈WB〉ボタンのどちらか1つから指を離して〈⌾〉を回します。

➡ 背面表示パネルにブラケティングレベルが表示され、選択しているホワイトバランスのマークが点滅します。

- ブラケティングレベルを設定したら、〈DISPLAY〉ボタン、〈WB〉ボタンから指を離します。

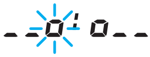
➡ ホワイトバランスブラケティング中は、選択しているホワイトバランスのマークが点滅します。



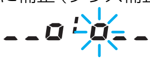
標準色温度



青色寄りに補正（マイナス補正）



赤色寄りに補正（プラス補正）

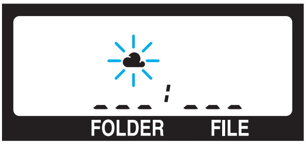


3 撮影する

➡ 標準色温度→青色寄りに補正（マイナス補正）→赤色寄りに補正（プラス補正）の順に撮影され、背面表示パネルにこれから撮影するブラケティングレベルが点滅表示されます。

- 設定しているドライブモード（→99）に従って撮影されます。
- 連続撮影に設定しているときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3コマ連続撮影して自動停止します。
- セルフタイマーを併用したときは、2秒または10秒後、自動的に3コマ連続撮影されます。

ホワイトバランスブラケティングの解除



- 手順1と2の操作でブラケティングレベルを〈---¦---〉にして、〈DISPLAY〉ボタン、〈WB〉ボタンから指を離します。
- レンズ交換、CFカード交換、バッテリー交換、バルブ撮影の設定、ストロボ充電完了、〈CLEAR〉ボタン押し、〈〉スイッチ〈OFF〉でも解除されます。

- ストロボ撮影、バルブ撮影、AEB撮影との併用はできません。
- カスタム機能C.Fn-12-1のミラーアップ撮影でホワイトバランスブラケティングを行うと、ドライブモードを連続撮影にしても1コマ撮影となります。

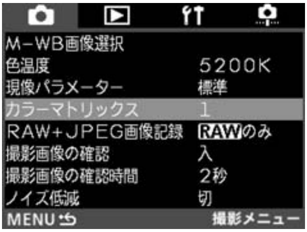
ドライブモードが1コマ撮影のときは、3回シャッターボタンを押して撮影してください。

C.Fn

- 撮影順をマイナス補正、標準露出、プラス補正に変更することができます。（C.Fn-09-2, 3→135）
- ホワイトバランスブラケティング撮影を、レンズの交換、CFカード交換、〈〉スイッチ〈OFF〉で解除しないようにすることができます。（C.Fn-09-1, 3→135）
- 連続撮影中にもファインダー内情報を表示させることができます。（C.Fn-01-1→133）

MENU カラーマトリックスを選択する

カラーマトリックスは、フィルム特性に相当する色相･彩度や、色域特性（色の再現領域）を選択できる機能です。
このカメラでは、使用目的別に5種類のカラーマトリックスが用意されています。



1 メニューから［カラーマトリックス］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して、〈📷〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して［**カラーマトリックス**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



2 カラーマトリックスを選択する

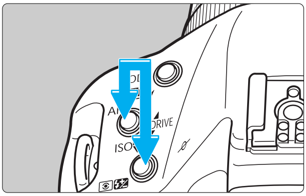
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して希望する番号を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。各番号で設定される内容は、下表のとおりです。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

選択番号	設定内容
1	自然な色合いの色相・彩度に設定されています。被写体のもつ自然な色合いを出したいときに効果的です。
2	ポートレート向けの色相・彩度に設定されています。肌色をきれいに出したいときに効果的です。
3	高彩度なリバーサルフィルムに近い色相・彩度に設定されています。くっきりした色合いを出したいときに効果的です。
4	Adobe RGBの色空間に対応した画像が得られます。色の再現領域が標準設定のsRGBに比べてとても広いため、Adobe RGBへのプロファイル変換を行いたいときや彩度調整を細かく行いたいときに効果的です。 なお、このカメラで撮影した画像には、ICCプロファイルが付加されませんので、プロファイル変換を行う場合は、Adobe RGBを指定する必要があります。また、sRGB環境下では、低彩度な画像となりますので、彩度調整が必要です。
5	低彩度な画像になるよう設定されています。ひかえめな色合いで表現したいときに効果的です。

カラーマトリックス1、2、3、5の色空間は、sRGBに設定されています。

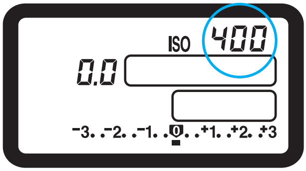
ISO感度を設定する

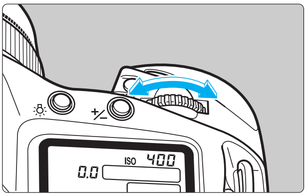
ISO感度とは、撮影時の光に対する敏感度を数値化したものです。（➞154）
数値が大きくなるほど感度が高く、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影に向いていますが、撮影画像にノイズが入るなど、画像が粗くなる場合があります。逆に感度が低い場合は、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影には向いていませんが、きめこまかな画像が撮影できます。
このカメラでは、ISO感度を200、250、320、400、500、640、800、1000、1250、1600の中から選択することができます。初期状態では、ISO200に設定されています。



1 〈AF〉ボタンと〈測光・調光補正〉ボタンを同時に押す

➡ 〈ISO〉とそのとき設定されている感度が表示されます。





2 そのまま〈ダイヤル〉を回す

● 表示パネルに希望するISO感度が表示されるまで〈ダイヤル〉を回します。

3 ボタンから指を離す

➡ ISO感度が設定されます。

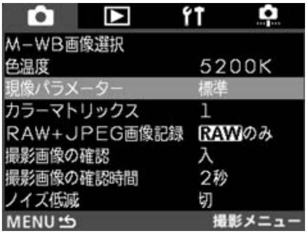
ISO感度を高くすると画像に含まれるノイズ成分がやや多くなります。また、1コマのサイズが大きくなり、撮影コマ数が減少します。撮影可能コマ数は、上面表示パネルで確認することができます。（➞27）

C.Fn
● ISO感度設定時に、ISO 100、3200相当の設定ができるようになります。（C.Fn-03-1➞133）
● 上面表示パネルの撮影可能コマ数をISO感度表示に変えることができます。（C.Fn-08-1, 2➞135）

MENU 現像パラメーターを選択する

撮影した画像の現像処理の内容（パラメーター）を、付属のソフトウェアで任意設定して、3つまで登録・設定することができます。ここでは、カメラに登録された現像パラメーターの設定方法について説明します。
現像パラメーターの設定とカメラへの登録方法については、付属の「EOS-1D ソフトウェア使用説明書」を参照してください。

なお、現像パラメーターがカメラに登録されていないときは、現像パラメーターの選択を行っても［標準］以外表示されません。



1 メニューから［現像パラメーター］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して、〈📷〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**現像パラメーター**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



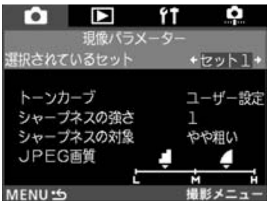
2 現像パラメーターを設定する

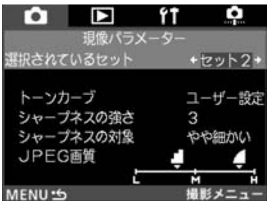
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望する項目を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。

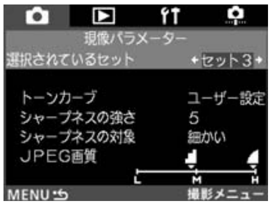
➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。

- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

現像パラメーター表示例



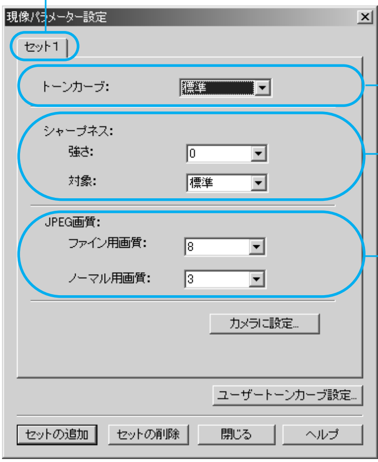




現像パラメーターについて

現像パラメーターには、「トーンカーブ」「シャープネス」「JPEG画質」があり、付属のソフトウェアでその組み合わせをカメラに3つまで登録することができます。
現像パラメーターの設定とカメラへの登録については、付属の「EOS-1D ソフトウェア使用説明書」を参照してください。

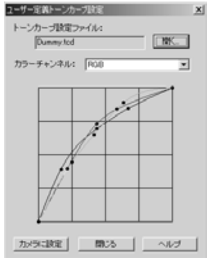
パラメーターは3つまで登録できます。



トーンカーブの設定をすることができます。

シャープネスの強さと対象を5段階に設定することができます。

JPEG画像の（ファイン）、（ノーマル）に対する画質をそれぞれ5段階に設定することができます。

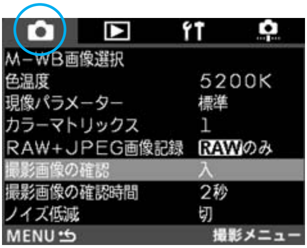


パラメーター	設定内容	設定項目	設定効果
トーンカーブ	明るさやカラー特性を調整	トーンカーブ	画像の明るさやカラーバランスを自由に変更することができます。
シャープネス	シャープネスの強さを調整	1 2 3 4 5	数値が大きくなるほど、シャープネスが強めに画像処理されます。
	シャープネスの対象を選択	粗い やや粗い 標準 やや細かい 細かい	粗いを設定すると、粗いパターンの被写体にシャープネスの強さが適用されます。 細かいを設定すると細かいパターンの被写体にシャープネスの強さが適用されます。
JPEG画質	（ファイン）の画質を設定	6 7 8 9 10	数値が大きくなるほど高画質になります。
	（ノーマル）の画質を設定	1 2 3 4 5	

MENU 撮影画像を見る

撮影画像の確認

撮影直後の画像を、カメラ背面の液晶モニターですぐに確認することができます。表示の方法には、撮影画像が表示される［入］、撮影画像と撮影情報を表示する［入(Info.)］、表示しない［切］の3種類があります。初期状態では［入］に設定されています。



1 メニューから［撮影画像の確認］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈〉を回して、〈〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈〉を回して［**撮影画像の確認**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



2 撮影画像の確認を設定する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈〉を回して希望する項目を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

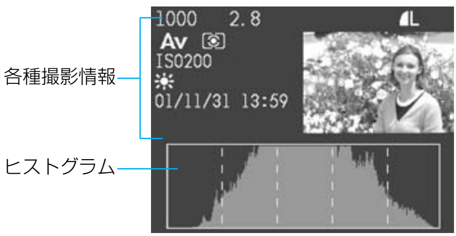
3 撮影する

- ➡ 撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

［入］の場合



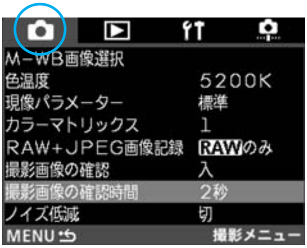
［入(Info.)］の場合（→118）



- 撮影画像の確認時間を変更することができます。（→53）
- 連続撮影したときには、最終コマの画像だけが表示されます。表示中の撮影画像に対して、プロテクトをかけたり（→119）、音声を録音したり（→121）することができます。また、表示中の撮影画像を消去することもできます。（→122）

撮影画像の確認時間

撮影直後の画像確認時間を設定することができます。



1 メニューから［撮影画像の確認時間］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して、〈📷〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



2 撮影画像の確認時間を設定する

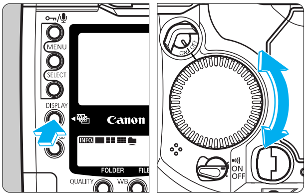
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望する項目を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

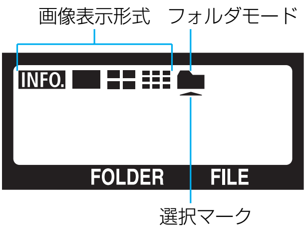
［**ホールド**］に設定したときの表示時間は、オートパワーオフ（→130）で設定した時間の半分になります。なお、オートパワーオフ［**切**］に設定したときの表示時間は15分となります。

フォルダの作成と選択

複数のフォルダを作成して、選択したフォルダに撮影画像を保存することができます。
撮影日や撮影内容別に撮影画像を分類しておきたいときに有効です。
フォルダは、フォルダ番号100〜999まで順に作られます。

カメラ単独でフォルダを作成する



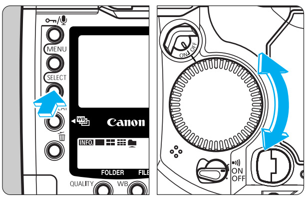


1 フォルダモードにする

- 〈DISPLAY〉ボタンを押しながら〈〇〉を回し、背面表示パネルの〈■〉を選択して、〈DISPLAY〉ボタンから指を離します。

➡ 液晶モニターがフォルダモードに切り換わります。



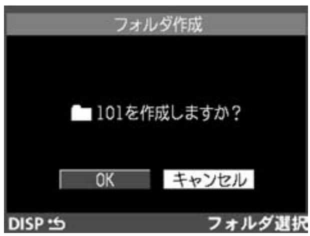


2 フォルダ作成画面を表示する

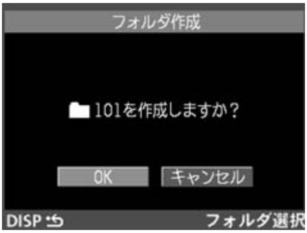
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈〇〉を回し、[**フォルダ作成**] を選択して、〈SELECT〉ボタンから指を離します。

➡ フォルダ作成画面が表示されます。





- フォルダの数が9以上になるとフォルダモードにしたときに [**フォルダ作成**] が見えなくなるときがあります。このときは、[**フォルダ作成**] が表示されるまで、〈SELECT〉ボタンを押しながら〈〇〉を回してください。
- [**RAW+JPEG画像記録**] での保存コマ数は、1回撮影で1コマカウントされます。



3 フォルダを作成する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回し、[OK]を選択して、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ 新しいフォルダが作られます。
- 〈DISPLAY〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えて、フォルダモードが終了します。

> フォルダ番号が999になると、それ以上のフォルダ作成はできません。

フォルダを選択する

撮影画像を保存するフォルダを選択します。フォルダ内の全画像消去（→123）を行うときにも、ここでフォルダを選択します。



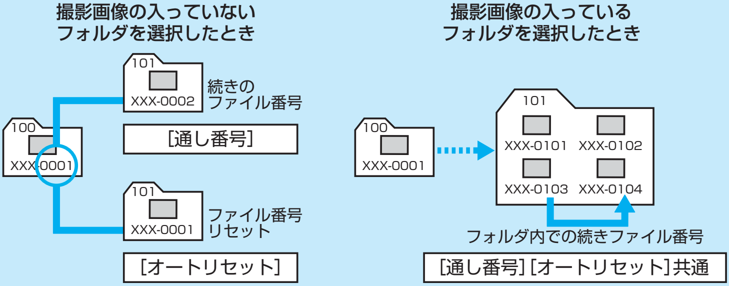
1 フォルダモードにする

- 左ページの手順1を行います。

2 フォルダを選択する

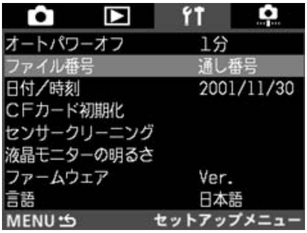
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回し、フォルダを選択して、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ フォルダが選択されます。
- 〈DISPLAY〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えて、フォルダモードが終了します。

フォルダ選択後のファイル番号（→56）について



MENU ファイル番号の設定方式

撮影した画像は、自動的に0001～9999までのファイル番号が付けられて、選択したフォルダに保存されます。自動番号の付けかたとしては、オートリセット、通し番号の2種類があります。初期状態では、通し番号に設定されています。



1 メニューから［ファイル番号］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して、〈ft〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して［**ファイル番号**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



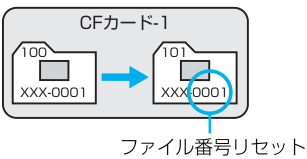
2 設定する項目を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して希望する項目を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

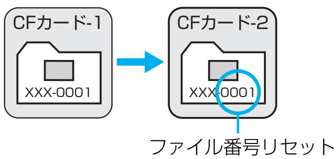
オートリセット

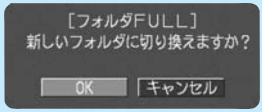
撮影画像を保存するフォルダを変更したり、CFカードを交換すると、ファイル番号が初期値(XXX-0001)に戻ります。撮影した画像のファイル番号が、各フォルダで0001から始まりますので、撮影日ごとに新しいフォルダに変更して、フォルダ単位で何日目の何コマ目かを分類したいときなどに有効です。ただし、すでに画像が記録されているフォルダへ変更したり、画像が記録されているCFカードに入れ替えたときは、その中に入っている画像の最大ファイル番号に続いたファイル番号となります。

フォルダを変更した場合



CFカードを交換した場合

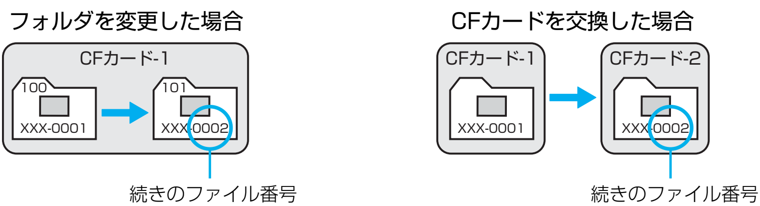


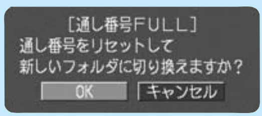


CFカードに空きがあっても、選択しているフォルダ内のファイル番号が9999になると、液晶モニターに右のメッセージが表示されて撮影できなくなります。撮影を続けたい場合は、〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選択してください。自動的に新しいフォルダが作成されて、撮影を続けることができるようになります。画像は新しいフォルダに保存されます。
特に、シャッターチャンスを逃がしたくない重要な撮影の際には、事前に新しいフォルダを作成・選択（→54）しておくか、ファイル番号を［**強制リセット**］（→58）して撮影画像を保存するフォルダを変更しておいてください。

通し番号

撮影画像を保存するフォルダを変更したり、CFカードを交換したりしても、最後に撮影した画像の続き番号が次の画像に付けられます。撮影した画像のファイル番号が重複しないため、画像をコンピューターでまとめて管理するようなときに有効です。ただし、すでに画像が記録されているフォルダへ変更したり、画像が記録されているCFカードに入れ替えたときは、その中に入っている画像の最大ファイル番号と、最後に撮影した画像のファイル番号を比較して、数の大きい方を続きのファイル番号とします。





CFカードに空きがあっても、通し番号が9999になると、液晶モニターに右のメッセージが表示されて撮影できなくなります。撮影を続けたい場合は、〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選択してください。自動的に新しいフォルダが作成されて、撮影を続けることができるようになります。このとき、通し番号は0001に戻り、画像は新しいフォルダに保存されます。
特に、シャッターチャンスを逃がしたくない重要な撮影の際には、事前にファイル番号を［**強制リセット**］（→58）するか、［**オートリセット**］にして撮影画像を保存するフォルダを変更しておいてください。

強制リセット

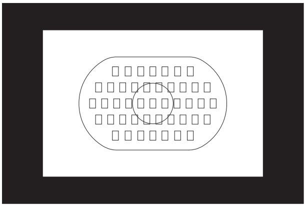
自動的に新しいフォルダを作成して、ファイル番号を初期値（XXX-0001）に戻します。以後、撮影画像は、この新しいフォルダに保存されます。ファイル番号の付け方（オートリセット／通し番号）は、強制リセット前の設定となります。

- ファイル番号は、フィルムカメラのフィルムコマ番号に相当するものです。
- ファイル名について詳しくは、『デジタルカメラ・写真の基本用語解説』（→155）を参照してください。

コンピューターを使ったフォルダ作成

コンピューターのフォルダ作成機能を使用して、撮影画像を保存するフォルダを作ることができます。
まず、CFカードを開いたところにDcimという名称のフォルダを作ります。
次にDcimフォルダを開いたところに撮影画像を保存するフォルダを、必要な数だけ作ります。
撮影画像を保存するフォルダの名称は、100ABC_Dというように、100～999までのフォルダ番号3桁に続けて、必ず文字数5つで名称をつけます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の_（アンダーバー）です。スペースは使用できません。

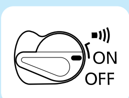
- 以下のような名称では、カメラがフォルダを認識できません。
  100ABC（文字不足）、001ABC_F（フォルダ番号が不適切）。また、同じフォルダ番号（100ABC_C、100ABC_Dなど）をつけたときもカメラがフォルダを認識できません。
- フォルダ番号は、なるべく100からつけてください。フォルダ内のファイル番号が9999になったときに、新しいフォルダを作成して撮影を続けることができます。しかし、フォルダ番号999のフォルダが1つだけ入っているCFカードで撮影すると、撮影画像のファイル番号が9999になった時点で、それ以上撮影できなくなります。



3

オートフォーカスとピント合わせ

エリアAFフレーム内には、45のAFフレームが配置されています。適切なAFフレームを選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。また、被写体の状況や撮影意図に合わせてオートフォーカスの作動特性を選択することができます。

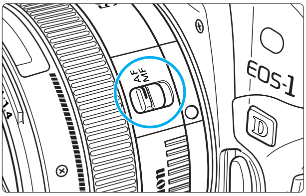




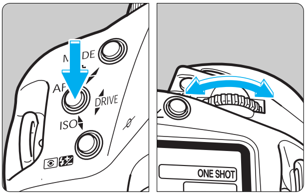
あらかじめ〈〉スイッチと〈〉スイッチを〈ON〉に設定してください。

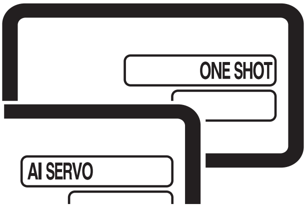
AFモードの選択

AFモードとはAFの作動特性のことをいいます。止まっている被写体の撮影に適しているワンショットAFと、動いている被写体の撮影に適しているAIサーボAFの2種類があります。被写体の状況にあわせて選択します。



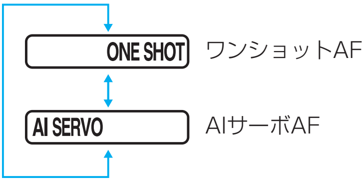
1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にセットする



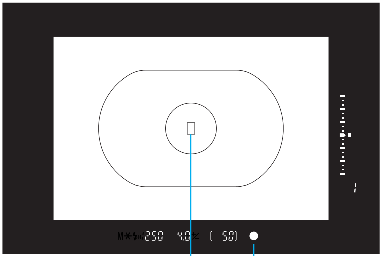


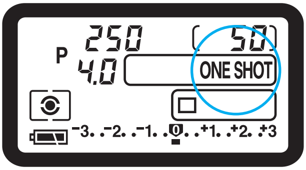
2 AFモードを選択する

- カメラの〈AF〉ボタンを押しながら〈〉を回します。表示パネルのAFモードを選択して〈AF〉ボタンから指を離します。



止まっている被写体を撮るときはワンショットAF





シャッターボタンを半押しするとAFが作動し、1回だけピントを合わせます

➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが一瞬光り、同時にファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。

● 評価測光では合焦と同時に露出値が決まります。そのままシャッターボタン半押しの状態を保つと露出値が固定されたままになり、ピントを合わせたあとに構図を変えて撮影するフォーカスロック撮影ができます。

画面の端の被写体にピントを合わせる

エリアAFフレームに入らない画面の端の被写体にピントを合わせて撮影するときは次のようにします。この方法をフォーカスロック撮影といいます。

● フォーカスロック撮影はAFモードがワンショットAFに設定されているときに有効です。

1 **シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる**

2 **シャッターボタンを半押ししたまま構図を変える**

3 **撮影する**

● 〈〉スイッチを〈•)))〉にしておくと合焦と同時に電子音が「ピピッ」と鳴ります。

● ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影はできません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)』(➝73)を参照してください。

動いている被写体を撮るときはAIサーボAF



シャッターボタン半押しの状態を保っている間、被写体にピントを合わせ続けます

- 撮影距離がたえず変わる（移動している）被写体の撮影に適しています。
- 動体予測機能*でカメラに向かってくる、または遠ざかる被写体にピントを合わせ続けます。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

- ピントが合ってもファインダー内の合焦マークは点灯せず、電子音も鳴りません。
- ファインダー内の合焦マークが点滅するときはピントが合っていません。
- フォーカスロック撮影はできません。（カスタム機能C.Fn-04-2設定時を除く）

＊動体予測機能について

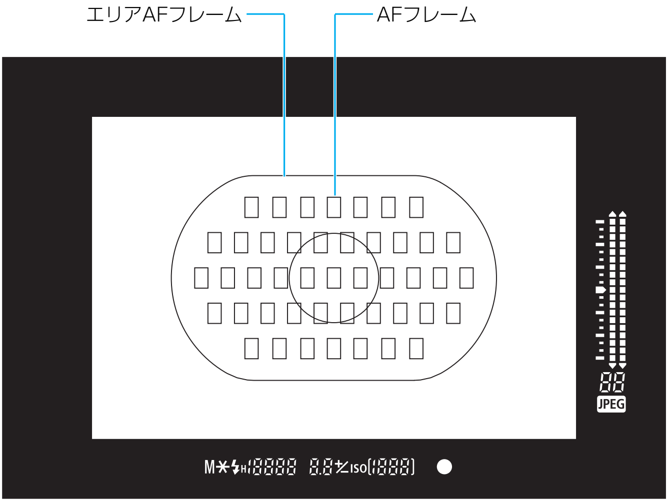
被写体がほぼ等速度でカメラに近づいてくる場合、または遠ざかっていく場合に、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるよう、その被写体の位置を予測してピントを合わせ続ける機能です。
任意のAFフレームを選択しているときは、赤く光ったそのAFフレームで動体予測を行います。AFフレーム自動選択のときは、初めに中央で被写体をとらえます。AF中に被写体が中央から外れても、エリアAFフレーム内で被写体を確実にとらえていれば動体予測を続けます。AFフレームは光りません。

C.Fn
- AIサーボAF時の被写体追従敏感度を変えることができます。(C.Fn-20→138)
- AIサーボAF作動中に、〈✱〉ボタンを押すと、押している間ピントを一時固定することができます。(C.Fn-04-2→133)
- AIサーボAF時に、選択されているAFフレームを〈◯〉で変えながら被写体を追うことができます。(C.Fn-11-2→136)

エリアAFフレームとAFフレーム

エリアAFフレームとは被写体にピントを合わせるエリアのことをいいます。エリアAFフレーム内には45点のAFフレームが配置されており、ファインダーの広い範囲でAFが可能です。AFフレームの位置を気にすることなく自由な構図で撮影に専念することができます。被写体がエリアAFフレーム内にあればカメラが自動的にピントを合わせます。

AFフレームの配置



上の図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分のみ表示されます。

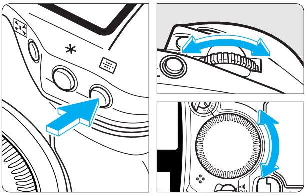
AFフレームの選択

AF フレームの選択には自動選択と任意選択があります。

● **自動選択**
45点のAFフレームの中から、撮影状況に応じてカメラが自動的にAFフレームを選択してピント合わせを行います。

● **任意選択**（選択できるAFフレームの数によって3種類あります）
① 45点のAFフレームから任意の1点を選択します。
② 11点のAFフレームから任意の1点を選択します。（C.Fn-13-1, 2）
③ 9点のAFフレームから任意の1点を選択します。（C.Fn-13-3）
＊ ②③はカスタム機能C.Fn-13を設定して行います。カスタム機能の設定方法は、『カスタム機能の設定方法』(→132)を参照してください。

AFフレーム選択の基本操作



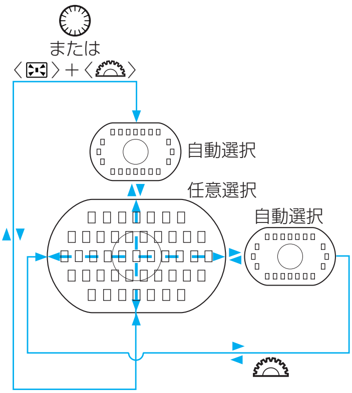
● AFフレームは〈 〉ボタンを1度押したあと、〈 〉と〈 〉の組み合わせで自在に選択することができます。

横方向のAFフレーム選択

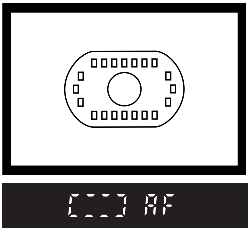
● 〈 〉ボタンを押して〈 〉を回します。
➡ AFフレームが横方向に移動します。

縦方向のAFフレーム選択

● 〈 〉ボタンを押して〈 〉を回します。
● 縦方向のAFフレーム選択は、〈 〉ボタンを押したあと、〈 〉ボタンを押しながら〈 〉を回すことでも可能です。
➡ AFフレームが縦方向に移動します。
● シャッターボタンの半押し、またはタイマー（6）が切れると撮影準備状態に戻ります。



自動選択



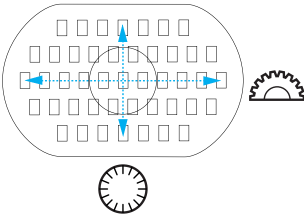
〈 〉ボタンを押して〈 〉を回します

➡ ファインダー内表示が図のようになるまで回します。〈 〉でも同様に設定できます。

- 1番端のAFフレームから1つ進めると自動選択になります。
  C.Fn-13-1, 2, 3のときにも設定できます。

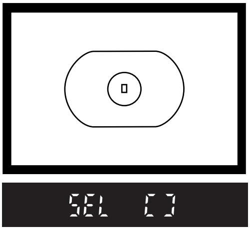
任意選択

①45点のAFフレーム任意選択

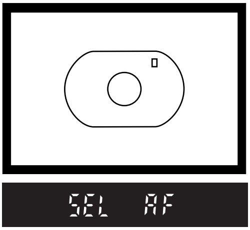


- 選択方法は、AFフレーム選択の基本操作と同じです。
- 縦方向のAFフレームは1点（ ）→2点（ ）→1点（ ）と選択されます。

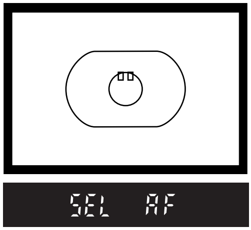
中央選択



中央以外の選択



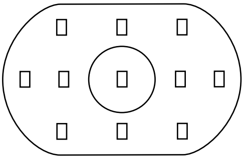
2点自動選択



（ ）の状態で撮影すると2点による自動選択AFになります。また、この状態で左右に移動すると1点ずつの選択になります。

②11点のAFフレーム任意選択 C.Fn-13-1, 2 (→136)

構図優先の撮影に有効な11点のAFフレームが設定されます。AFフレームの選択方法は、45点の任意選択と同じですが、AFフレーム数が少なくなるので、選択機動性が向上します。

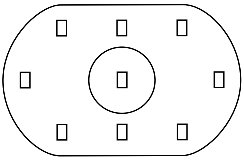


- 11点の中から任意のAFフレームを選択することができます。
- AFフレームの選択方法は、AFフレーム選択の基本操作と同じです。

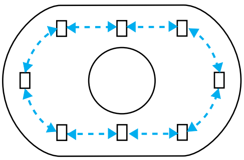
C.Fn AFフレームに連動したスポット測光ができます。(C.Fn-13-1→77, 136)

③9点のAFフレーム任意選択 C.Fn-13-3 (→136)

エリアAFフレーム外周8点のAFフレームと中央AFフレームが設定されます。外周8点は〈〉の回転にあわせて直感的に回転しますので、選択機動性がさらに向上します。



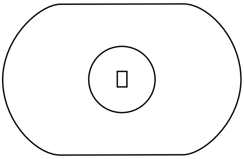
- 9点の中から任意のAFフレームを選択することができます。
- 横方向のAFフレーム選択方法は、AFフレーム選択の基本操作と同じです。
  1番端のAFフレームから1つ進めると自動選択になります。



外周AFフレームを選択する

- 〈〉ボタンを押して〈〉を回します。
- ➡ 〈〉の回転方向にあわせて外周にある8点のAFフレームを迅速に選択することができます。

C.Fn 〈〉単独で外周AFフレームを選択することができます。(C.Fn-11-2→136)



中央AFフレームを選択する

● 〈⊞〉ボタンを押して〈⊡〉ボタンを押します。
➡ 瞬時に中央AFフレームが選択されます。

スポット測光を選択すると、AFフレームに連動したスポット測光ができます。（→77）

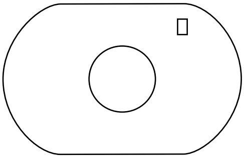
C.Fn 〈⊡〉ボタン単独押しで中央AFフレームを選択したり、〈⊡〉ボタンを押している間だけ中央AFフレームを選択するようにできます。（C.Fn-18→138）

C.Fn AFフレームの任意選択方法を変えることができます。（C.Fn-11→136）
（1）〈⊞〉ボタンの代わりに〈±〉ボタンを使う。（C.Fn-11-1）
（2）〈⊞〉ボタンの代わりに〈±〉ボタンを使う。または〈◎〉単独で行う。
（C.Fn-11-2）
（3）AFフレーム任意選択から自動選択に切り換えることができます。
（C.Fn-11-2）
（4）〈⊞〉ボタンの代わりに〈FEL〉ボタンを使う。（C.Fn-11-3）

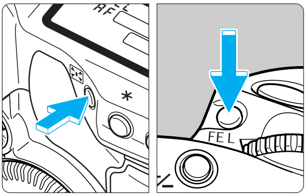
AFフレームの登録と切り換え

よく使うAFフレームをあらかじめ登録しておくことで、他のAFフレームから、瞬時に登録AFフレームへの切り換えができます。中央以外のAFフレームを登録した構図優先の設定や、AFフレーム自動選択を登録したシャッターチャンス優先の設定など、撮影目的に応じてAFフレームを登録します。すべてのAFフレームが登録対象となります。複数登録はできません。

AFフレームの登録



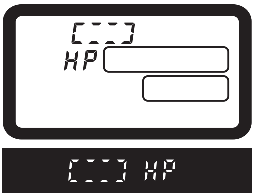
1 〈⊞〉ボタンを押し（⏱6）、〈⌓〉〈◯〉を回してAFフレームを選択する



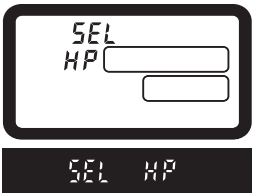
2 〈⊞〉ボタンを押しながら〈FEL〉ボタンを押す

➡ 選択したAFフレームが登録されます。
● 登録時の表示は、選択したAFフレームによって異なります。登録AFフレームへ切り換えた時にも同じ表示がでます。

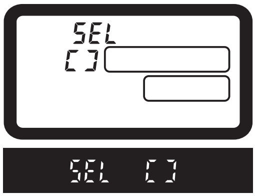
自動選択



中央以外のAFフレーム



中央AFフレーム

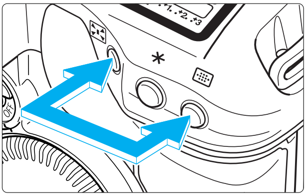


ストロボ使用時とスポット測光時は〈⊞〉ボタンを先に押してください。〈FEL〉ボタンを先に押すとAFフレーム選択状態が解除されます。

- 11点のAFフレーム任意選択時（C.Fn-13-1，2）にも同様に登録することができます。（→66）
- 9点のAFフレーム任意選択（C.Fn-13-3）では、AFフレームの登録はできません。（→66）
- SEL HPのSELはSELECT（セレクト）、HPはHOME POSITION（ホームポジション）の略です。

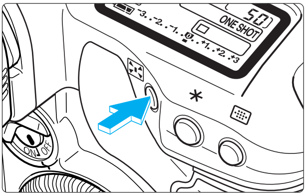
登録AFフレームへの切り換え

初期状態の登録AFフレームへの切り換えは〈〉ボタンと〈〉ボタンの同時押しで行いますが、カスタム機能C.Fn-18-1，2（→138）を設定することにより、〈〉ボタン単独押しで切り換えることができます。カスタム機能の設定は、『カスタム機能の設定方法』（→132）を参照してください。



①〈〉ボタンと〈〉ボタンの同時押しで切り換え

- カスタム機能を設定しない初期状態の切り換え方法です。



②〈〉ボタン単独押しで切り換え

C.Fn-18-1 （→138）

③〈〉ボタン単独押しで、押している間だけ、切り換え

C.Fn-18-2 （→138）

- 〈〉ボタンを離すと元のAFフレームに戻ります。

- AFフレームの登録を行っていない場合は、中央AFフレームに切り換わります。
- C.Fn-13を設定／解除すると、登録AFフレームは中央AFフレームとなります。なお、C.Fn-13-1からC.Fn-13-2への変更（またはその逆）では、登録AFフレームは変わりません。

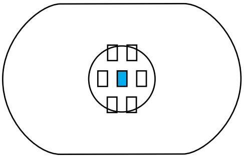
C.Fn-18-1，2とC.Fn-04-1,3を組み合わせて設定すると〈〉ボタン単独押しで登録AFフレームへの切り換えとAFスタートを同時に行うようにすることができます。

AFフレームの領域拡大 C.Fn-17

カスタム機能を利用して、任意選択したAFフレームの領域を広げることができます。(C.Fn-17→137)

●7点自動選択AFに拡大する C.Fn-17-1 (→137)

任意の1点では追従しづらい不規則に変化する被写体を撮影する場合に効果的です。

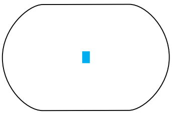
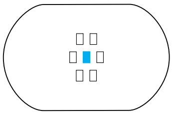
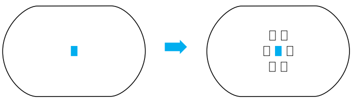
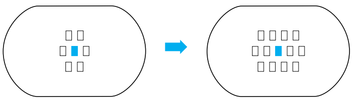


■：選択したAFフレーム
□：拡大したAFフレームの領域

- 拡大したAFフレームの領域は表示されません。
- ワンショットAFでピントが合うと、選択したAFフレームと、ピントの合ったAFフレームが点灯します。

●7点あるいは13点AFに自動拡大する C.Fn-17-2 (→137)

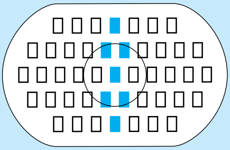
使用レンズの焦点距離や、AFモード、AIサーボAF時の被写体の速さなどに応じて下図のように、AFフレームの領域を自動拡大します。被写体の動きが予測できないような場合に効果的です。

AFモード	使用レンズの焦点距離	
	300mm未満	300mm以上
ワンショットAF	 AFフレームの自動拡大は行いません。	 1領域拡大
AIサーボAF	 被写体が低速の場合 ➡ 被写体が高速の場合	 被写体が低速の場合 ➡ 被写体が高速の場合

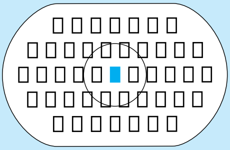
＊ カスタム機能の設定は、『カスタム機能の設定方法』(→132)を参照してください。

使用レンズの明るさとAF測距について

EOS-1DのAFは、すべてのAFフレームで被写体の横線成分を検出するのが基本となっていますが、使用するレンズの明るさによっては、さらに高精度なAFピント合わせが可能となっています。



（1）F2.8よりも明るい大口径レンズ使用時、図の色で示したAFフレームでは、十字測距（縦線横線同時検出）による高精度AF撮影が、残る38のAFフレームでは横線検出によるAF撮影ができます。縦線検出は、横線検出の約3倍の敏感度で行われます。



（2）単体およびエクステンダーとの組み合わせでF4より明るい次のLタイプレンズでは、中央のAFフレームで十字測距による高精度AF撮影ができます。残る44のAFフレームでは横線検出のAF撮影（EF70-200mmF2.8L USM＋エクステンダーEF1.4X除く）ができます。

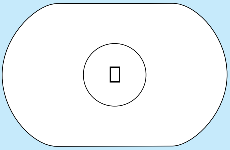
・EF28-80mm F2.8-4L USM
・EF300mm F4L USM
・EF300mm F4L IS USM
・EF400mm F4 DO IS USM
・EF500mm F4L IS USM
・EF600mm F4L USM
・EF600mm F4L IS USM
・EF70-200mm F4L USM

● エクステンダーEF1.4X、EF1.4X IIとの組み合わせ：

・EF200mm F2.8L USM
・EF200mm F2.8L II USM
・EF300mm F2.8L USM
・EF300mm F2.8L IS USM
・EF400mm F2.8L USM
・EF400mm F2.8L II USM
・EF400mm F2.8L IS USM
・EF70-200mm F2.8L IS USM

● エクステンダーEF2X、EF2X IIとの組み合わせ：

・EF135mm F2L USM
・EF200mm F1.8L USM



(3) エクステンダーとの組み合わせで、F8より明るい次のLタイプレンズでは、中央のAFフレームで横線検出によるAF撮影ができます。中央以外のAFフレームによるAF撮影はできません。

- エクステンダーEF1.4X、EF1.4X IIとの組み合わせ：
  - ・EF400mm F5.6L USM
  - ・EF500mm F4.5L USM
  - ・EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM
- エクステンダーEF2X、EF2X IIとの組み合わせ：
  - ・EF300mm F4L USM
  - ・EF300mm F4L IS USM
  - ・EF400mm F4 DO IS USM
  - ・EF500mm F4L IS USM
  - ・EF600mm F4L USM
  - ・EF600mm F4L IS USM
  - ・EF70-200mm F4L USM
- 〈〉ボタンを押すと上面表示パネルに右の表示ができます。



IS機能の付いていないEF70-200mm F2.8L USMとエクステンダーEF1.4X、EF1.4X IIの組み合わせでは、中央AFフレームで十字測距による高精度AF撮影ができます。なお、中央以外のAFフレームでは、測距誤差を生じる場合がありますので、AF撮影しないでください。

AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（合焦マークが点滅する）ことがあります。

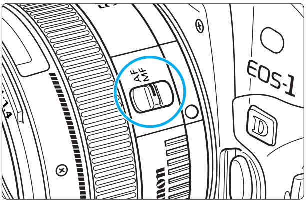
ピントが合いにくい被写体

(a) コントラスト（明暗差）が極端に低い被写体………………… 例：青空、単色の平面など
(b) 非常に暗い場所にある被写体
(c) 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体……… 例：反射光の強い車のボディ
(d) 被写体が遠いところと近いところに共存する状態………… 例：おりの中の動物

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。
(1) 被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。
(2) レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉（または〈**M**〉）にして手動でピント合わせを行う。（→26）

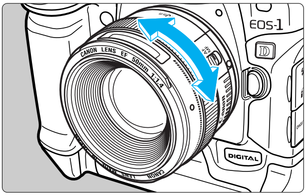
> ストロボやST-E2のAF補助光でピントが合わない場合は、中央のAFフレームを選択してください。中央以外のAFフレームではピントが合わないことがあります。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉（または〈M〉）に切り換える

➡ 上面表示パネルのAFモード表示が全て消えます。

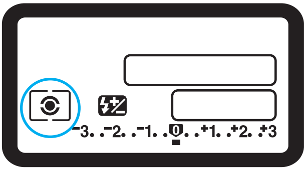


2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。

- AFフレームを任意に選択して、シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、選択しているAFフレームでピントが合ったときはそのAFフレームが光り合焦マークが点灯します。
- AFフレーム自動選択の場合は、中央のAFフレームでピントが合ったときにAFフレームが光り、合焦マークが点灯します。
- USM（Ultrasonic Motor／超音波モーター）レンズのとき
USMレンズ（距離目盛りのないUSMレンズをのぞく）はワンショットAFで作動した後そのままフォーカスリングを操作してピントを微調整（フルタイムマニュアル）することができます。

C.Fn 電子式の手動フォーカスリングを採用しているUSMレンズ（EF200mm F1.8Lなど）では、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉（または〈M〉）にしないと手動ピント合わせができないように変更することができます。（C.Fn-07→134）



評価測光

部分測光

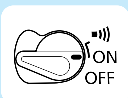
スポット測光

中央部重点平均測光

4

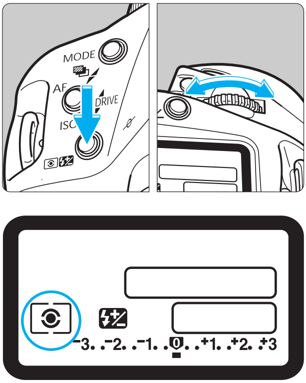
測光方式の選択

測光モードには、評価測光、部分測光、スポット測光、中央部重点平均測光があります。さらにスポット測光には中央部スポット測光、AFフレーム連動スポット測光、マルチスポット測光があります。撮影状況や撮影意図に合わせて選択してください。



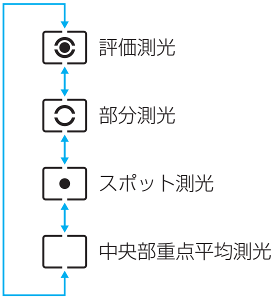
あらかじめ〈 〉スイッチを〈ON〉に設定してください。

測光モードの選択方法



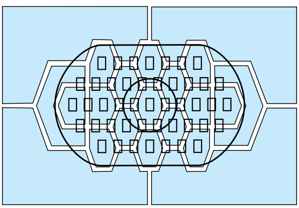
1 測光モードを選択する

- 〈 〉ボタンを押しながら〈 〉を回し、希望する測光モードを選択します。



2 〈 〉ボタンから指を離す

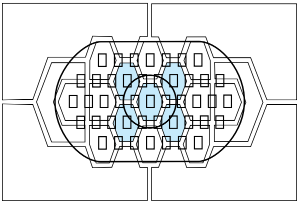
測光モードの種類



評価測光

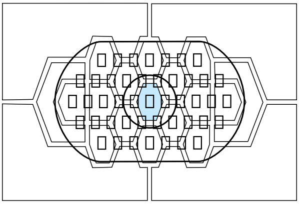
逆光撮影を含む一般の撮影に適しています。ファインダー内を21に分割して全てのAFフレームに連動した評価測光を行います。ファインダー内に占める主被写体の大きさ、位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し主被写体を常に適正な露出値にします。

- 手動ピント合わせ時は常に中央のAFフレーム基準の評価測光になります。
- 主被写体が極端な逆光下にあったり強いスポットライトを浴びているような、主被写体と背景に極端な明暗差があるときは、部分測光（ ）またはスポット測光（ ）の使用をおすすめします。



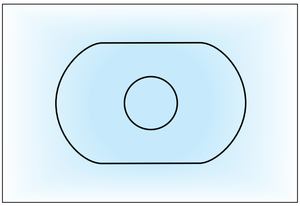
部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約13.5%の範囲を測光します。



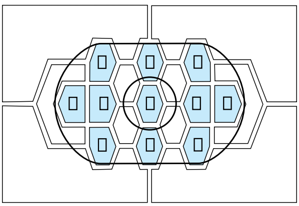
スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約3.8%を測光します。



中央部重点平均測光

ファインダー中央に重点を置いて画面全体を平均に測光します。



AFフレーム連動スポット測光

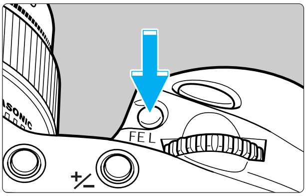
機動性を上げるためカスタム機能C.Fn-13の設定によってエリアAFフレーム内の45点のAFフレームを11点（C.Fn-13-1）、または9点（C.Fn-13-3）に限定し、任意に選択したAFフレームの周囲のみ（ファインダーの約3.8%の範囲）を測光します。（→66, 136）

スポット測光で連続撮影中は自動的にAEロック撮影になりますが、ファインダー内に〈✱〉は点灯しません。

C.Fn エリアAFフレームの45のAFフレームの内、AFフレームを11点に限定して中央部スポット測光することができます。(C.Fn-13-2→66, 136)

マルチスポット測光

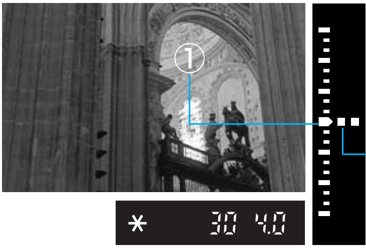
撮影画面の複数の場所をスポット測光し、その場所が相対的にどのような露出になるかを考えながら、自分のねらい通りの最終露出を決めることができます。



1 スポット測光を選択する（→76）

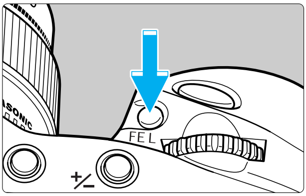
2 中輝度部の天井①をねらい、〈FEL〉ボタンを押す

➡ 1回目のスポット測光が行われます。



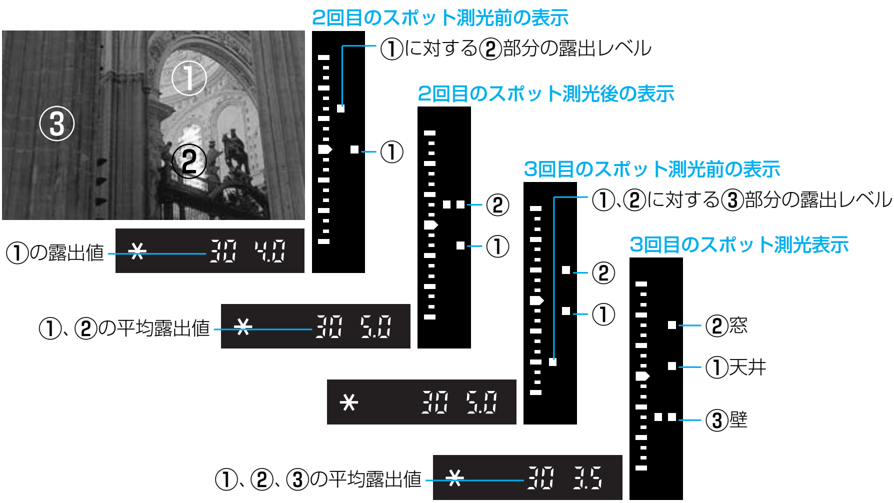
1回目のスポット測光表示

①で決まった露出値に対し、そのときスポット測光で捉えている部分の露出レベルがリアルタイムで表示されます。

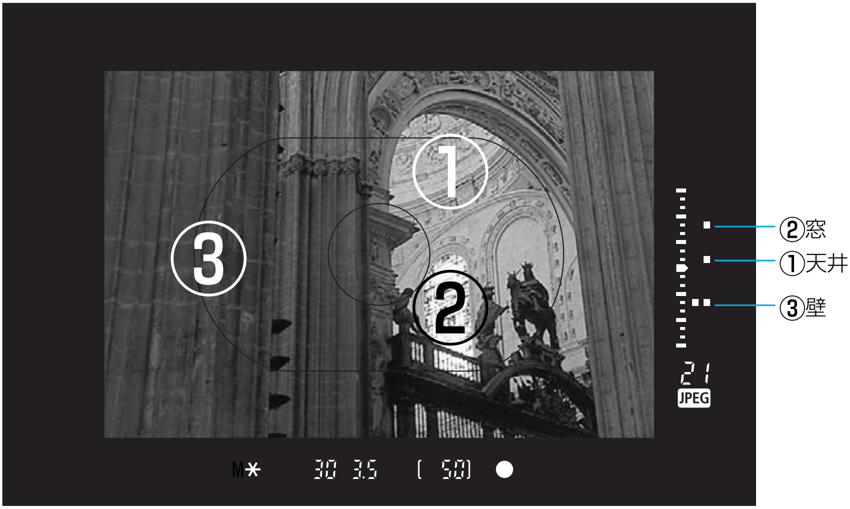


3 ひきつづき最も明るい窓②と、暗い壁③をねらい、それぞれ〈FEL〉ボタンを押す

➡ ファインダー内に、3点の平均露出値に対する各測光部（①天井、②窓、③壁）の露出がどのようになっているかが表示されます。



マルチスポット測光完了後の露出表示

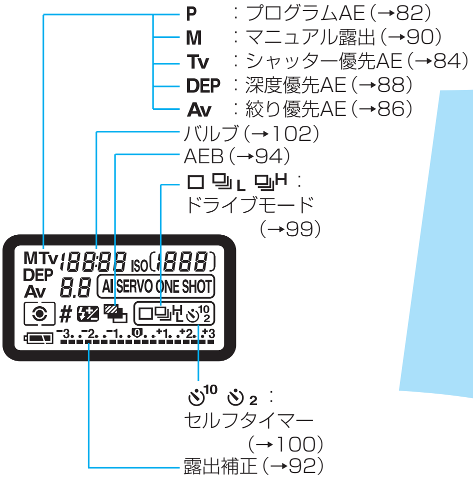


● この状態で露出補正を行うと、3点の露出レベル表示全体を見ながら、表現意図に合わせた最終露出を決めることができます。

スポット測光は8点まで行うことができます。9点目からは〈FEL〉ボタンを押しても測光は行われません。

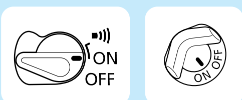
- マルチスポット測光による露出値の記憶は次の条件で解除されます。
  （1）スポット測光後、16秒経過したとき。
  （2）〈⊡⚡〉ボタン、〈MODE〉ボタン、〈AF〉ボタンを押したとき。
  （3）撮影後、シャッターボタンから指を離したとき。
- マルチスポット測光は中央部スポット測光とAFフレーム連動スポット測光で利用できます。





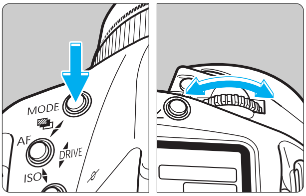
5 写真表現に合わせた露出制御

被写体や撮影目的に合わせて、最適な撮影モードを選択することができます。そして、簡単な操作でさまざまな撮影を行うことができます。



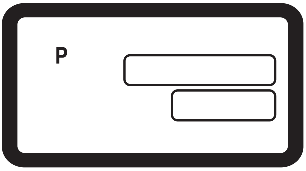
あらかじめ〈 〉スイッチを〈ON〉に設定してください。また、必要に応じ、〈 〉スイッチを〈ON〉に設定してください。

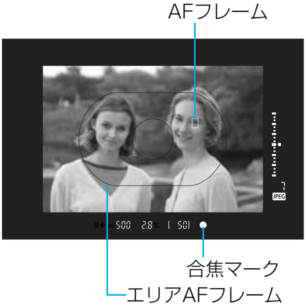
P プログラムAE撮影



1 表示パネルの〈P〉を選択する

- 〈MODE〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して〈P〉を選択し、〈MODE〉ボタンから指を離します。





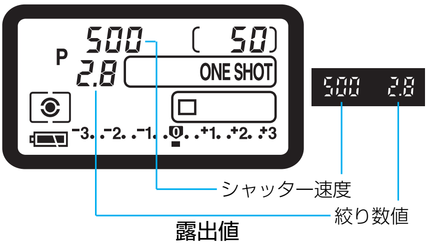
2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいてエリアAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

➡ 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが一瞬光ります。
同時にファインダー内に緑色の合焦マーク〈●〉が表示されます。

➡ 表示パネルとファインダー内に露出値が表示されます。

- 合焦マーク〈●〉が点滅するときは、シャッターが切れません。『AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）』（→73）を参照してください。

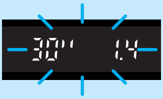


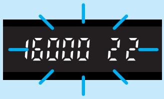
3 露出値が点滅していないことを確認して撮影する

AEはAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

カメラの初期設定を行うと、自動的にプログラムAE撮影の準備が完了します。（→34）

露出警告





露出値が点滅するときは露出が不適当です。撮影できますが明るすぎたり暗すぎたりした写真になります。詳しくは『露出警告表示一覧表』(→157)を参照してください。

- ピントが合うとAFフレームが一瞬光ります。AFフレームが任意選択(→65)されているときは、(⏱6)タイマーが作動している間、淡く点灯します。
- AFフレームが自動選択(→65)になっている場合は、同じピント位置のAFフレームが複数点灯します。

プログラムシフトについて

〈**P**〉プログラムAEでは露出を変えずに、シャッター速度と絞り数値の組み合わせ(プログラム)を変更することができます。これをプログラムシフトといいます。シャッターボタンを半押しした後〈ダイヤル〉を回して、希望するシャッター速度または絞り数値に設定します。

プログラムシフトは撮影すると解除されます。

5

露出制御

Tv シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。
シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッター速度を遅くすると流動感を表現することができます。

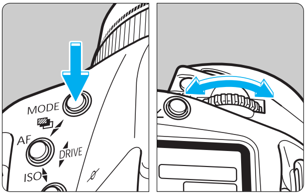
＊TvとはTime value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



速いシャッター速度

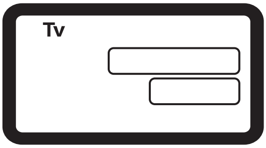


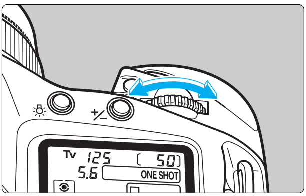
遅いシャッター速度



1 上面表示パネルの〈Tv〉を選択する

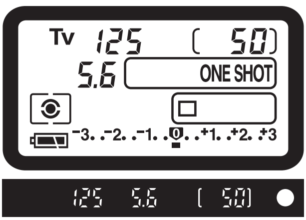
- 〈MODE〉ボタンを押しながら〈 〉を回して〈**Tv**〉を選択し、〈MODE〉ボタンから指を離します。





2 シャッター速度を設定する

- 〈 〉を回して希望するシャッター速度を設定します。



3 ピントを合わせる

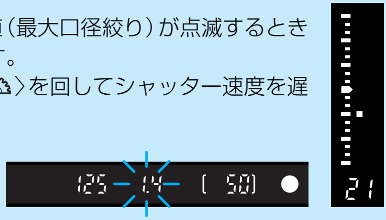
➡ シャッター速度と絞り数値が表示されます。

4 撮影する

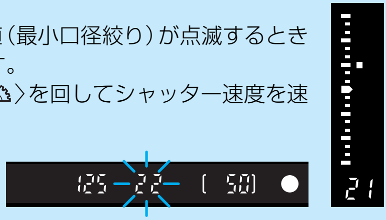
- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

露出警告

- 使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径絞り）が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を遅くします。



- 使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径絞り）が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を速くします。



C.Fn

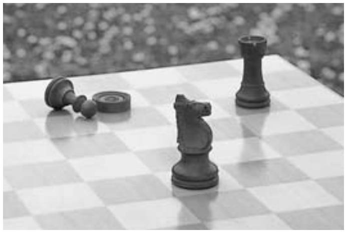
- セーフティシフト機能を付加することができます。（C.Fn-16→137）
  設定したシャッター速度に対して絞り数値が変化しても適正露出が得られないとき、シャッター速度が自動的にシフトして適正露出が得られるようにします。これをセーフティシフトといいます。
- 1/3段ステップのシャッター速度の設定を１段または1/2段ステップに変更することができます。(C.Fn-6→134)

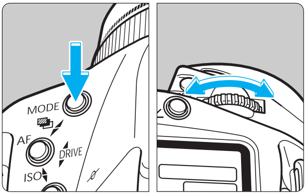
Av 絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。
絞り数値を小さくする（開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする（閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る奥行きが深くなります。

＊AvとはAperture value（アパチャーバリュー）の略で開口量のことです。

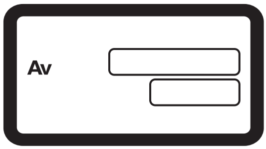

小さい絞り数値

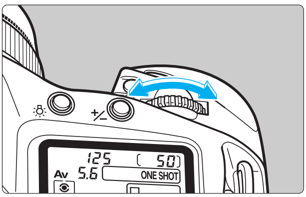

大きい絞り数値



1 上面表示パネルの〈Av〉を選択する

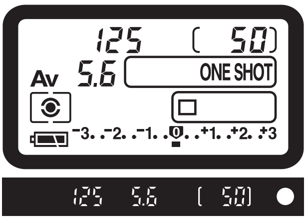
● 〈MODE〉ボタンを押しながら〈 〉を回して〈Av〉を選択し、〈MODE〉ボタンから指を離します。





2 絞り数値を設定する

● 〈 〉を回して希望する絞り数値を設定します。



3 ピントを合わせる

➡ シャッター速度と絞り数値が表示されます。

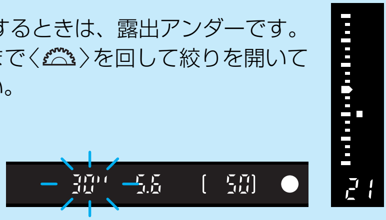
4 撮影する

● シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。

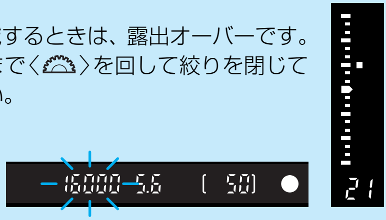
● シャッター速度が「1／使用レンズの焦点距離」以下になると手ブレが起きやすくなりますのでご注意ください。

露出警告

- シャッター速度の「30"」が点滅するときは、露出アンダーです。シャッター速度の点滅が止まるまで〈 〉を回して絞りを開いて（絞り数値を小さくして）ください。

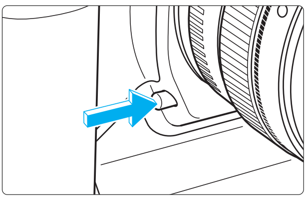


- シャッター速度の「16000」が点滅するときは、露出オーバーです。シャッター速度の点滅が止まるまで〈 〉を回して絞りを閉じて（絞り数値を大きくして）ください。



C.Fn
- セーフティシフト機能を付加することができます。（C.Fn-16→137）
設定した絞り数値に対してシャッター速度が変化しても適正露出が得られないとき、絞り数値が自動的にシフトして適正露出が得られるようにします。これをセーフティシフトといいます。
- 1/3段ステップの絞り数値の設定を1段または1/2段ステップに変更することができます。（C.Fn-06→134）
- 絞り優先AE撮影では、レンズを外した状態でも絞り数値を設定することができます。（C.Fn-05-2, 3→134）

被写界深度を確認する



ピントを合わせた被写体を中心にその前後にもピントの合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度（→156）といいます。絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値まで絞り込み、ピントの合っている範囲をファインダーで確認することができます。

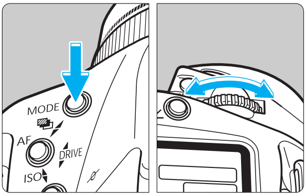
- 絞り込みボタンを押すとAEロック状態になります。
- AF作動中、絞り込みボタンは機能しません。

DEP ピントの合う範囲を決めて撮る

鮮明に写したい範囲を指定して写すことができます。

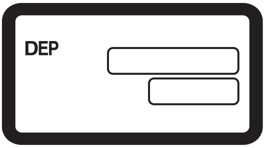
＊DEPとは、Depth of field（デプスオブフィールド）の略で、被写界深度のことです。

- レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（または〈**M**〉）に設定されていると深度優先AE撮影ができません。フォーカスモードスイッチを〈**AF**〉に設定します。



1 上面表示パネルの〈DEP〉を選択する

- 〈MODE〉ボタンを押しながら〈 〉を回して〈**DEP**〉を選択し、〈MODE〉ボタンから指を離します。





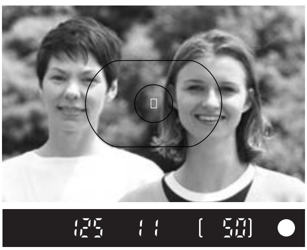
2 鮮明に写したい範囲の、1つ目を指定する

- 1つ目の被写体にピントを合わせます。（⏱6）
- ➡ 合焦マークが点灯して「dEP 1」と表示されます。



3 鮮明に写したい範囲の、2つ目を指定する

- 2つ目の被写体にピントを合わせます。（⏱6）
- ➡ 合焦マークが点灯して「dEP 2」と表示されます。

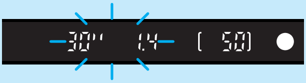


4 構図を決め、露出値を確認して撮影する

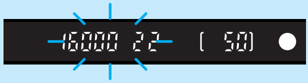
- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 手順2、3で指定した範囲が鮮明に写るよう、ピントと絞り数値が設定されます。シャッター速度は明るさに応じて変わります。
- 構図を決め、露出値が点滅していないことを確認して撮影します。

露出警告

- 絞り数値が点滅する場合は、希望どおりの効果が得られません(ただし、適正露出で撮影できます)。広角レンズを使用するか、被写体から離れて手順2～4の操作をします。
- シャッター速度と絞り数値の両方が点滅するときは露出が不適当です。撮影できますが、明るすぎたり、暗すぎたりする写真になります。詳しくは『露出警告表示一覧表』(→157)を参照してください。
- シャッター速度の「30"」と使用レンズの一番小さな絞り数値(最大口径絞り)が点滅するときは、露出アンダーで深度優先AE撮影できません。



- シャッター速度の「16000」と使用レンズの一番大きな絞り数値(最小口径絞り)が点滅するときは、露出オーバーです。レンズを通る光の量を減らすNDフィルターを付けて撮影します。



- ズームレンズを使用しているときは、撮影が終わるまでズーム操作をしないでください。
- 深度優先AE撮影操作中にAFフレームを選択しなおすと、設定された深度優先AE撮影のデータが解除されます。その場合は選択しなおしたAFフレームで最初から深度優先AE撮影をします。
- ストロボを使用したときはプログラムAEでのストロボ撮影と同じになります。
- 撮影距離範囲を設定できるレンズ(EF300mm F2.8L IS USMなど)を使用して深度優先AE撮影するときは、レンズの撮影距離範囲選択スイッチを「最短撮影距離～∞」に設定します。

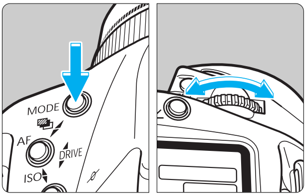
- 自動選択AFフレームによる深度優先AE撮影では、中央のAFフレームのみによるピント合わせになります。
- シャッター速度が遅くなるときは手ブレ防止のため三脚をご使用ください。
- 操作の途中で(⏱6)が切れると深度優先AEのデータは解除されます。そのときは最初からやりなおしてください。
- 深度優先AE撮影を途中で解除するときは、〈MODE〉ボタンまたは〈AF〉ボタン、〈◉⚡〉ボタンのいずれかを押します。

- 被写界深度を深くしたいときは、広角レンズの使用をおすすめします。
- 1点目と2点目のピント合わせを被写体の同じ部分で行うとピントが合う範囲は浅くなります。人物撮影などで、この方法を応用すると人物の前景および背景をぼかした写真を撮ることができます。望遠レンズを使用するといっそう効果的です。

M 自分で露出を決めて撮る

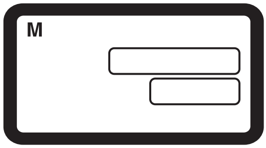
シャッター速度と絞り数値を任意に決めて撮影するときに設定します。露出はファインダー内右の露出レベル表示を参考にしたり、単独露出計を利用し自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

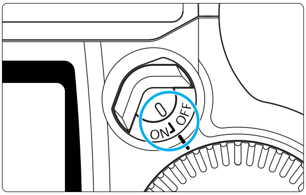
内蔵の露出計機能を利用する



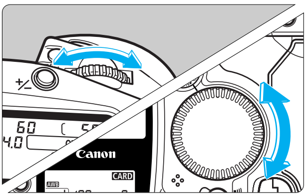
1 上面表示パネルの〈M〉を選択する

- 〈MODE〉ボタンを押しながら〈 〉を回して〈M〉を選択し、〈MODE〉ボタンから指を離します。



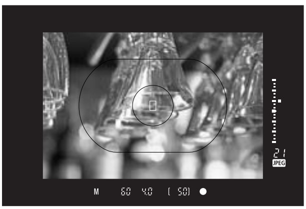


2 〈 〉スイッチを〈ON〉に設定する



3 〈 〉でシャッター速度を、〈 〉で絞り数値を設定する

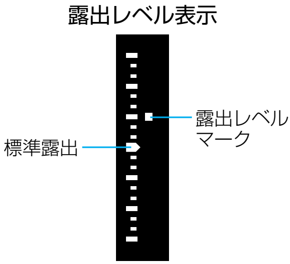
- 絞り数値を〈±〉ボタンと〈 〉で設定することもできます。



4 ピントを合わせる

➡ 露出値が表示されます。

- ファインダー内右側の露出レベルマーク〈□〉で標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。



5 露出を決める

- 露出レベル表示を確認し任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

6 撮影する

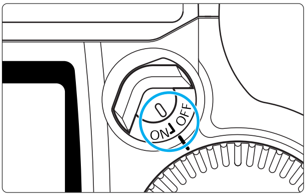
C.Fn

- 〈 〉と〈 〉の機能を入れ換えることができます。（C.Fn-05→134）
- 1/3段ステップのシャッター速度および絞り数値の設定を、1段または1/2段ステップに変更することができます。（C.Fn-06→134）
- レンズを外した状態で絞り数値を手動設定することができます。（C.Fn-05-2, 3→134）

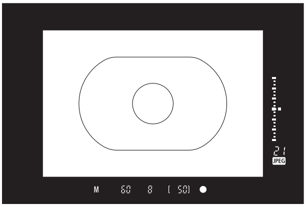
±自分の好みに露出を補正する

カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。ファインダーをのぞいたまま〈◎〉で行う方法と、表示パネルを見ながら〈±〉ボタンと〈⚙〉で行う方法があります。設定できる補正量は1/3段ステップで±3段の範囲です。

〈◎〉による補正

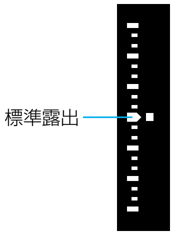


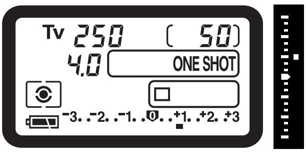
1 〈⏻〉スイッチを〈ON〉に設定する



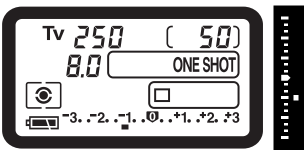
2 被写体にピントを合わせ、露出レベル表示を確認する

露出レベル表示





プラス補正表示



マイナス補正表示

3 〈◎〉を回して希望する補正量を設定する

➡ ファインダー内に露出補正表示〈±〉と露出レベル〈□〉が、表示パネルに露出レベル〈■〉が表示されます。

● 〈◎〉の操作はシャッターボタン半押し中か、シャッターボタン半押し後（⏱6）作動中のみ有効です。

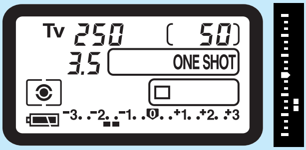
● ファインダー内表示の上側はプラス補正を、下側はマイナス補正を示します。表示パネルの＋側はプラス補正を、－側はマイナス補正を示します。

● 露出補正を解除するときは露出レベルを標準露出指標（〈▷〉または〈0〉）の位置に戻します。

4 撮影する

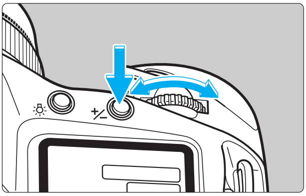
C.Fn 露出補正量を1/2段ステップに変更することができます。(C.Fn-06-2→134)

カスタム機能C.Fn-06-2で1/2段ステップに設定したときの、ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示は図のようになります。

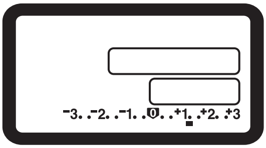


マイナス1½段補正の例

〈+/-〉ボタンと〈ダイヤル〉による補正



〈+/-〉ボタンを押し(⏱6)、作動中に〈ダイヤル〉を回して希望する補正量を設定します。



- 設定した補正量は〈電源〉スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 不用意に〈ダイヤル〉が動いて補正量が変わらないようご注意ください。〈電源〉スイッチを〈OFF〉にすると安全です。

露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影

1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的に露出を変えながら3コマの撮影をすることができます。これをAEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケティング）撮影といいます。AEB撮影には、シャッター速度、または絞り数値を自動的に変えて露出を変えるAEB撮影と、シャッター速度と絞り数値は固定のままで、ISO感度を変えて露出を変えるAEB撮影があります。



標準露出（0）



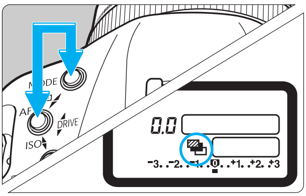
マイナス補正（－1/3）



プラス補正（＋1/3）

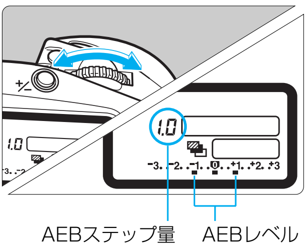
シャッター速度／絞り数値を変えてのAEB撮影

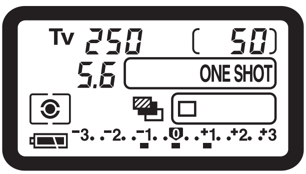
撮影モード〈**P**〉では、シャッター速度と絞り数値の両方を変えてAEB撮影します。
〈**Tv**〉では、絞り数値を変えてAEB撮影します。
〈**Av**〉〈**M**〉〈**DEP**〉では、シャッター速度を変えてAEB撮影します。



1 〈MODE〉ボタンと〈AF〉ボタンを同時に押す

➡ 表示パネルに〈AEBアイコン〉が表示されます。



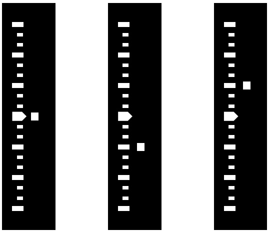


2 そのまま〈電子ダイヤル〉を回してAEBステップ量を設定する

➡ 表示パネルにAEBステップ量とAEBレベル〈■〉が表示されます。
左図は標準露出を中心に1段補正したときの表示です。

● ステップ量を設定したら、〈MODE〉ボタン、〈AF〉ボタンから指を離します。

➡ 設定したAEBレベルが上面表示パネルに表示されます。

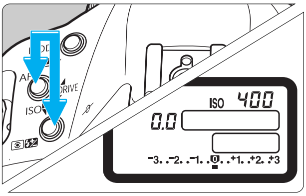


3 撮影する

➡ 標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
➡ ファインダー内の露出レベル表示には、撮影順に補正位置が表示されます。
➡ 設定しているドライブモード（→99）に従って撮影されます。
● 連続撮影に設定しているときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3コマ連続撮影して自動停止します。
● セルフタイマーを併用したときは、2秒または10秒後、自動的に3コマ連続撮影されます。

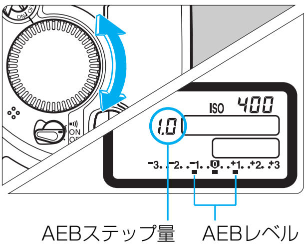
ISO感度を変えてのAEB撮影

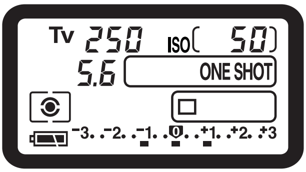
各撮影モード（〈**P**〉〈**Av**〉〈**Tv**〉など）において撮影直前に決まるシャッター速度と絞り数値を固定したまま、ISO感度を自動的に変えてAEB撮影します。〈**M**〉でも使用できます。



1 〈AF〉ボタンと〈◉⚡〉ボタンを同時に押す

➡ ISO感度設定状態になります。
● 標準露出となるISO感度を事前に設定しておいてください。（→49）例えば±1段でISO 200／400／800のAEB撮影を行うときには、ISO 400に設定しておきます。

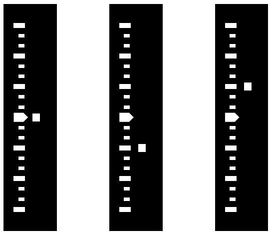




2 そのまま〈◎〉を回してAEBステップ量を設定する

➡ 表示パネルにAEBステップ量とAEBレベル〈■〉が表示されます。
左図は標準露出を中心に1段補正したときの表示です。
● ステップ量を設定したら、〈AF〉ボタン、〈◉⚡〉ボタンから指を離します。
➡ 設定したAEBレベルが上面表示パネルに表示されます。

5 露出制御



標準露出　マイナス補正　プラス補正

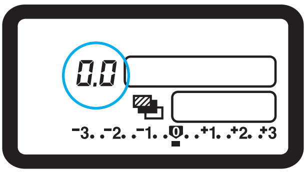
3 撮影する

➡ 標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

➡ ファインダー内の露出レベル表示には、撮影順に補正位置が表示されます。

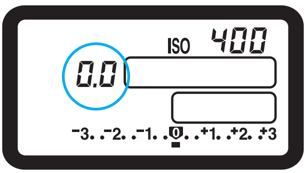
- 連続撮影に設定しているときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3コマ連続撮影して自動停止します。
- セルフタイマーを併用したときは、2秒または10秒後、自動的に3コマ連続撮影されます。

AEB撮影の解除



シャッター速度／絞り数値を変えてのAEB

- 〈MODE〉ボタンと〈AF〉ボタンを押しながら、〈〉を回してAEBステップ量を「0.0」にします。〈MODE〉ボタンと〈AF〉ボタンから指を離すとAEBが解除されます。



ISO感度を変えてのAEB

- 〈AF〉ボタンと〈〉ボタン押しながら、〈〉を回してAEBステップ量を「0.0」にします。〈AF〉ボタンと〈〉ボタンから指を離すとAEBが解除されます。
- AEB撮影は、レンズ交換、CFカード交換、バッテリー交換、バルブ撮影の設定、ストロボ充電完了、〈CLEAR〉ボタン押し、〈〉スイッチ〈OFF〉でも解除されます。
- 必要に応じてISO感度を設定しなおしてください。(→49)

- ストロボ撮影、バルブ撮影、シャッター速度/絞り数値を変えてのAEB撮影、ISO感度を変えてのAEB撮影、ホワイトバランスブラケティング撮影は併用できません。
- カスタム機能C.Fn-12-1でミラーアップを設定した状態でAEB撮影する場合、ドライブモードを連続撮影にしても1コマ撮影となります。
- シャッター速度と絞り数値を変えてのAEB制御範囲は、シャッター速度は1/16000～30秒、絞り数値は使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径絞り）～一番大きな絞り数値（最小口径絞り）です。
- ISO感度を変えてのAEB撮影では、連続撮影速度が最高約2.8コマ／秒となります。
- ISO感度を変えてのAEB制御範囲は、ISO感度200～1600です。制御範囲を越えるAEBステップ量を設定しても、撮影は行われますが露出補正は行われません。

- ドライブモードが1コマ撮影の場合は、シャッターボタンを3回押して撮影してください。
- AEBと露出補正を組み合わせて使用することができます。そのとき、露出レベルの表示範囲を超える露出補正をすると、表示は次のようになりますが、補正は設定どおりに行われます。

  -3. . -2. . -1. . 0. . +1. . +2. . +3　露出レベル表示範囲を超えた例

- シャッター速度／絞り数値を変えてのAEB撮影では、3コマの撮影が終わるまで上面表示パネルの〈AEB〉とファインダー内の〈✱〉が点滅してAEB撮影であることを知らせます。
- ISO感度を変えてのAEB撮影では、3コマの撮影が終わるまで、上面表示パネルの〈ISO〉とファインダー内の〈ISO〉〈✱〉が点滅してAEB撮影であることを知らせます。

C.Fn

- AEBステップ量を1/2段に変更することができます。（C.Fn-06-2→134）
- シャッター速度／絞り数値を変えてのAEB撮影では、マニュアル露出時にシャッター速度固定で絞りを変化させることができます。（C.Fn-05-1→134）
- 撮影順をマイナス補正、標準露出、プラス補正に変更することができます。（C.Fn-09-2, 3→135）
- AEB撮影を、レンズの交換、〈 〉スイッチ〈OFF〉で解除しないようにすることができます。（C.Fn-09-1, 3→135）
- 連続撮影中にもファインダー内情報を表示させることができます。（C.Fn-01-1→133）

5 露出制御

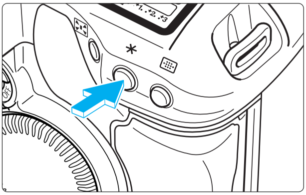
✳ 露出を固定して撮る／AEロック撮影

選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。最初に露出を決めたあとで構図を変える必要がある撮影にご利用ください。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。



1 露出を合わせたい被写体にピントを合わせる

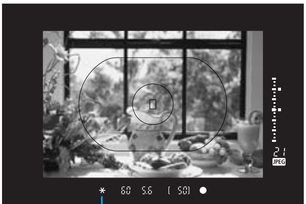
➡ 表示パネルおよびファインダーに露出値が表示されます。



2 〈✳〉ボタンを押す（⏱6）

➡ ファインダー内に〈✳〉が表示され、露出値が固定（AEロック）されます。

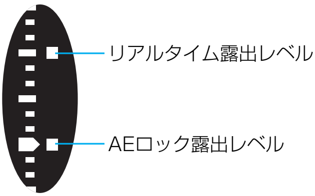
- 〈✳〉ボタンを押し直すたびに、そのときの露出値をAEロックします。
- ファインダー内に〈✳〉が表示されてから（⏱6）が切れるか、〈AF〉ボタン、〈⦿⚡〉ボタン、〈MODE〉ボタンのいずれかを押すと、AEロックは解除されます。



AEロック表示

3 構図を決めて撮影する

- AEロックした露出値と新しい露出値がリアルタイムで表示されます。



ワンショットAFと評価測光の組み合わせの場合、シャッターボタンを半押ししてピントが合うと同時に自動的にAEロックされます。

1点に的確にAEロックを行う場合は部分測光またはスポット測光の使用をおすすめします。（→76）

C.Fn 〈✳〉ボタンの代わりにシャッターボタンを半押ししてAEロックを行い、〈✳〉ボタンでピントを合わせることもできます。（C.Fn-04-1→133）

ドライブモードの選択

ドライブモードには以下の3つの方式があります。

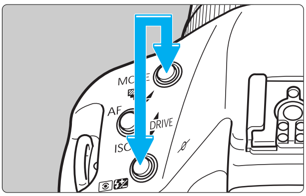
□ 1コマ撮影　：シャッターボタンを押すと1コマ撮影します。

L 低速連続撮影
H 高速連続撮影　：シャッターボタンを押している間、連続撮影ができます。連続撮影時の最大撮影コマ数は、記録画質により表のようになります。

セルフタイマー撮影　：シャッターボタンを押すとセルフタイマーが作動し、約10秒／約2秒後に撮影されます。（→100）

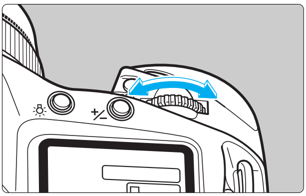
記録画質		連続撮影時の最大撮影可能コマ数　約（コマ）	H 高速連続撮影速度 約（コマ／秒）	L 低速連続撮影速度 約（コマ／秒）
L（ラージ）	（ファイン）	21	8	3
L（ラージ）	（ノーマル）	21	8	3
S（スモール）	（ファイン）	21	8	3
RAW（ロウ）		16	8	3
RAW＋L	（ファイン）	16	8	3
RAW＋L	（ノーマル）	16	8	3
RAW＋S	（ファイン）	16	8	3

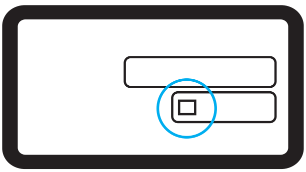
- 連続撮影速度、連続撮影時の最大撮影コマ数は、当社試験基準によります。（シャッター速度1/500秒以上、ISO200設定時）
- 被写体や撮影モード、ISO感度により、最大撮影コマ数は異なります。



1 〈MODE〉ボタンと〈 〉ボタンを同時に押す

➡ ドライブモードが表示されます。





2 そのまま〈 〉を回す

- 希望するドライブモードを選択してボタンから指を離します。

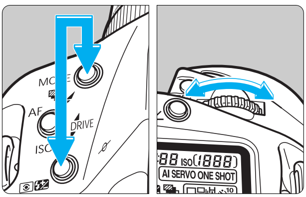
□ 1コマ撮影
↕
H 高速連続撮影・最高約8コマ／秒
↕
L 低速連続撮影・最高約3コマ／秒
↕
10 セルフタイマー撮影（10秒タイマー）
↕
2 セルフタイマー撮影（2秒タイマー）

- 撮影した画像は、一度カメラの内部メモリーに保存してから、順次CFカードに記録するため、連続撮影で内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなります。CFカードへの記録経過にともない次の撮影が可能となりますので、シャッターボタン半押しでファインダー内右下に表示される「連続撮影時の最大撮影可能コマ数」によって、そのとき撮影できるコマ数を確認してください。
  なお、「連続撮影時の最大撮影可能コマ数」は、CFカードを入れていないときにも表示されますので、CFカードが入っていることを確認してから撮影してください。
- ファインダー内と表示パネルに「FuLL CF」が表示されたときは、必ずアクセスランプの点滅が消えてから、CFカードを交換してください。

C.Fn 連続撮影中にもファインダー内情報を表示させることができます。(C.Fn-01-1→133)

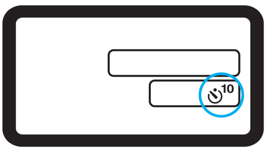
⏱ セルフタイマー撮影

セルフタイマーにはシャッターボタンが押されてから約10秒後に撮影する10秒タイマー（⏱10）と、約2秒後に撮影する2秒タイマー（⏱2）の2種類があります。セルフタイマーを使用しての撮影には三脚を使用します。



1 セルフタイマーを選択する

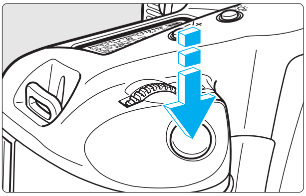
- 〈MODE〉ボタンと〈⊙⚡〉ボタンを押しながら〈⌒〉を回して、希望するセルフタイマーを選択します。



⏱10 ：10秒タイマー
⏱2 ：2秒タイマー

2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいてシャッターボタンを半押しし、合焦マークの点灯と露出表示を確認します。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプが点滅を始め、セルフタイマーが作動中であることを知らせます。撮影2秒前になると点滅が速くなります。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、〈 〉スイッチを〈OFF〉にします。

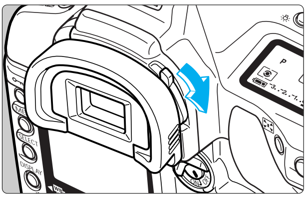
レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ねらった被写体にピントが合わなくなります。

自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック（→61）して撮影します。

2秒タイマーは接写や複写撮影時のカメラブレ（シャッターボタンを押したときにカメラがわずかに揺れること）を防ぐときなどに有効です。

アイピースシャッターの使い方

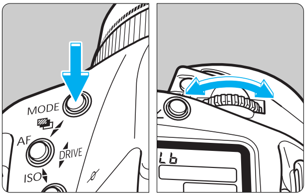
ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すとファインダーから入った光によって露出が変わることがあります。そのようなときは接眼部に内蔵されたアイピースシャッターを使います。



アイピースシャッターレバーを矢印の方向に操作するとアイピースシャッターを閉じることができます。逆方向に操作するとアイピースシャッターが開きます。

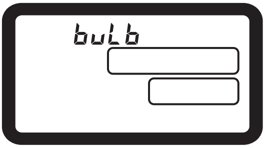
長時間露光（バルブ）撮影

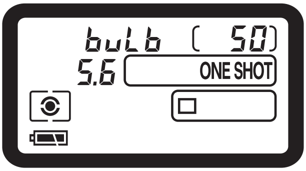
シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。



1 表示パネルに「buLb」を表示する

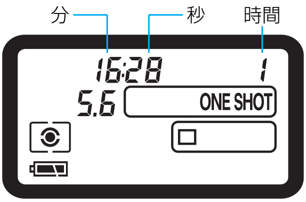
- 〈MODE〉ボタンを押しながら〈 〉を回して「buLb」を表示し、〈MODE〉ボタンから指を離します。





2 絞り数値を設定する

- 〈 〉スイッチを〈ON〉にしておくと、〈 〉〈 〉のどちらでも設定できます。



3 撮影する

➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。

- 露光はシャッターボタンを押している間だけ行われます。

1秒以上の長時間露光は、撮影画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像となります。

- 長時間露光の撮影では、撮影画像にノイズが含まれる場合があります。「ノイズ低減機能」でノイズを少なくすることができます。（→129）
- 連続してバルブ撮影を行ったときの撮影可能時間は、約1.5時間（フル充電バッテリー使用時）です。

シャッターボタンを押したままにできる機能がついているリモートスイッチRS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラーTC-80N3（別売）をカメラのリモコン／通信端子に接続して使用すれば、指でシャッターボタンを押したままにする必要はありません。（→167）

MENU ノイズを低減する

長秒時露光やバルブ撮影を行ったときに発生するノイズや、高感度側で目立つことのある横縞ノイズを低減することができます。



1 メニューから[ノイズ低減]を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して、〈📷〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して[**ノイズ低減**]を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



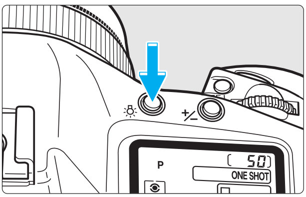
2 ノイズ低減を設定する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して希望する項目を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

設 定	ノイズ低減の内容
入 1	長秒時露光やバルブ撮影を行ったときに発生するノイズを、ISO100〜3200の範囲で低減します。
入 2	[入1]使用時に高感度側で目立つことのある横縞ノイズを、ISO200〜3200の範囲で低減します。また、長秒時露光やバルブ撮影を行ったときに発生するノイズも低減します。なお、[入1]よりもダイナミックレンジが狭くなりますので、画像特性を確認してからご使用ください。

長秒時露光とバルブ撮影時のノイズ低減処理は撮影後、露光時間と同じ時間をかけて行われます。ノイズ低減処理中は、上面表示パネルの「buSY」表示が消えるまで撮影ができません。

表示パネルの照明



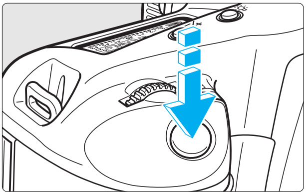
上面と背面の表示パネルには照明機能が付いています。〈☼〉ボタンを押すたびに照明は点いたり（⏱6）消えたりします。暗い場所での撮影で表示パネルが見にくいときにご使用ください。表示パネルの照明は撮影終了後、約2秒で自動的に消えます。バルブ撮影では、撮影開始と同時に表示パネルの照明は消えます。

表示パネルが照明されている間に各種の操作ボタンを操作すると照明時間は延長されます。

ミラーアップ撮影

カスタム機能C.Fn-12（➝136）を利用して、ミラーアップと露光を別々に行うミラーアップ撮影を行うことができます。ミラーショックが気になる接写や超望遠レンズを使用するときにご活用ください。カスタム機能の設定は『カスタム機能の設定方法』（➝132）を参照してください。ミラーアップ撮影を設定すると、カメラの作動は以下のようになります。

- ミラーアップ撮影にはリモートスイッチRS-80N3（別売➝167）の併用をおすすめします。



1 シャッターボタンを全押しする

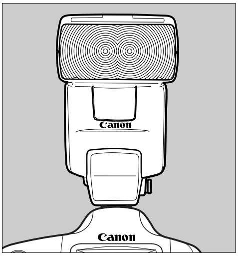
➡ ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーは自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しするとミラーアップします。

2 再度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

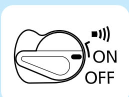
- 晴天の真夏の海岸やスキー場のように極端に明るいところでのミラーアップ撮影では、ミラーアップ安定後速やかに撮影してください。
- ミラーアップ撮影ではレンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影するとき、セルフタイマー作動中にシャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが実際は撮影されていませんのでご注意ください。

- ミラーアップ撮影は、ドライブモードの設定（1コマ撮影・連続撮影）にかかわらず1コマ撮影（□）になります。
- セルフタイマーとミラーアップを併用すると、始めのシャッターボタン全押しでミラーが上がり10秒セルフタイマー（10）のときは10秒後に、2秒セルフタイマー（2）のときは2秒後に撮影されます。



ストロボを使った撮影

このカメラでは、EOS専用のEXシリーズスピードライトを使用して、通常のAE撮影と同じ感覚で簡単にストロボ撮影を行うことができます。EXシリーズスピードライトと組み合わせると、通常のE-TTL自動調光はもちろん、高度なE-TTLワイヤレス多灯撮影もオートで行うことができます。
ここでは、550EXを組み合わせた時の簡単な撮影と、EOS-1Dで操作できる機能を中心に説明します。550EXの詳しい操作については、550EXの使用説明書を参照してください。





あらかじめ〈〉スイッチを〈ON〉に設定してください。また、必要に応じ、〈〉スイッチを〈ON〉に設定してください。

EOS専用スピードライト550EXを使用した撮影

キヤノンスピードライト550EXを取り付けると、通常のAE撮影と同じ操作感覚で、次のストロボ撮影を簡単に行うことができます。

●E-TTL自動調光



E-TTL自動調光（プリ発光・記憶式評価調光）により、AFでピントを合わせた被写体に最適なストロボ光を与えます。暗いところでは、カメラを絞り優先AEにすると自動スローシンクロになり、主被写体も背景も適正露出の、雰囲気の良い自然な撮影を全自動で行うことができます。

●ハイスピードシンクロ（FP発光）

30秒から1/16000秒の全シャッター速度に同調するハイスピードシンクロ（FP発光）撮影ができます。

フラッシュ エクスポージャー
●FE（Flash Exposure）ロック

被写体の任意の部分のストロボ露出を適正にする、FEロック撮影ができます。このFEロックは、ストロボ光のAEロック機能です。

●ストロボ調光補正

通常のAE露出補正と同じ感覚で、ストロボ光のみの調光補正を行うことができます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

フラッシュ エクスポージャー ブラケティング
●FEB（Flash Exposure Bracketing）撮影

ストロボ光のAEBである、FEB撮影を行うことができます。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

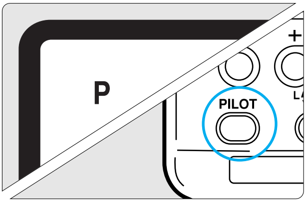
●ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影

カメラに直接取り付けたときと同じ感覚で、上記すべての機能を活用したワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影ができます。接続コードが不要であるため、自由で高度なライティング設定が可能です。

- E-TTLのEは、英語のEvaluative（評価）の頭文字をとったものです。
- AF撮影のストロボ露出は、常に撮影時の絞り数値（自動あるいは手動で設定された絞り数値）を基準に、AFフレーム連動・主被写体重視のE-TTL自動調光で制御されます。
- ピントが合わせにくい状況では、550EXに内蔵されたエリアAF対応AF補助光が、被写体に向けて自動投光されます。

E-TTL自動調光撮影

ここでは、〈**P**〉プログラムAEと組み合わせたE-TTL自動調光撮影を説明します。550EXの操作については、550EXの使用説明書を参照してください。



1 カメラの撮影モードを〈P〉にする

2 550EXのパイロットランプの点灯を確認する

3 被写体にピントを合わせる



4 撮影する

- ファインダー内の〈ϟ〉の点灯と、シャッター速度、絞り数値を確認して撮影します。

撮影モード別・E-TTL自動調光撮影

〈**Tv**〉、〈**Av**〉、〈**M**〉の撮影モードと組み合わせたときも、ストロボを使用しない通常撮影と同じ操作でE-TTL自動調光撮影を行うことができます。

(1)シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度や絞り数値は、通常のストロボを使用しない撮影と同じようにカメラによって設定されます。

撮影モード	シャッター速度の設定	絞り数値（調光絞り値）の設定
Tv（シャッター優先AE）	手　動（30秒～1/500秒）	自　動
Av（絞り優先AE）	自　動（30秒～1/500秒）	手　動
M（マニュアル露出）	手　動（30秒～1/500秒）	手　動

＊ 暗いところで〈**Av**〉を設定すると、シャッター速度が遅くなりますので、手ブレ防止のため、三脚をお使いください。

(2)シャッターボタンを全押しすると、(1)で設定された絞り数値を基準にした「プリ発光・記憶式評価調光」により、E-TTL自動調光撮影が行われます。

(3)背景の露出は、その時のシャッター速度と絞り数値の組み合わせによって決まります。

⚡H ハイスピードシンクロ（FP発光）撮影

550EXをハイスピードシンクロモード（⚡H）にすると、1/500秒よりも速いシャッター速度が設定されても、自動的に全てのシャッター速度に同調したハイスピードシンクロ（FP発光）撮影が可能になります。ハイスピードシンクロ状態になるとカメラのファインダー内に〈⚡H〉が表示され、ハイスピードシンクロであることを示します。
ハイスピードシンクロ撮影は次のような状況のポートレート撮影などで効果を発揮します。

(1)日中シンクロによるポートレート撮影で絞りを開いて（絞り数値を小さくして）背景をぼかす。
(2)キャッチライトを入れる。
(3)シャドー部に補助光を与える。

FEB撮影

550EXでは背景の露出を変えずに1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的に発光量を変えながら3コマのストロボ撮影を行うことができます。これをFEB（Flash Exposure Bracketing）撮影といいます。


標準露出


マイナス補正（−2/3）

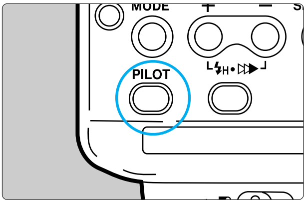

プラス補正（+2/3）

- FEBの設定は550EXで行います。詳細は550EXの使用説明書を参照してください。
- 550EXで設定した補正量はカメラのファインダー内の調光レベル表示で確認することができます。
- FEB撮影は550EXの充電を確認してから行ってください。〈□〉（1コマ撮影）をおすすめします。

C.Fn 補正量を1/2段ステップにすることができます。（C.Fn-06-2→134）

FEL FEロック撮影

FE（Flash Exposure）ロック撮影は被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。



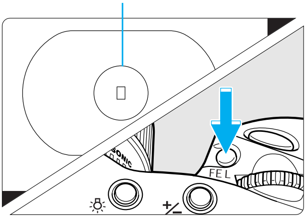
1 550EXのパイロットランプの点灯を確認する

- 発光モードは、通常発光、ハイスピードシンクロのどちらでもかまいません。それぞれの発光モードに対応したFEロックを行うことができます。

2 ピントを合わせる

- 露出を合わせたい被写体にピントを合わせます。

中央部スポット測光範囲



3 ファインダーの中央部スポット測光範囲を被写体に合わせて〈FEL〉ボタンを押す（⏱16）

➡ ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。
➡ FEロックされたAFフレームが一瞬赤く光ります。
➡ ファインダー内下部の表示が0.5秒間、①のようになり、そのあと②の表示になります。





4 撮影する

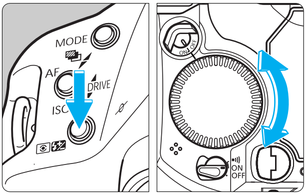
- 構図を決めて撮影します。

被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときは〈⚡〉が点滅します。ISO感度を上げるか、被写体に近づいて手順3、4の操作をします。

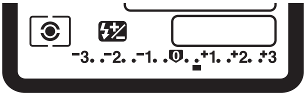
C.Fn 任意選択したAFフレームでFEロックすることができます。（C.Fn-13-1, 3→136）

ストロボの調光補正

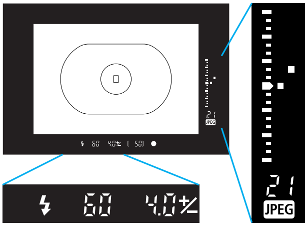
専用ストロボの自動調光レベルをカメラで補正することができます。設定できる補正量は1/3段ステップで±3段の範囲です。



1 〈 〉ボタンを押しながら〈 〉で希望する補正量を設定する



- 表示の＋側はプラス補正を示し、－側はマイナス補正を示します。左の図はプラス2/3段の補正を表しています。



2 撮影する

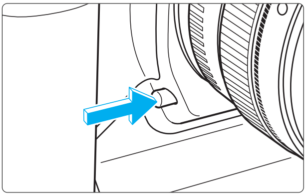
- シャッターボタンを半押しするとファインダー内右の表示で、設定した調光補正量を確認することができます。
- 〈 〉ボタンを押すと設定した調光補正量を表示パネルで確認することができます。
- 調光補正を解除するときは補正量を標準露出指標〈0〉の位置に戻します。

- 設定した調光補正量は〈 〉スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- EOS専用ストロボの中には、ストロボ側でも調光補正を設定できるものがあります。これらのストロボとカメラの両方で調光補正を行った場合は、ストロボ側の補正が優先し、カメラによる補正は機能しません。

C.Fn 調光補正量を1/2段ステップに変更することができます。（C.Fn-06-2→134）

モデリング発光

ストロボ撮影による被写体の影の出方や、多灯発光によるライティングのバランスを確認することができます。



1 ストロボ撮影のためのカメラとストロボの設定を確認する

2 カメラの絞り込みボタンを押す

➡ 550EXが70Hzで1秒間発光します。

ワイヤレス多灯撮影

550EXは、次の3つの機能を備えています。

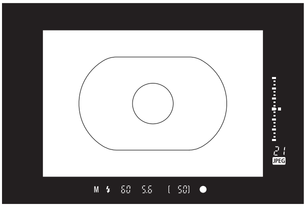
(1) 通常のE-TTL自動調光ストロボ
(2) スレーブストロボ
(3) スレーブ設定された550EXをワイヤレス制御するマスター機能

これらの機能を活用すると、カメラ・ストロボ間の接続コードが不要の「ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影」を簡単に行うことができます。
このシステムは、3灯までの組み合わせ、メイン・サブに区分した光量比の設定など、高度で自由なストロボライティングを実現したものです。

● 詳細は、550EX、ST-E2の使用説明書を参照してください。

ストロボメータードマニュアル

マニュアル発光時の適正調光レベルを、ファインダー内右に表示される調光レベルで決めることができる、近接撮影向けの機能です。
なお、この機能を使用するためには、マニュアル発光ができるE-TTL自動調光ストロボ（MR-14EXなど）と、市販の18%標準反射板が必要です。

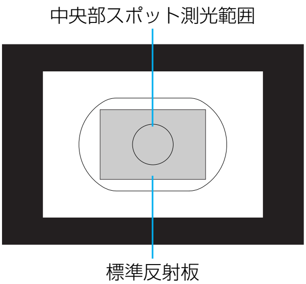


1 カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈**M**〉、または〈**Av**〉に設定します。AFフレームは中央を選択します。
- ストロボは、マニュアル発光に設定します。

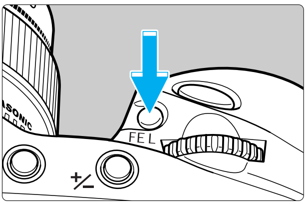
2 ピントを合わせる

- 手動ピント合わせで被写体にピントを合わせます。



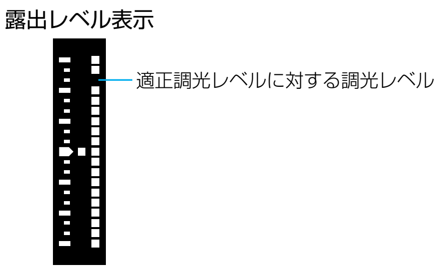
3 標準反射板をセットする

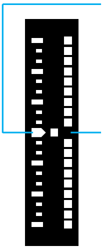
- 標準反射板を被写体と等距離の位置におきます。
- 標準反射板の中に、ファインダーの中央部スポット測光範囲が完全に入る距離で撮影してください。



4 中央部スポット測光範囲を標準反射板に合わせて〈FEL〉ボタンを押す（⏱16）

➡ ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。
➡ ファインダー内右の露出レベル表示に、適正調光レベルに対する調光レベルが表示されます。





5 適正調光レベルを設定する

- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるよう、ストロボのマニュアル発光レベルと絞り数値を設定します。

6 撮影する

- 構図を決めて撮影します。

TTL、A-TTL自動調光スピードライトについて

- TTL、A-TTL自動調光のEZ/E/EG/ML/TLシリーズスピードライトをTTL、A-TTL自動調光状態で使用すると常時フル発光します。カメラの撮影モードをマニュアル露出、または絞り優先AEに設定すると、絞り数値を変えてのマニュアル・フル発光撮影を行うことができます。なお、ストロボ側の表示は、TTL、またはA-TTL自動調光状態のままです。
- 550EXのカスタム機能C.Fn-3-1を設定して、TTL自動調光にしているときにも常時フル発光となります。

汎用ストロボを使用した撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/500秒以下のシャッター速度で、スタジオ用の大型ストロボは1/125秒以下のシャッター速度で同調撮影することができます。なお、お使いになるストロボがカメラに正しく同調するかどうか、あらかじめ確認してからお使いください。

シンクロ端子について

- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。シンクロ接点はコードの抜け落ちを防止するロックねじ付きです。
- このカメラのシンクロ端子には極性がありませんので、お使いのシンクロコードの極性に関係なく、そのまま使用することができます。

- 他社製の特定のカメラ専用のストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持っています）およびストロボ用付属品をお使いになると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因となることがありますのでご注意ください。同様に、カメラのシンクロ端子に250V以上の電圧がかかるものも使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することができます。

7 撮影画像の再生

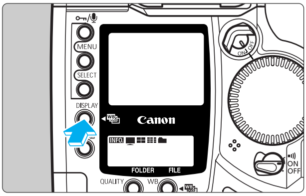
撮影した画像を見る方法や削除の方法、また録音の方法について説明します。

他の機器で撮影・記録された画像データについて

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影した後にコンピュータなどで画像データを加工したりファイル名を変更した画像は、正常に表示できない場合があります。

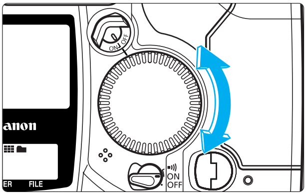
撮影した画像を再生する

撮影した画像を自由に選択して、1コマ表示やインデックス表示で見ることができます。



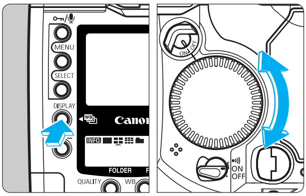
1 画像を再生する

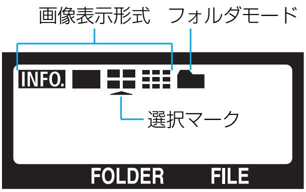
- 〈DISPLAY〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。
- 再度〈DISPLAY〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えます。



2 表示画像を切り換える

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈○〉を左に回すと、最後に撮影された画像から新しい順に画像が切り換わります。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈○〉を右に回すと、古い画像から順番に新しい画像が表示されます。





3 画像の表示形式を変える

- 〈DISPLAY〉ボタンを押しながら〈○〉を回します。
- ➡ 背面表示パネルの選択マークが移動して、液晶モニターの画像表示形式が変わります。
- 希望する画像表示形式が表示されたら、〈DISPLAY〉ボタンから指を離します。
- 〈DISPLAY〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えて、再生が終了します。

INFO.	■	4コマ	9コマ
撮影情報表示（→118）	1コマフル表示	4コマインデックス表示	9コマインデックス表示









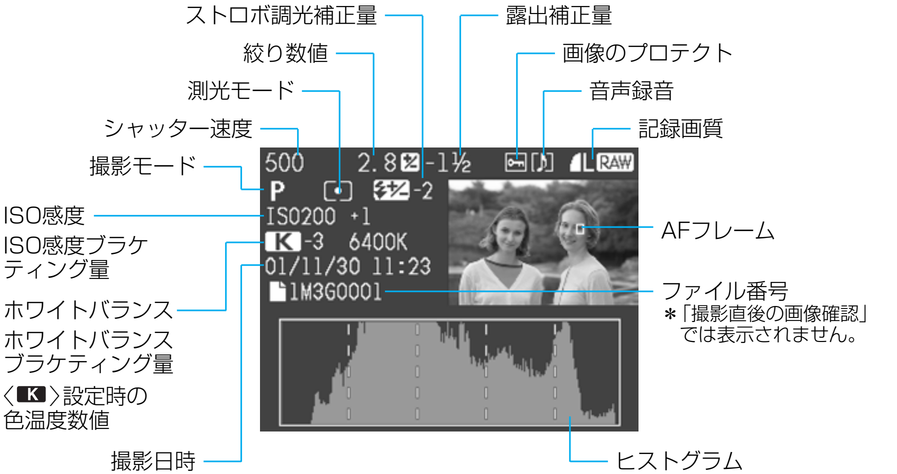
- 再生状態のままカメラを放置すると、オートパワーオフ（→130）で設定した半分の時間で再生が終了します。なお、オートパワーオフ［切］に設定したときは15分で再生が終了します。
- 画像の再生は、フォルダ単位で行います。ほかのフォルダに入っている画像を再生するときはフォルダを選んでから（→55）手順1の操作を行ってください。
- 画像のプロテクト（→119）、画像への音声記録（→121）は、どの表示形式でも行うことができます。

連続撮影後の自動再生について

- 連続撮影後のアクセスランプ点滅中に〈DISPLAY〉ボタンを押すと、CFカードに保存中の画像を自動再生します。
  なお、自動再生される画像は、連続撮影1コマ目からの画像ではなく、〈DISPLAY〉ボタンを押したときに保存を行っている画像からとなります。
- 自動再生は、左ページで設定した画像表示形式で行われます。
- 〈DISPLAY〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えて再生が終了します。

- 最終コマ表示後もCFカードへの保存が行われていますので、アクセスランプの点滅が終わるまで、CFカードスロットカバーを開いたり、バッテリーを取り外したりしないでください。
- 背面表示パネルの〈■〉の下に選択マークがある状態では、自動再生できません。

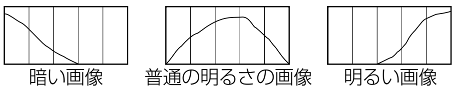
撮影情報表示について



ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、横軸に明るさ、縦軸にその明るさの画素数を積み上げたグラフです。左によるほど暗い画素になり、右によるほど明るい画素になります。このヒストグラムを見ることにより、撮影した画像がどの程度の明るさか判断することができます。
ヒストグラムを見て、暗いほうに偏っているようであれば、露出補正（→92）をプラス補正し、明るいほうに偏っているようであれば、マイナス補正し、再撮影することで良い結果が得られます。

ヒストグラム例



MENU ハイライト警告表示について

メニュー機能〈▶〉の［**ハイライト警告表示**］を［**入**］に設定すると、撮影情報表示（INFO.）と1コマ表示（■）にしたときに撮影画像の露出オーバー部分を点滅表示します。（→129）「撮影直後の画像確認」のときにもハイライト警告表示します。
ヒストグラムを参考に露出をマイナス補正して再撮影すると良い結果が得られます。

MENU AFフレームについて

メニュー機能〈▶〉の［**AFフレーム表示**］を［**入**］に設定すると、撮影情報表示（INFO.）の画像に、AFフレームを表示します。（→129）
ワンショットAF撮影の画像では、ピントの合ったAFフレームを表示します。なお、AFフレーム自動選択で撮影したときは、ピントの合ったAFフレームが複数表示されることがあります。
AIサーボAF撮影の画像では、選択したAFフレームを表示します。
メニュー機能〈📷〉の［**撮影画像の確認**］が［**入（Info.）**］のときにもAFフレームを表示します。

⊶ 撮影画像にプロテクトをかける

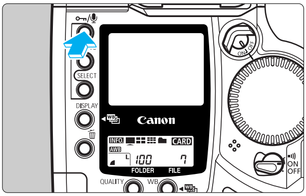
1コマずつプロテクトをかける

大切な画像を間違って消さないように、プロテクトをかけることができます。



1 プロテクトをかけたい画像を選ぶ

- 〈DISPLAY〉ボタンを押して記録画像を再生します。（→116）
- プロテクトは、どの表示形式でもかけることができます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回してプロテクトをかけたい画像を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。





2 プロテクトをかける

- 〈⊶/🎙〉ボタンを押します。
- ➡ プロテクトが設定されると〈⊶〉が表示されます。
- 再度、〈⊶/🎙〉ボタンを押すとプロテクトが解除され、〈⊶〉が消えます。
- 引き続きプロテクトをかけたい画像がある場合は、画像を選んで〈⊶/🎙〉ボタンを押す操作を繰り返してください。
- 撮影直後の画像確認中に、この手順 2 でプロテクトをかけることもできます。
- 〈DISPLAY〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、再生が終了します。

プロテクトをかける際に〈⊶/🎙〉ボタンを約2秒間押したままにすると、録音機能（→121）が働き、プロテクトをかけることができません。プロテクトをかける際は、〈⊶/🎙〉ボタンを押して〈⊶〉が表示されたら、すぐに指を離してください。

- フォルダ内に記録されている全ての画像や、CFカード内に記録されている全ての画像に対し、一括してプロテクトをかけることができます。（→120）
- プロテクトをかけた画像は、このカメラの消去機能で消去できません。消去する場合は、プロテクトを解除してください。

必要な画像にプロテクトをかけて全画像消去（→123, 125）を行うと、プロテクトをかけた画像以外は、全て消去されます。必要な画像以外を一度にまとめて消去する際に便利です。

MENU フォルダ内の全画像や、CFカード内の全画像に一括してプロテクトをかける

選択しているフォルダ（→55）内に記録されている全ての画像や、CFカード内に記録されている全ての画像に対し、一括してプロテクトをかけることができます。



1 メニューから［画像プロテクト］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して〈▶〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**画像プロテクト**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



2 プロテクトをかける

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**フォルダ内・全選択**］、または［**カード内・全選択**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ 確認画面が表示されます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



プロテクトをかけた画像は、このカメラの消去機能で消去できません。消去する場合は、プロテクトを解除してください。

プロテクトを一括して解除する



- 手順 2 で、［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選ぶと、一括してプロテクトを解除することができます。

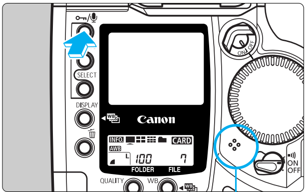
🎤 記録画像に音声を録音する

記録画像に音声を録音することができます。録音した音声は、音声データとして画像ファイルに添付され、付属のソフトウェアにより再生することができます。



1 音声を録音したい画像を選ぶ

- 〈DISPLAY〉ボタンを押して記録画像を再生します。(→116)
- 音声録音は、どの表示形式でも行うことができます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して音声を録音したい画像を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



マイク

2 録音する

- 〈⊶/🎤〉ボタンを約2秒間押したままにします。
- ➡ [**録音中…**]が表示されたら、〈⊶/🎤〉ボタンを押したまま、録音マイクに向かって話します。
- ➡ 画面右下に録音経過時間が表示されます。



- 話し終わったら、〈⊶/🎤〉ボタンから指を離します。
- ➡ 音声が録音された画像には、〈♪〉が表示されます。



- 一度に録音できる時間は最長約30秒です。
- 30秒以上の録音を行うときは、再度、手順 **2** を繰り返してください。
- 撮影直後の画像確認中に、この手順 **2** で1回だけ録音を行うことができます。
- 〈DISPLAY〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、撮影画像の再生が終了します。

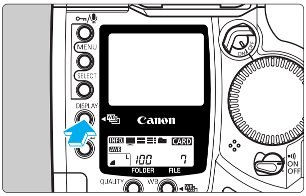
> ❗
> - プロテクトされている画像には録音できません。
> - EOS-1Dには、音声再生機能はありません。撮影画像をコンピューターに取り込んでから、付属のソフトウェアにて、音声再生してください。
> - 録音する際に〈⊶/🎙〉ボタンを押して、すぐに指を離すとプロテクト機能（→119）が働き、録音することができません。録音する際は、［**録音中...**］が表示され、録音を終えるまで、〈⊶/🎙〉ボタンを押したままにしてください。
> - 音声を録音した画像を消去すると、録音した音声も消去されます。また、録音した音声のみの消去はできません。

撮影画像を消去する

画像を消去する方法には、〈🗑〉ボタンによる1コマ消去、フォルダ内の全画像消去と、メニュー機能によるCFカード内の全画像消去があります。

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。
- 大切な画像を誤って消去しないよう、プロテクトをかけてください。（→119）

🗑 1コマ消去

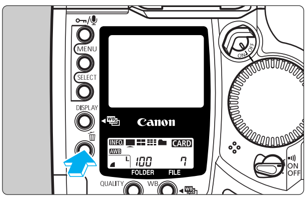


1 再生する

- 〈DISPLAY〉ボタンを押して撮影した画像を再生します。
- ➡ 最後に撮影された画像が表示されます。

2 消去する画像を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して消去したい画像を選びます。



3 消去メニューにする

- 〈🗑〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニター下部に消去メニューが表示されます。〈🗑〉ボタンをもう一度押すと消去メニューが消えます。
- 撮影直後の画像確認中に、この手順**3**、**4**で消去を行うこともできます。

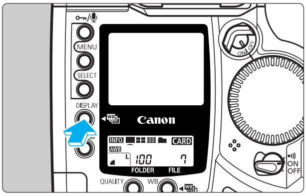


4 消去する

- 〈🗑〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、〈🗑〉ボタンから指を離します。
- ➡ アクセスランプが点滅して画像が消去されます。
- 引き続き消去したい画像があるときは、手順2、4を繰り返してください。
- 〈DISPLAY〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、再生が終了します。

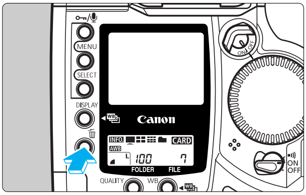
🗑 フォルダ内の全画像消去

1 全画像消去するフォルダを選択する（→55）



2 再生する

- 〈DISPLAY〉ボタンを押します。
- フォルダモードが表示されたときは、〈DISPLAY〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して再生モードにします。どの再生モードでもかまいません。



3 消去メニューにする

- 〈🗑〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニター下部に消去メニューが表示されます。

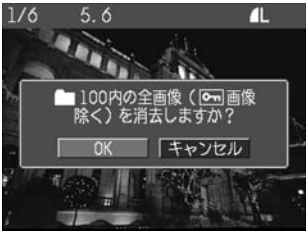




4 消去メニューの [ALL] を選ぶ

- 〈🗑〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して [ALL] を選び、〈🗑〉ボタンから指を離します。

➡ 消去確認画面が表示されます。



5 消去する

- 〈🗑〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して [OK] を選び、〈🗑〉ボタンから指を離します。

➡ プロテクトをかけていない、すべての画像が消去されます。

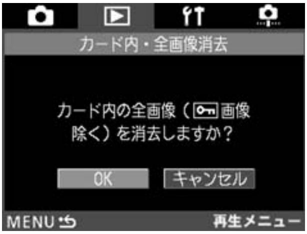
- 〈DISPLAY〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えて、再生が終了します。

MENU CFカード内の全画像を消去する



1 メニューから［カード内・全画像消去］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して〈▶〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**カード内・全画像消去**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。





2 消去する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ プロテクトされていない、すべての画像が消去されます。
- 画像の消去が完了するとメニュー画面に戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

7 再生操作

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

プロテクトをかけた画像は、このカメラの消去機能で消去できません。消去する場合は、プロテクトを解除してください。（→119）

必要な画像にプロテクト（→119）をかけて全画像消去を行うと、プロテクトをかけた画像以外は全て消去されます。必要な画像以外を一度にまとめて消去する際に便利です。

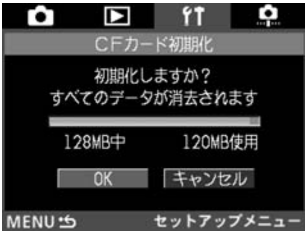
MENU CFカードを初期化する

このカメラで使用できるようにCFカードを初期化します。また、CFカードをカメラに入れたとき、表示パネルに「Err CF」(CFエラー警告)が表示されたときも、CFカードを初期化することで、使用することができる場合があります。



1 メニューから[CFカード初期化]を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して、〈ƒT〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して[**CFカード初期化**]を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



2 [OK]を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して[**OK**]を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ CFカードが初期化されます。
- 初期化が完了するとメニュー画面に戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

> CFカードを初期化すると、CFカード上の記録内容はすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、CFカード上の記録内容を十分に確認してから行ってください。

- キヤノン製以外のCFカードや、他のカメラ、コンピューターで初期化したCFカードを使用すると正しく動作しない場合があります。その際は、必ずこのカメラで初期化してください。初期化することで、使用することができるようになる場合があります。
- 表示パネルに「Err CF」(CFエラー警告)が表示されたときは、スキャンディスクなどのユーティリティーソフトを使って、カードの診断および修復することをおすすめします。
- 初期化や、スキャンディスクなどのユーティリティーソフトを使ってカードの診断および修復作業を行っても、表示パネルに「Err CF」(CFエラー警告)が表示されたり、正しく動作しないときは、別のCFカードに交換してください。

8 メニューによる機能設定

このカメラでは、さまざまなカメラの設定をメニューで行います。このメニューの中で、特に撮影に関する設定のことをカスタム機能と呼んでいます。本文中では C.Fn マークを付けて簡単な説明をしています。
ここでは、メニューの一覧とカスタム機能の活用方法について詳しく説明します。メニューの操作方法については、『メニュー機能の操作と設定』(→32, 33)を参照してください。

MENU メニュー機能一覧



マニュアルホワイトバランスの画像選択

マニュアルホワイトバランスを設定するときの画像を選択します。(→43)



色温度数値の直接設定

市販の色温度計などで測定した色温度数値を[2800]～[10000]K(100Kステップ)の範囲で設定できます。(→44)



現像パラメーターの選択

標準設定のほかに、付属のソフトウェアで設定、登録した現像パラメーターを選びます。(→50)



カラーマトリックス

フィルム特性に相当する色相・彩度や、色域特性(色の再現領域)を選択します。(→48)



RAW画像とJPEG画像同時記録の設定

1回の撮影で、RAWとJPEG、2つの画像形式を同時に記録できます。

[RAW+◢ L][RAW+▟ L][RAW+◢ S][RAWのみ]から選びます。(→40)



撮影直後の画像確認の設定

撮影直後に、画像を液晶モニターに表示させるかどうかを設定します。[入][入(Info.)][切]から選びます。表示時間は、次項に記載している[**撮影画像の確認時間**]で設定します。(→52)



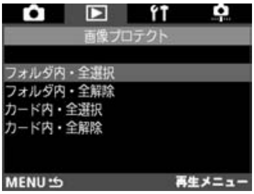
撮影直後の画像確認時間の設定

[**撮影画像の確認**] を [**入**] か [**入(Info.)**] にした場合、撮影画像が表示されている時間を設定できます。
[**2秒**]、[**4秒**]、[**8秒**]、[**ホールド**] から選びます。(→53)



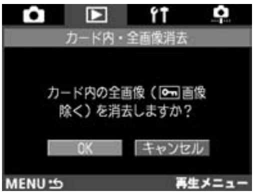
ノイズ低減の設定

長秒時露光や高感度側で発生するノイズを低減します。
[**切**]、[**入1**]、[**入2**] から選びます。(→103)



撮影画像のプロテクト

選択中のフォルダや、使用中のCFカードに入っている全画像に、一括してプロテクトをかけたり、解除したりできます。
[**フォルダ内・全選択**] [**フォルダ内・全解除**] [**カード内・全選択**] [**カード内・全解除**] から選びます。(→120)



カード内の全画像消去

使用中のCFカードに入っている撮影画像の中から、プロテクトされていない画像をすべて消去します。(→125)



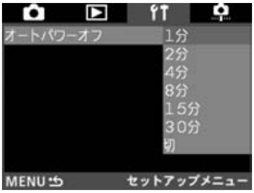
ハイライト警告表示の設定

撮影画像の表示形式を INFO.(撮影情報表示)、または「1コマフル表示」にした際、撮影画像の露出オーバー部分を点滅表示させる機能の [**入**] [**切**] を設定します。(→118)



AFフレームの表示

撮影画像の表示形式を INFO.(撮影情報表示)にした際、AFフレームを表示させる機能の [**入**] [**切**] を設定します。(→118)
ワンショットAF撮影の画像ではピントの合ったAFフレームを、AIサーボAF撮影の画像では選択したAFフレームを表示します。



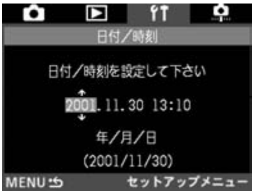
オートパワーオフの設定

バッテリーの消耗を防ぐため、一定時間操作しないと自動的に電源が切れるオートパワーオフ機能の時間を設定します。
［**1分**］［**2分**］［**4分**］［**8分**］［**15分**］［**30分**］［**切**］から選びます。



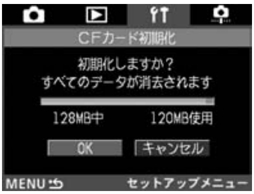
ファイル番号の付け方の設定

撮影した画像に自動的に振られる番号の付け方を設定します。
［**オートリセット**］［**通し番号**］から選びます。（→56）
［**強制リセット**］を選択すると、新しいフォルダを作成・選択してファイル番号を0001にリセットします。



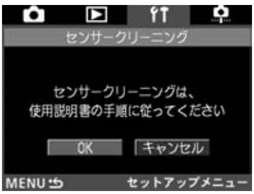
日付/時刻の設定

日付と時刻を設定します。また、年月日の表示順も設定できます。（→148）



CFカードの初期化

このカメラにセットしたCFカードを初期化します。（→126）



センサークリーニング

撮像素子の表面についたゴミなどを清掃するときに選びます。（→150）



液晶モニターの明るさの設定

液晶モニターの明るさを設定します。〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して、5段階に調整できます。



ファームウェア（→155）のアップデート

アップデート時以外に選択すると、「アップデートするには、ファームウェアの入ったCFカードが必要です」というメッセージが表示されます。〈MENU〉ボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。新しいファームウェアのご提供やアップデート方法につきましては、弊社ホームページなどにて適時ご案内いたします。



表示言語の設定

メニュー画面に表示される言語を設定します。
［**English**］（英語）、［**Deutsch**］（ドイツ語）、［**Français**］（フランス語）、［**Español**］（スペイン語）、［**日本語**］から選びます。



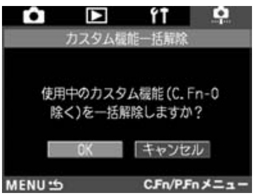
カスタム機能の設定

撮影スタイルに応じてカメラの機能を細かく変更できるカスタム機能を設定します。（→132）



パーソナル機能の設定

カスタム機能のグループ登録を行います。また、付属のソフトウェアで設定したパーソナル機能をひとつずつON/OFFできます。（→145）



カスタム機能の一括解除

使用中のカスタム機能を一括解除します。なお、C.Fn-00は解除されません。（→139）



パーソナル機能の一括解除

パーソナル機能を一括解除します。解除したパーソナル機能は、［**パーソナル機能（P.Fn）設定**］で再設定できます。（→146）

MENU カスタム機能の設定方法



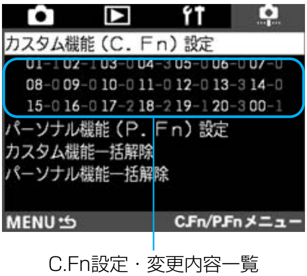
1 メニューから［カスタム機能（C.Fn）設定］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して、〈 〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**カスタム機能（C.Fn）設定**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



2 カスタム機能を設定する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望するカスタム機能項目を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して設定変更内容を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- 上記の手順を繰り返してその他のカスタム機能を設定します。



3 終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ カスタム／パーソナル機能メニューに戻ります。
- ➡ カスタム機能の設定・変更内容が番号で一覧表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

MENU カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-01　露光中のファインダー内表示



1：露出情報や撮影可能なコマ数を確認しながら連続撮影したいときなどに有効です。

C.Fn-02　CFカード未装填時のレリーズ



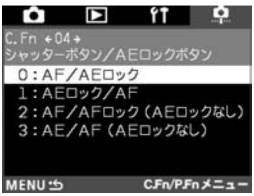
1：CFカード未装填時にレリーズ動作を行いませんので、CFカードが入っていないまま撮影動作に入ることを防止できます。
シャッターボタンを押すと、上面表示パネルとファインダー内に「CF」が点滅して、C.Fn-02-1が設定中であることを知らせます。

C.Fn-03　ISO感度拡張



1：ISO 100、3200相当の設定ができるようになります。ISO感度設定時の表示は、「L」(100)、「H」(3200)で表示されます。

C.Fn-04　シャッターボタン／AEロックボタン



1：ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈✱〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出決定）することができます。

2：AIサーボAF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないよう〈✱〉ボタンでAF作動を一時停止させることができます。露出は撮影の瞬間に決まります。

3：移動／停止を繰り返す動物撮影などに有効です。AIサーボAFを設定しておくと、〈✱〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適状態にしてシャッターチャンスを待つことができます。

> C.Fn-04とC.Fn-19-0，1，2（→138）は、共にAF作動／停止とAEロックの機能を持っていますが、この2つを併用して二重操作を行った場合、あとから行う操作で有効となるのは、AFスタート後のAFストップ操作だけです。他の二重操作では、あとから行った操作は有効とはなりません。

C.Fn-05　マニュアル露出時のTv、Av値設定

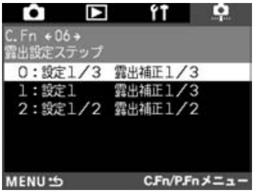


1：大型ストロボ使用のスタジオ撮影など、絞り数値の変更を頻繁に行う場合に有効です。また、マニュアル露出でAEBを行うと、シャッター速度固定で、絞り数値をAEBに連動して変化させることができます。
　シャッター速度は〈±〉ボタン（C.Fn-11-1,2併用時は〈▦〉ボタン）を押しながら〈◠〉でも設定できます。

2：シャッター速度／絞り数値の設定はC.Fn-05-0と同じですが、レンズを外した状態で絞り数値の設定を行うことができます。超望遠レンズをセットして複数台のEOS-1Dを交換して撮影するときなどに有効です。

3：シャッター速度／絞り数値の設定はC.Fn-05-1と同じですが、レンズを外した状態で絞り数値の設定を行うことができます。

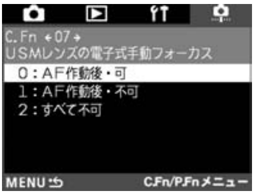
C.Fn-06　露出設定ステップ



1：シャッター速度と絞り数値の設定ステップを、1段ステップにすることができます。

2：シャッター速度と絞り数値、および露出補正設定ステップを1/2段ステップにすることができます。

C.Fn-07　USMレンズの電子式手動フォーカス



1：ワンショットAF合焦後の電子式手動フォーカスを禁止します。C.Fn-07-1、C.Fn-07-2とも、手動ピント合わせはレンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉（または〈**M**〉）にして行います。

2：AFモードでの電子式手動フォーカスをすべて禁止します。

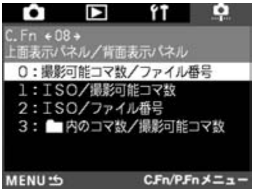
該当するレンズ
EF50/1.0L USM、EF85/1.2L USM、EF200/1.8L USM、EF300/2.8L USM、EF400/2.8L USM、EF400/2.8L II USM、EF500/4.5L USM、EF600/4L USM、EF1200/5.6L USM、EF28-80/2.8-4L USM

C.Fn-04とC.Fn-07を併用したときの電子式手動フォーカスは以下のようになります。

カスタム機能 No.		C.Fn-04	
	選択番号	0, 2	1, 3
C.Fn-07	0	×／○	○／○
	1	×／×	○／×
	2	×／×	×／×

＊合焦前／合焦後　○：可能　×：禁止

C.Fn-08　上面表示パネル／背面表示パネル



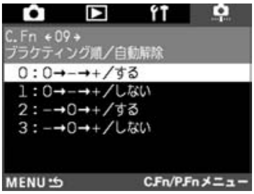
1：ISO感度を常時表示させたいときや、上面表示パネルの撮影可能コマ数では表示する桁が不足するときに設定します。

2：撮影可能コマ数よりもISO感度を常時表示させたいときに設定します。撮影可能コマ数が少なくなったときの目安は、ファインダー内・右の「連続撮影時の最大撮影可能コマ数」の数値が少なくなっていくことを利用します。

3：選択中のフォルダに入っている保存コマ数を表示させたいときや、上面表示パネルの撮影可能コマ数では表示する桁が不足するときに設定します。なお、［**RAW+JPEG画像記録**］での保存コマ数は、1回撮影で1コマカウントされています。

> ファインダー内のISO感度設定値も連動して切り換わります。

C.Fn-09　ブラケティング順と自動解除の有無



AEB撮影
　0：標準露出
　－：マイナス補正
　＋：プラス補正

ホワイトバランスブラケティング
　0：基準ホワイトバランス
　－：青色寄りに補正
　＋：赤色寄りに補正

この機能を設定すると、Tv値、Av値、またはISO感度を自動的に変化させるAEB撮影順と、ホワイトバランスブラケティングの撮影順が変わります。

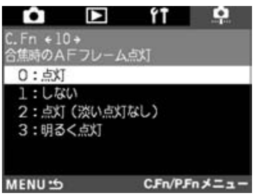
「自動解除する」を選択すると、レンズ交換、メインスイッチOFFでブラケティングを解除します。

1：最初の1コマを標準露出（または基準ホワイトバランス）にしたブラケティング撮影を何回も繰り返すときに有効です。

2：マイナス（または青色寄り）補正から順にブラケティング撮影することができます。

3：マイナス（または青色寄り）補正からのブラケティング撮影を何回も繰り返すときに有効です。

C.Fn-10　合焦時のAFフレーム点灯



1：AFフレームが点灯しません。点灯がわずらわしい場合に設定します。

2：C.Fn-10-0の淡い点灯をさせたくないときに設定します。

3：C.Fn-10-0ではAFフレームが見えにくいというときに設定します。

C.Fn-11　AFフレームの選択方法



1：〈⊞〉ボタンと〈±〉ボタンが入れ代わります。

2：● 測光タイマー中に〈◎〉単独操作で左右方向（C.Fn-13-3設定時は外周AFフレーム）の選択ができます。シャッターボタン半押し中、AIサーボAF連続撮影中にも可能です。上下左右方向とも両端に突き当たると止まりとなります。
● AF作動中に〈⊞〉ボタンを押すと、瞬時にAFフレーム自動選択へ切り換えることができます。
● C.Fn-11-1と同じ操作でもAFフレーム（自動選択含む）を選択することができます。
● C.Fn-11-2とC.Fn-18-1，2（→138）を併用したときの上下方向の選択は、〈±〉ボタンを押して〈◎〉操作で行ってください。

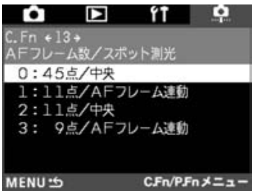
3：〈⊞〉ボタンと〈FEL〉ボタンが入れ代わります。

C.Fn-12　ミラーアップ撮影



1：接写や望遠撮影で、ミラー作動によるカメラブレを防止するのに有効です。ミラーアップ撮影の方法については、104ページをご覧ください。

C.Fn-13　AFフレーム数／スポット測光



1：AFフレームを11点に限定した、AFフレーム連動スポット測光ができます。（→66）

2：AFフレームを11点に限定、スポット測光は中央部スポット測光になります。（→66）

3：AFフレームを9点に限定した、AFフレーム連動スポット測光ができます。（→66）

● スポット測光モードを選択しないとAFフレーム連動スポット測光になりません。
● C.Fn-13-1，2の設定または解除を行うと、登録したAFフレーム（→68）が中央AFフレームとなります。

● スポット測光以外の測光モードも選択できます。
● C.Fn-13-1，2，3のAFフレーム自動選択は、常に45の測距点で行われます。
● C.Fn-13-1,3を設定してストロボのFEロック撮影を行うと、任意選択したAFフレームでFEロックすることができます。

C.Fn-14　日中シンクロ・ストロボ露出自動低減制御



0：自然な日中シンクロ描写がオートで得られます。
1：夕日など強い逆光下での人物撮影で、人物が露出アンダーになるのを防ぎます。

C.Fn-15　ストロボのシンクロタイミング



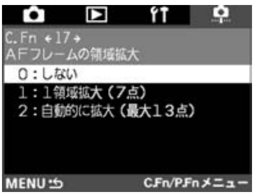
1：低速シャッター速度設定時に光源の軌跡を写し込むときに有効です。シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。シンクロタイミング切り換え機能がないEXシリーズストロボで後幕シンクロができるようになります。切り換え機能内蔵のEXシリーズストロボでは、ストロボ側の設定が優先します。

C.Fn-16　セイフティシフトの設定



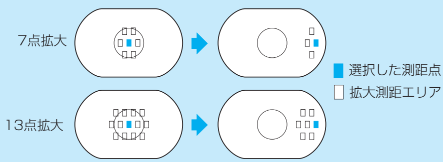
シャッター優先AEと絞り優先AEにセイフティシフトを設定することができます。
1：被写体の明るさが急に変化して、シャッター優先AE、絞り優先AEの設定値が不適切になっても、設定値を自動変更して適正露出にします。

C.Fn-17　AFフレームの領域拡大



1：任意選択したAFフレームの範囲を上下左右1つずつ広げ、7点で被写体をとらえます。任意の1点では追従できないような不規則に変化する被写体を撮影するときに有効です。
2：使用レンズの焦点距離や、AFモード、動体予測AF時の被写体の速さなどに応じて、カメラが自動的にAFフレームの範囲を設定、7点あるいは13点で被写体をとらえます。被写体の動きが予測できないような場合に有効です。

- AFフレームの領域拡大は、選択したAFフレームを中心に拡大されるため、外寄りのAFフレームを選択したときは、図のように拡大領域が小さくなります。



- C.Fn-13併用時も領域拡大します。

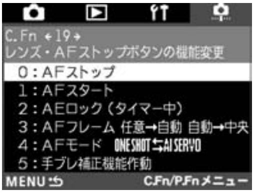
C.Fn-18　登録AFフレームへの切り換え



1：〈⊡〉ボタンを押すと登録したAFフレームに切り換えます。
2：〈⊡〉ボタンを押している間だけ、登録したAFフレームに切り換えます。ボタンを離すと元のAFフレームへ戻ります。選択しているAFフレームと、登録したAFフレームを交互に切り換えながら撮影したいときに有効です。

> C.Fn-04-1，3を組み合わせて設定すると、〈⊡〉ボタン単独押しで登録AFフレームの切り換えとAFスタートを同時に行うようにすることができます。

C.Fn-19　レンズ・AFストップボタンの機能変更



1：押している間だけAFが作動します。押している間は、カメラ側操作によるAF作動は行いません。
2：測光タイマー作動中に押すとAEロックします。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。
3：AFフレーム任意選択時に押すと、押している間だけ45点AFフレーム自動選択になります。任意選択から自動選択へ瞬時に切り換わるので、AIサーボAF作動中に任意AFで追従できなくなったときに有効です。
AFフレーム自動選択時に押すと、押している間だけ中央AFフレームが選択されます。
4：ワンショットAF設定時に押すと、押している間だけAIサーボAFになり、AIサーボAF設定時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。移動･停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。
5：レンズの手ブレ補正機能スイッチをONにしておくと、押している間だけ手ブレ補正機能が作動します。

> AFストップボタンは、大型の超望遠レンズにだけ装備されています。

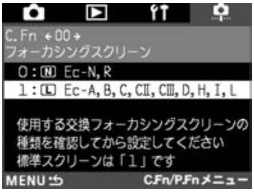
C.Fn-20　AI SERVO 被写体追従敏感度



1，2：AFフレームを横ぎる障害物の影響を少なくしたいときに有効です。
3，4：ランダムな距離にある複数の被写体を次々撮影するときに有効です。

> この機能を設定しても、AIサーボAFの追従速度は変化しません。

C.Fn-00　フォーカシングスクリーン

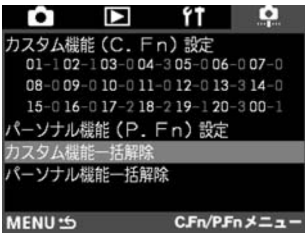


0：ニューレーザーマットスクリーン使用時に設定します。
1：レーザーマットスクリーン使用時に設定します。
　EOS-1Dの標準フォーカシングスクリーンは、Ec-CIIIですので、購入時の状態はC.Fn-00-1に設定されています。

> フォーカシングスクリーンを交換したときのカスタム機能（C.Fn-00）につきましては、164ページを参照してください。

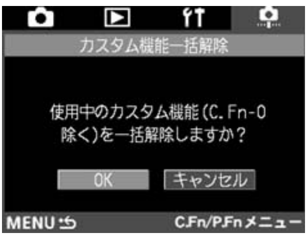
MENU カスタム機能の一括解除

C.Fn-00を除く、全てのカスタム機能を一括して解除（0に設定）することができます。



1 メニューから［カスタム機能一括解除］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して、〈 〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して［**カスタム機能一括解除**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



2 一括解除する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して［OK］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ カスタム機能が一括解除されます。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

MENU カスタム機能のグループ登録

MENU カスタム機能のグループ登録

あらかじめ設定したカスタム機能を、スポーツ撮影用、スナップ撮影用、風景撮影用などに分けて3グループまで登録することができます。

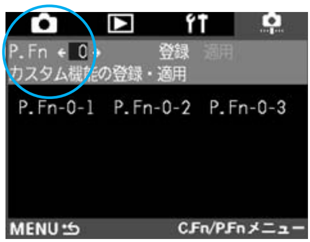
なお、C.Fn-00「フォーカシングスクリーンの特性に合わせる」は、グループ登録できません。

1 あらかじめカスタム機能を設定する（→132）



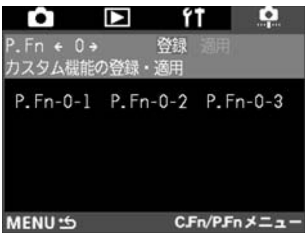
2 メニューから［パーソナル機能（P.Fn）設定］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して、〈 〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して［**パーソナル機能（P.Fn）設定**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



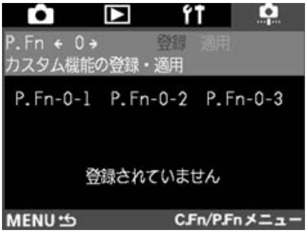
3 ［P.Fn 0］を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して［**P.Fn 0**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



4 ［登録］を選ぶ

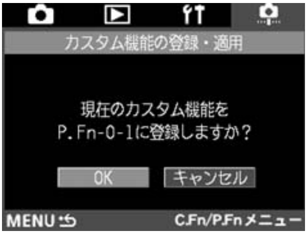
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して［**登録**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



5 登録する番号を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈〇〉を回して登録する番号［**P.Fn-0-1**］～［**P.Fn-0-3**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。

➡ 未登録の番号を選ぶと［**登録されていません**］というメッセージが表示されます。すでに登録されている番号を選ぶと、グループ登録されているカスタム機能の内容が表示されます。



6 登録する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈〇〉を回して［**OK**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



7 登録内容を確認する

- 登録内容を確認して、〈SELECT〉ボタンを押します。

➡ 手順**3**の画面に戻ります。

- さらに登録を行う場合は、手順**1**～**7**を繰り返します。一度、登録した内容を変更する場合も同様の手順となります。
- 〈MENU〉ボタンを押すとメニュー画面に戻り、再度〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、メニューが終了します。
- 登録したカスタム機能のグループ内容をカメラに適用するには、次ページの『グループ登録したカスタム機能を使用する』を参照してください。

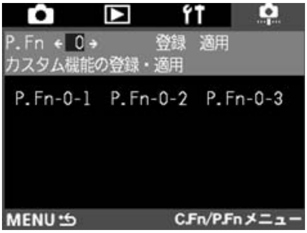
MENU グループ登録したカスタム機能を使用する

『カスタム機能のグループ登録』(→前ページ)で登録したカスタム機能の内容をカメラに適用します。



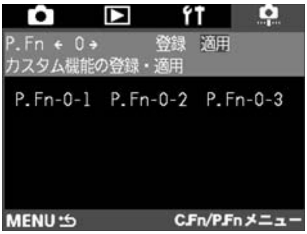
1 メニューから[パーソナル機能(P.Fn)設定]を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して、〈 〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して[**パーソナル機能(P.Fn)設定**]を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



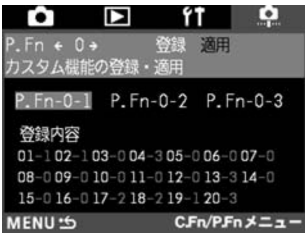
2 [P.Fn 0]を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して[**P.Fn 0**]を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



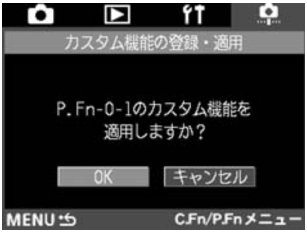
3 [適用]を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して[**適用**]を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ 未登録の場合には[**適用**]が選べません。『カスタム機能のグループ登録』(→140)を行ってください。



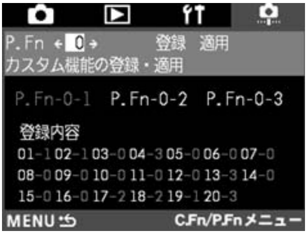
4 適用する番号を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して適用する番号[**P.Fn-0-1**][**P.Fn-0-2**][**P.Fn-0-3**]のいずれかを選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ 登録されている番号を選ぶと[**登録内容**]が表示されます。未登録の番号を選ぶと、[**登録されていません**]というメッセージが表示がされます。



5 適用する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して[OK]を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



6 適用内容を確認する

➡ 適用したカスタム機能のグループ番号が、緑色に表示され、適用内容が表示されます。

- 適用内容を確認します。
- 〈MENU〉ボタンを押すとメニュー画面に戻り、再度〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

パーソナル機能について

パーソナル機能とは、カスタム機能よりもさらにきめこまかな設定変更を可能とする機能のことです。
パーソナル機能の設定は、付属のソフトウェアを使い、EOS-1Dとコンピューターを接続して行います。詳しくは付属の「EOS-1D ソフトウェア使用説明書」を参照してください。
なお、P.Fn-0 カスタム機能のグループ登録 は、EOS-1D単体でのみ設定することができます。（→140）

パーソナル機能の項目

P.Fn-No.	項　目
00	カスタム機能のグループ登録
01	撮影モードを限定する
02	測光モードを限定する
03	マニュアル露出撮影時の測光モードを指定する
04	シャッター速度の上限、下限値を設定する
05	絞り数値の上限、下限値を設定する
06	撮影モードと測光モードの登録・切り換え
07	連続撮影時、ブラケティング撮影を繰り返し行う
08	ブラケティング撮影時の撮影コマ数
09	C.Fn-09-2, 3のブラケティング撮影順をプラス補正→標準→マイナス補正の順に行う
10	プログラムシフトのシフト量を保持する
11	欠番
12	欠番
13	AIサーボAF連続撮影を撮影速度優先で行う
14	レンズ駆動によるピント検出（サーチ駆動）を行わない
15	AF補助光の投光を禁止する
16	ピント固定、シャッターボタン全押し状態で合焦したら自動撮影する
17	AFフレーム自動選択を選べないようにする
18	C.Fn-11-2設定時にAFフレーム自動選択を可能にする
19	連続撮影の速度を設定する
20	連続撮影時の撮影コマ数を制限する
21	撮影後、シャッターボタンOFFで静粛動作する
22	欠番
23	各種タイマー保持時間を変更する
24	バルブ撮影中、表示パネルの照明を消さない
25	クリアボタン（QUALITY ＋ WB）ON時の初期状態を変更する
26	欠番
27	電子ダイヤルの設定方向（回転）を反転する
28	サブ電子ダイヤルによる露出補正を禁止する

＊ P.Fn-11, 12, 22, 26の欠番について
P.Fn-0～28までの番号とその内容を、EOS-1Vと合わせるために欠番（EOS-1Vにあって、EOS-1Dにはない項目）を設けています。

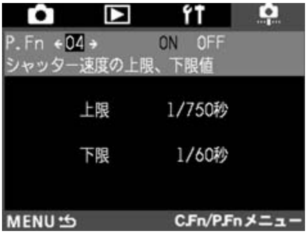
MENU パーソナル機能の解除と再設定

付属のソフトウェアで設定・登録した、パーソナル機能の解除と再設定を行うことができます。なお、設定内容の変更は付属のソフトウェアでのみ行うことができます。詳しくは、付属の「EOS-1D ソフトウェア使用説明書」を参照してください。



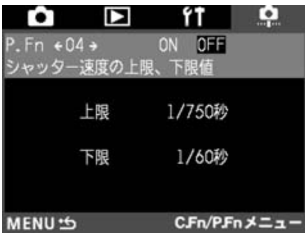
1 メニューから［パーソナル機能（P.Fn）設定］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して、〈 〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**パーソナル機能（P.Fn）設定**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



2 解除、または再設定するパーソナル機能の番号を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して解除するパーソナル機能の番号を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



3 解除、または再設定する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回します。解除は［OFF］、再設定は［ON］です。選んだら〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ ［ON］［OFF］のうち、有効になっている方が緑色で表示されます。
- さらに解除／再設定を行う場合は、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すとメニュー画面に戻り、再度〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

パーソナル機能の一括解除（→146）を行ったときにも、上記の手順で再設定することができます。

MENU パーソナル機能の一括解除

付属のソフトウェアで設定・登録した、パーソナル機能を一括して解除することができます。



1 メニューから［パーソナル機能一括解除］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して、〈 〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して［**パーソナル機能一括解除**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



2 一括解除する

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◯〉を回して［OK］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

一括解除したパーソナル機能は、［**パーソナル機能（P.Fn）設定**］で再設定することができます。（→145）

9 メンテナンス

日付／時刻の設定や、バックアップ電池の交換、撮像素子のクリーニングについて説明します。

MENU 日付／時刻を設定する

日付や時刻を設定・修正するときは、次の手順で設定します。日付／時刻は撮影した画像に記録されます。



1 メニューから［日付／時刻］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して、〈ﾀﾞｲﾔﾙ〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**日付／時刻**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



2 日付と時刻を設定する

- 〈SELECT〉ボタンを押して設定する年月日時分を選びます。
- ➡ 〈SELECT〉ボタンを押すたびに、設定位置が変わります。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望する数字を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ 設定すると、次の項目に移動します。



3 表示順を選ぶ

- 日付の種類は〈SELECT〉ボタンを押したまま〈◎〉を回すと以下のように変わります。

年／月／日
↕
月／日／年
↕
日／月／年

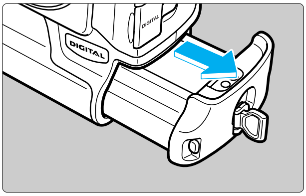
4 〈MENU〉ボタンを押す

- ➡ 日付、時刻が設定され、メニューに戻ります。
- もう一度〈MENU〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えて、メニューが終了します。

撮影した画像には撮影した日付／時刻が一緒に記録されます。日付／時刻が設定されていないと、撮影した日付／時刻が正しく記録されませんので、必ず正しく設定してください。

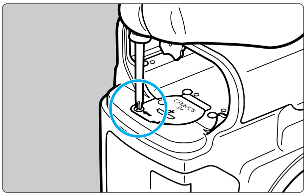
日付／時計機能用電池を交換する

日付／時計機能用電池（バックアップ電池）の電池寿命は約10年です。バッテリー交換で日付／時刻がリセットされるようになったら、新しいCR2025リチウム電池を次の手順で交換してください。



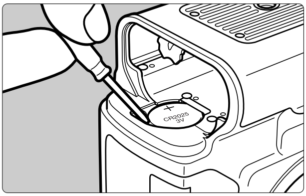
1 〈 〉スイッチを〈OFF〉にして、バッテリーを取り出す

- 電池はバッテリー室の上部に収納されています。

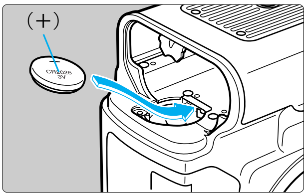


2 ふたを取り外す

- 図に示すねじをゆるめます。

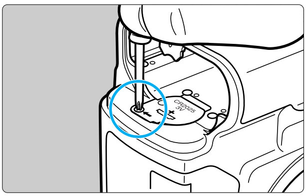


3 電池を取り出す



4 新しい電池を入れる

- （＋）側を上にして入れます。



5 ふたを取り付ける

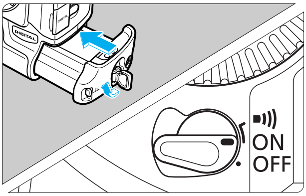
- バッテリーを入れて〈 〉スイッチを〈ON〉にすると、液晶モニターに「日付／時刻」の設定画面が表示されますので、148ページ・手順2～4の操作で日付／時刻を設定します。

9
メンテナンス

> 電池は、必ずCR2025リチウム電池をお使いください。

MENU 撮像素子をクリーニングする

撮像素子とは、フィルムカメラでいえばフィルムにあたる部分で、この撮像素子の表面にゴミやほこりなどが付くと、撮影した画像の同じ部分に黒い点などが写り込むことがあります。このような場合は、次の手順で撮像素子の表面についたゴミなどをクリーニングしてください。ただし、撮像素子は非常にデリケートな部品ですので、クリーニングが必要なときは、できるだけキヤノンサービスセンターにお申し付けください。
クリーニングを行う場合は、DCカプラーキットによる家庭用電源を使用してください。バッテリーを使用する場合は、必ず残量の十分にあるバッテリーを使用してください。
また、クリーニングを始める前に、レンズを取り外してください。（→26）

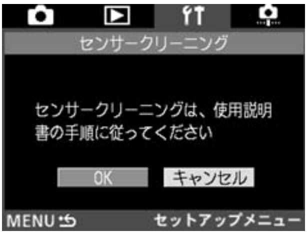


1 DCカプラーかバッテリーを入れて（→23, 25）、〈〉を〈ON〉にする（→29）



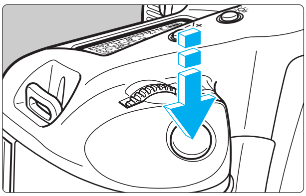
2 メニューから [センサークリーニング] を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈〉を回して、〈〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈〉を回して [**センサークリーニング**] を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



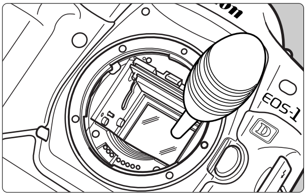
3 [OK] を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈〉を回して [OK] を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- ➡ 液晶モニターが消え、上面表示パネルに「CCd CLn」が点滅表示されます。



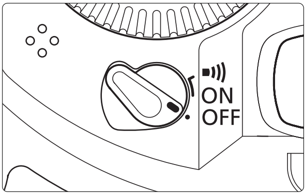
4 シャッターボタンを全押しする

- ➡ ミラーが上がり、シャッターが開きます。



5 撮像素子をクリーニングする

- ブロアー（市販品）で慎重に撮像素子表面のほこりを吹き飛ばします。



6 クリーニングを終了する

- 〈〉を〈OFF〉にします。
- ➡ カメラの電源が切れ、シャッターが閉じ、ミラーが下がります。
- 〈〉を〈ON〉にすると、通常の撮影準備状態になります。

- クリーニング中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕破損の原因となります。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。バッテリー切れや停電などにより電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕破損の原因となります。
- 高圧のエアーやガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により、撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。



10 資　料

カメラを快適に使っていただくために、この『資料』を設けました。撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行います。

10

デジタルカメラ・写真の基本用語解説

AE
Auto Exposure(オートエクスポージャー)の略でカメラが自動的に露出を調節する機能です。カメラに内蔵された露出計で自動的に最適な露出（シャッター速度と絞り数値の組み合わせ）が決まります。

AF
Auto Focus（オートフォーカス）の略でカメラが自動的に焦点（ピント）を合わせる機能です。

CF（コンパクトフラッシュ）カード
小型のフラッシュメモリカードです。このカメラでは、撮影画像を記録するのに使用します。

DCF（ディーシーエフ）規格
DCFは、Design rule for Camera File system（デザインルール フォー カメラファイルシステム）の略です。
デジタルカメラなどで撮影した画像ファイルなどをメーカーの異なるデジタルカメラや関連機器間で手軽に利用し合える環境を整えることを目的に、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）によって標準化された規格です。本カメラはDCF規格に準拠しています。

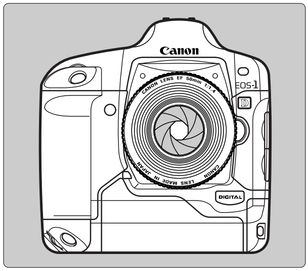
ISO（イソ）感度
フィルムの光に対する感光度（感度）の強さを示すデータです。通常「ISO 200」のように表記します。ISO感度は数値が大きくなるほど光に対する感光度が強くなります。デジタルカメラでも、フィルムに準じてISO感度が使われます。

JPEG（ジェイペグ）
Joint Photographic Experts Group（ジョイントフォトグラフィックエキスパートグループ）形式の略です。
カラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が選択できますが、圧縮率が高くなるほど伸張（画像の復元）したときの画像は劣化します。

RAW（ロウ）
撮像素子の生（RAW）データを保存する、コンピューター画像処理を前提としたファイル形式です。
画像劣化のない方式で圧縮・保存・解凍されますので、付属の専用ドライバソフトの画像処理機能によって、使用目的に最適な画像を創ることができます。

sRGB
Microsoft 社と Hewlett-Packard社 が共同開発したカラーマッチングに関する規格で、この規格に準拠したカメラ、モニター、アプリケーション、プリンター間での、同一色再現を実現するものです（sはStandardの略です）。

絞り数値



レンズに組み込まれている絞りは開口部を開けたり閉じたりして、撮像素子に当たる光の量を調整します。この開口部の大きさを表した数字（焦点距離÷開口径）を絞り数値といいます。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示される絞り数値は、カメラに取り付けたレンズの種類によって異なりますが、1.0～91となっています。

シャッター速度

カメラ本体に組み込まれているシャッターは撮像素子に当たる光の量をシャッターが開いている時間の長さで調整します。このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度といいます。

初期化

CFカードの初期化とは、CFカードの内部を画像データの書き込みできるように整えることです。初期化を行なうとCFカードに記録されている全てのデータが消去されるので、初期化を行う際は十分注意してください。

ファイル名について

ファイル名は、工場出荷時に決められたカメラ固有の文字と、ファイル番号の組み合わせにより自動的に付けられます。カメラ固有の4桁の文字は変更できません。ファイル番号は、設定したファイル番号の設定方式（→56）によって自動的に付けられます。

（例）　**5F9Z0001.JPG**

- 5F9Z：カメラ固有の文字
- 0001：ファイル番号
- JPG：拡張子

拡張子は、JPEG形式で撮影した画像は「JPG」、RAW形式で撮影した画像は「TIF」となります。また、音声ファイルの拡張子は「WAV」となります。

ファームウェア

ファームウェアとは、機器を制御するために組み込まれたソフトウェアのことで、EOS-1Dでは、このファームウェアによって撮影、画像処理などが行われます。ファームウェアはあらかじめカメラに組み込まれていますが、バージョンアップがアナウンスされたときなどは、お客様自身で更新できるようになっています。

被写界深度

ピントを合わせた被写体を中心にして前後にもピントが合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度といい、絞り数値を大きくする（絞りを閉じる／小口径絞り）ほどピントの合っている範囲が前後に広くなります。これを被写界深度が深くなるといいます。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く／大口径絞り）とピントが合う範囲が狭くなります。これを被写界深度が浅くなるといいます。

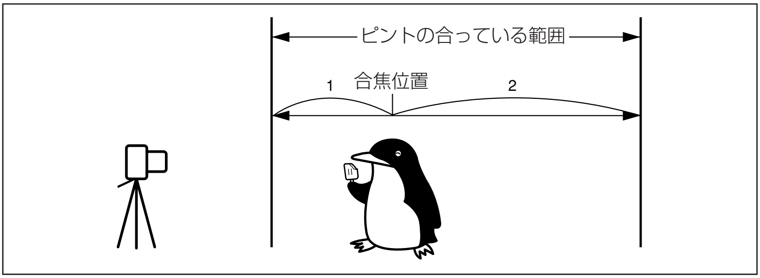
被写界深度には次のような性質があります。

① 絞り数値が大きくなるほど被写界深度は深くなる。
　…絞り込むほど被写界深度は深くなる。

② 同じ絞り数値ならレンズの焦点距離が短いレンズほど被写界深度は深くなる。
　…望遠レンズよりも広角レンズのほうが被写界深度は深くなる。

③ 同じ絞り数値なら遠方の被写体にピントを合わせるほど被写界深度は深くなる。

④ 被写界深度はピントを合わせたところを中心にして手前側に浅く奥側に深い。ピントの合う範囲は一般的に手前側1に対して奥側が2になる。（下図参照）





絞り数値F22



絞り数値F2

露出

撮影するために撮像素子に光を当てることを露出（または露光）といいます。また、ISO感度に応じた適切な光を当てることを適正露出といいます。適正露出は、「シャッター」と「絞り」の組み合わせで調整します。

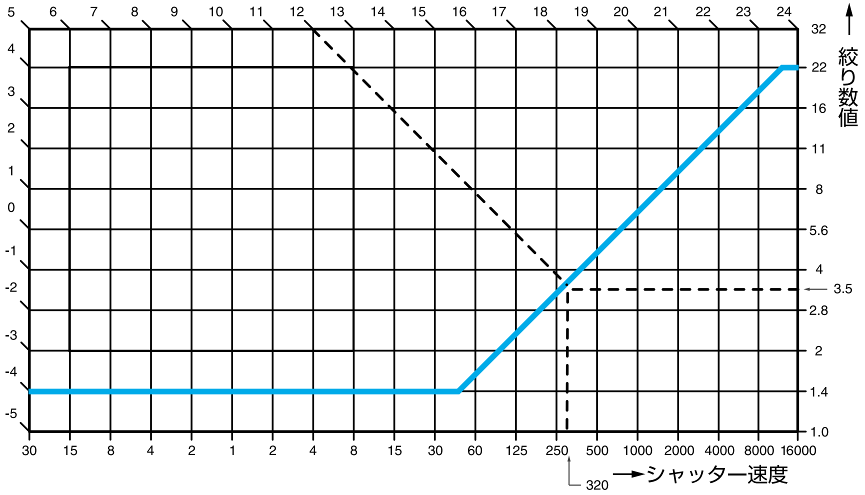
露出警告表示一覧

撮影モード	表示警告例（点滅）	意　味	対　応
P	30'' 1.4	被写体が暗すぎます。	1）ISO感度を上げてください。 2）ストロボを使用してください。
	16000 22	被写体が明るすぎます。	1）ISO感度を下げてください。 2）減光用のNDフィルターを使用してください。
Tv	125 1.4	露出アンダーになります。	1）〈 〉を回してシャッター速度を遅くしてください。 2）ISO感度を上げてください。
	125 22	露出オーバーになります。	1）〈 〉を回してシャッター速度を速くしてください。 2）ISO感度を下げてください。
Av	30'' 5.6	露出アンダーになります。	1）〈 〉を回して絞り数値を小さくしてください。 2）ISO感度を上げてください。
	16000 5.6	露出オーバーになります。	1）〈 〉を回して絞り数値を大きくしてください。 2）ISO感度を下げてください。
DEP	60 22	希望する被写界深度が得られません。	1）被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2）ズームレンズを使用している場合は、広角側にセットしてください。
	30'' 1.4	被写体が暗すぎます。	1）ISO感度を上げてください。 2）ストロボを使用してください。
	16000 22	被写体が明るすぎます。	1）ISO感度を下げてください。 2）減光用のNDフィルターを使用してください。

警告表示例は、使用するレンズの最小絞り数値がF1.4、最大絞り数値がF22のときの表示例です。使用するレンズによって、最小絞り数値、最大絞り数値が異なります。

プログラム線図

EF50mm F1.4 USMを使用して、〈**P**〉プログラムAEに設定したときのプログラム線図を示します。



図の見方

図の横軸はシャッター速度、縦軸は絞り数値を表しています。
図の左端と上端に目盛られている被写体輝度（EV数値）の変化に対し、プログラムAEで自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせが色の線で示されています。
例：被写体輝度がEV12の場合、上端の12の点から右下45°の方向にのばした線とプログラム線図の交点を見ると、シャッター速度1/320、絞り数値F3.5が自動的に設定されることがわかります。

シャッター速度と絞り数値の表示

シャッター速度の表示

シャッター速度は1/3段ステップで変わります。「16000」から「4」までは分数の分母を表しています。例えば、「125」は1/125秒を表しています。また、「0"3」は0.3秒を、「15"」は15秒を表しています。

絞り数値の表示

絞り数値は1/3段ステップで変わります。数字が大きくなるほどレンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値の範囲はレンズによって異なります。

1/3段ステップ				1/2段ステップ			1段ステップ	
シャッター速度		絞り値		シャッター速度		絞り値	シャッター速度	絞り値
16000	20	1.0	25	16000	1"	1.0	16000	1.0
12800	15	1.1	29	12000	1"5	1.2	8000	1.4
10000	13	1.2	32	8000	2"	1.4	4000	2.0
8000	10	1.4	36	6000	3"	1.8	2000	2.8
6400	8	1.6	40	4000	4"	2.0	1000	4.0
5000	6	1.8	45	3000	6"	2.5	500	5.6
4000	5	2.0	51	2000	8"	2.8	250	8.0
3200	4	2.2	57	1500	10"	3.5	125	11
2500	0"3	2.5	64	1000	15"	4.0	60	16
2000	0"4	2.8	72	750	20"	4.5	30	22
1600	0"5	3.2	81	500	30"	5.6	15	32
1250	0"6	3.5	91	350		6.7	8	45
1000	0"8	4.0		250		8.0	4	64
800	1"	4.5		180		9.5	0"5	91
640	1"3	5.0		125		11	1"	
500	1"6	5.6		90		13	2"	
400	2"	6.3		60		16	4"	
320	2"5	7.1		45		19	8"	
250	3"2	8.0		30		22	15"	
200	4"	9.0		20		27	30"	
160	5"	10		15		32		
125	6"	11		10		38		
100	8"	13		8		45		
80	10"	14		6		54		
60	13"	16		4		64		
50	15"	18		0"3		76		
40	20"	20		0"5		91		
30	25"	22		0"7				
25	30"							

C.Fn シャッター速度と絞り数値の設定を1段ステップまたは1/2段ステップに変更することができます。（C.Fn-06→134）

エラーコード表示

カメラに異常が発生すると、上面表示パネルに「Err xx」の表示がでます。エラーコードに応じて、以下の対応を行ってください。
頻繁にこのエラーコードが表示されるときは、故障ですので「xx」の数値を控えて最寄りのキヤノンサービスセンター（別紙）にお持ちください。
また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、〈DISPLAY〉ボタンを押して画像の確認をしてください。

エラーコード	対 応
Err 01	レンズの接点を清掃してください。（→11）
Err 02	CFカードに問題があります。次のいずれかの対応を行ってください。CFカードの抜き差しを行う。CFカードをフォーマットする。別のCFカードに交換する。
Err 03	CFカード内のフォルダ数が多すぎます。初期化されているCFカードに交換してください。
Err 04	CFカードの容量がいっぱいです。不要な画像を消去するか、十分な空き容量のあるCFカードに交換してください。
Err 99	バッテリーを抜き差ししてください。

メッセージ一覧

液晶モニターに表示されるメッセージには以下のものがあります。

表示メッセージ	詳細内容
処理中…	カメラがデータを処理しています。しばらく、お待ちください。
画像読み込み中…	記録画像を読み出しています。しばらく、お待ちください。
指定できない画像です	［**M-WB画像選択**］で、指定できない画像を選びました。 再度、指定可能な画像を選んでください。（→43）
［フォルダ番号FULL］ フォルダは作成できません	フォルダの通し番号が最大値（999）になったため、フォルダが作成できません。不要なフォルダをコンピューター上で消去するか、フォルダ番号に余裕のある、CFカードに交換してください。
［CFカードFULL］ フォルダは作成できません	CFカードの容量がいっぱいのため、フォルダが作成できません。残量のあるCFカードに交換するか、CFカードの記録画像をコンピューターに取り込んだ後、不要な記録画像やフォルダを消去してください。なお、消去した画像は復元できませんので、十分注意してください。

表示メッセージ	詳細内容
[CFカードFULL] 録音できません	CFカードの容量がいっぱいのため、録音できません。不要な記録画像を消去してください。なお、消去した画像は復元できませんので、十分注意してください。(→121)
録音できません	音声ファイル(WAV形式)データが破壊されているか、フォーマット形式の異なる音声ファイルが存在します。コンピューターで不要な音声ファイルを消去してください。
初期化できません CFカードを交換してください	CFカードを初期化できませんでした。指定のCFカードに交換してください。
CFカードが初期化されていません	CFカードが初期化されていません。初期化してください。(→126) CFカードに異常があります。CFカードの初期化を行うか、指定のCFカードに交換してください。
CFカードがありません	CFカードが入っていません。指定のCFカードを入れてください。
プロテクトされています	プロテクトされている画像を消去しようとしました。消去する場合はプロテクトを外してから、再度、消去してください。(→119)
登録されていないので適用できません	未登録のP.Fn-0の番号を適用しようとしました。登録しているP.Fn-0の番号を選んで適用してください。(→142)
画像がありません	表示できる記録画像がCFカードに入っていません。このメッセージは、メニューの[**液晶モニターの明るさ**]の設定で、表示できる記録画像がないときにも表示されます。通常の撮影を行って画像を記録するか、画像が記録されたCFカードに交換してください。
再生できない画像です	互換性のないフォーマット形式の画像を再生しようとしました。 データが破壊されている画像を再生しようとしました。

故障かな？とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、この表を参考にしてカメラをチェックしてください。

電　源

バッテリーが充電できない	専用のバッテリーを使用していますか？ ➡ 専用のニッケル水素パックを使用してください。(→22) チャージャーに正しくセットしましたか？ ➡ バッテリーを正しくセットしてください。(→22)
〈 〉スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない	バッテリーが消耗していませんか？ ➡ バッテリーを充電してください。(→22) バッテリーを正しく入れましたか？ ➡ バッテリーを正しく入れてください。(→23) CFカードスロットカバーが開いていませんか？ ➡ CFカード取り出しボタンが飛び出すまでしっかりと差し込み、CFカードスロットカバーをしっかりと閉じてください。(→27)
〈 〉スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する	撮影後、すぐにメインスイッチを〈OFF〉にしても、 CFカードへの画像記録を行なうため、数秒間はアクセスランプが点滅します。 ➡ CFカードへの画像記録が終了すれば、アクセスランプは消え、自動的に電源が切れます。
バッテリーの消耗が早い	バッテリーが十分に充電されていますか？ ➡ 十分に充電してください。(→22) バッテリーの寿命ではありませんか？ ➡ 新しいバッテリーをお買い求めください。(→166)
電源が勝手に切れる	オートパワーオフ機能が働いていませんか？ ➡ もう一度メインスイッチを〈ON〉にするか、オートパワーオフ機能を [切] にしてください。(→130)
表示パネルに〈 〉のみが点滅している	バッテリーの容量が極端に少なくなっています。 ➡ バッテリーを充電してください。(→22)

撮　影

撮影・記録ができない	CFカードが正しくセットされていますか？ ➡ CFカードを正しく入れてください。（→27） CFカードがいっぱいになっていませんか？ ➡ 新しいCFカードに入れ換えるか、不要な画像を消去してください。（→27, 122） バッテリーが消耗していませんか？ ➡ バッテリーを充電してください。（→22） ピントは合っていますか？（ファインダー内の合焦マークが点滅していませんか？） ➡ もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせなおしてください。それでもピントが合わないときは、手動でピントを合わせてください。（→74）
液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる	ゴミやほこりがついていませんか？ ➡ 眼鏡ふきややわらかい布などでふいてください。 液晶が消耗していませんか？ ➡ お買い上げの販売店またはキヤノンサービスセンターにご相談ください。（別紙）
画像がボケて写っている	レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（または〈**M**〉）になっていませんか？ ➡ レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください。（→26） シャッターボタンを押すときに手ブレを起こしていませんか？ ➡ 手ブレを起こさないようにシャッターボタンを静かに押してください。（→29, 35）
CFカードが使えない	CFカードのデータが壊れていませんか？ ➡ CFカードを初期化してください。（→126） ➡ 指定されたCFカードを使用してください。（→2, 3）

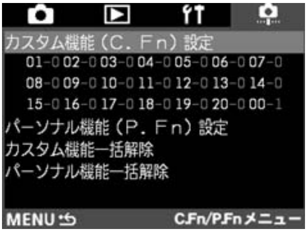
撮影画像の確認・操作

画像を消去できない	画像にプロテクトをかけていませんか？ ➡ プロテクトを解除してください。（→119）
撮影年月日／時刻が正しく表示されない	日付／時刻が正しく設定されていますか？ ➡ 日付／時刻を正しく設定してください。（→148）

フォーカシングスクリーンを交換したとき

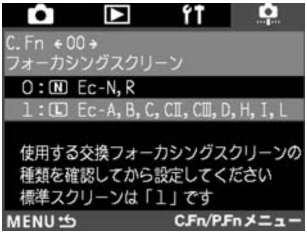
このカメラはフォーカシングスクリーンを撮影目的に合わせて交換することができます。お使いになるフォーカシングスクリーンのタイプに応じてカスタム機能C.Fn-00で適正露出の基準設定を変更する必要があります。

スクリーンタイプ	スクリーンモデル	カスタム機能CF-00の設定
N ：ニューレーザーマットスクリーン	Ec-N、Ec-R	0
L ：レーザーマットスクリーン	Ecタイプ（A, B, C, CII, CIII, D, H, I, L）	1



1 メニューから［カスタム機能（C.Fn）設定］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して、〈〉を選びます。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［**カスタム機能（C.Fn）設定**］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



2 カスタム機能C.Fn 00を選ぶ

- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［00］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。
- 〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して希望する項目を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。



3 メッセージの内容を確認する

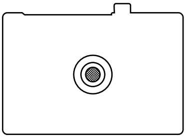
- まちがいなければ、〈SELECT〉ボタンを押しながら〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SELECT〉ボタンから指を離します。

C,Fn-00はグループ登録できるカスタム機能に含まれません。

- カメラを購入したままの状態でお使いになる場合は、カスタム機能C.Fn-00-1の設定を変更する必要はありません。
- フォーカシングスクリーンの交換方法は、フォーカシングスクリーンの使用説明書を参照してください。
- Ec-A、Ec-B、Ec-I、Ec-Lは中央部がプリズムになっています。プリズム部を基準にした評価測光、スポット測光では適正露出が得られません。測光モードは中央部重点平均測光か中央部を除くスポット測光をお使いください。

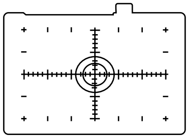
フォーカシングスクリーンEcには次のタイプがあります。

Ec-A 標準マイクロ



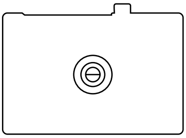
F5.6より暗いレンズではマイクロプリズム部にカゲリが生じます。

Ec-H 目盛入りレーザーマット



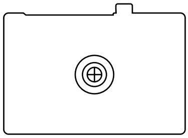
構図決定に便利な目盛が中央と周辺部についており接写、顕微鏡写真に適しています。

Ec-B ニュースプリット



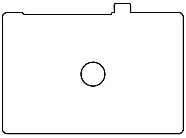
F5.6より暗いレンズでもスプリット部にカゲリが生じません。

Ec-I 十字入りレーザーマット



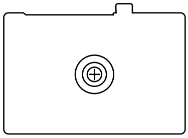
中央の十字部分でピントを合わせます。顕微鏡写真や天体撮影に適しています。

Ec-CII 全面レーザーマット



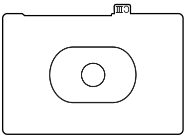
EOS-1Nの標準スクリーン

Ec-L クロススプリット



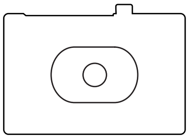
縦線と横線を利用してピントを合わせます。F5.6より暗いレンズではスプリット部にカゲリが生じます。

Ec-CIII レーザーマット



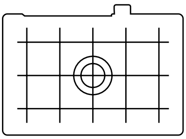
EOS-1D、EOS-1Vの標準スクリーン
突起部にEc-Nと見分けるためのCIIIロゴが入っています。

Ec-N ニューレーザーマット



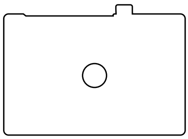
EOS-3の標準スクリーン

Ec-D 方眼レーザーマット



方眼線があるので建築写真や複写に適しています。

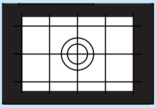
Ec-R ニューレーザーマット



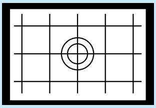
EOS-1N RSの標準スクリーン

EOS-1DとEOS-1Vでは、同じフォーカシングスクリーンを使用しても見える範囲が異なります。図はEc-Dに交換したときの例です。

EOS-1D



EOS-1V



10 資料

主なアクセサリー（別売）



ニッケル水素パック NP-E3

EOS-1D専用の強力な電源パックです。電源の定格12V。約500回以上の充放電繰り返し使用ができます。フル充電で約500コマ（常温）の撮影ができます。



ニッケル水素チャージャー NC-E2

ニッケル水素パックNP-E3用の急速充電器（過充電防止機能付き）です。1パックの充電所要時間は約120分、一度に2パックの取り付けができます。また、二次電池特有のメモリー効果を解消する放電機能（所要時間約8.5時間）も備えています。電源はAC100～240Vにそのまま対応します。



クリップオンタイプストロボ

アクセサリーシューに取り付けて使用する、クリップオンタイプストロボとして、EXシリーズスピードライトがあります。通常のAE撮影と同じ操作感覚で、E-TTL自動調光、ハイスピードシンクロ（FP発光）、FEロック撮影などのストロボ撮影を行うことができます。なお、550EXでは、簡単な操作で、E-TTL 自動調光対応のワイヤレス多灯撮影ができます。





マクロストロボ

近接撮影用ストロボとして、EXシリーズマクロストロボがあります。

片側発光から、光量比制御まで、高度なライティングをE-TTL自動調光で簡単に行うことができます。また、ハイスピードシンクロ（FP発光）、FEロック撮影のほか、550EXをスレーブにしたワイヤレス増灯機能など、多様なマクロストロボ撮影に対応しています。



リモートスイッチ RS-80N3

超望遠撮影、マクロ撮影、長時間露光（バルブ）撮影などにおけるカメラブレ防止に有効なリモートスイッチです。コード長は約80cm 。スイッチはシャッターボタン半押し、全押しと同じ機能、およびレリーズロック機能を備えています。ワンタッチロック式接続プラグをEOS-1Dのリモコン端子に接続して使用します。



タイマーリモートコントローラー TC-80N3

①セルフタイマー ②インターバルタイマー ③長時間露光タイマー ④撮影回数設定機能を内蔵した、コード長約80cmのリモートスイッチです。時間は、1秒から99時間59分59秒まで1秒単位で設定できます。EOS-1Dへの接続プラグはワンタッチロック式です。



ワイヤレスコントローラー LC-4

最大到達距離、約100mのワイヤレスコントローラーです。送信機と受信機で構成されています。受信機のカメラ接続プラグは、EOS-1Dのリモコン／通信端子対応･ワンタッチロック式となっています。



視度補正レンズ E

内蔵の視度調整機能との組み合わせでさらに調整範囲が広がる視度補正レンズEが10種類（－4dpt～＋3dpt）用意されています。



CFカード

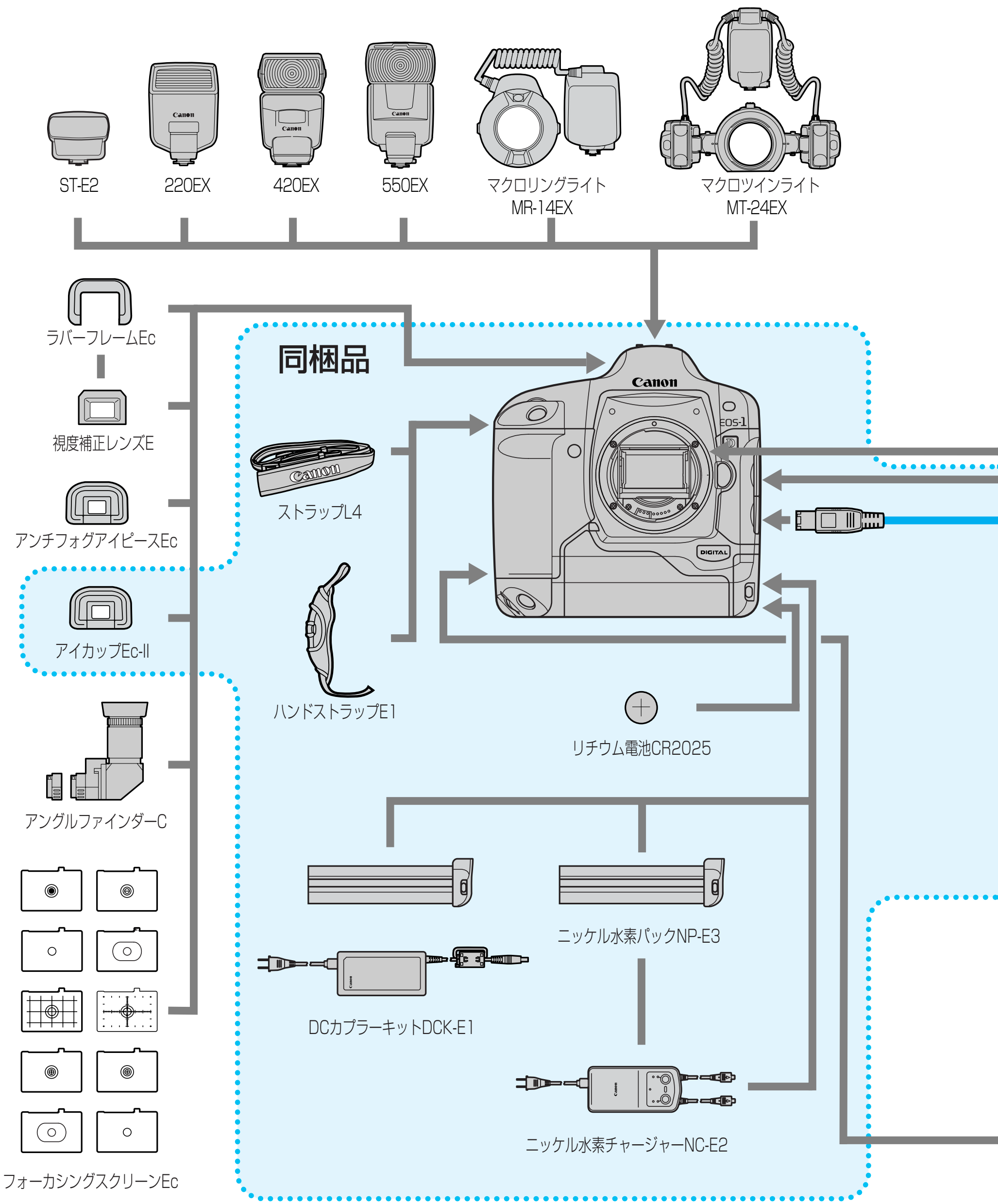
撮影した画像を記録するためのメモリーカードです。
CFカードは、キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。

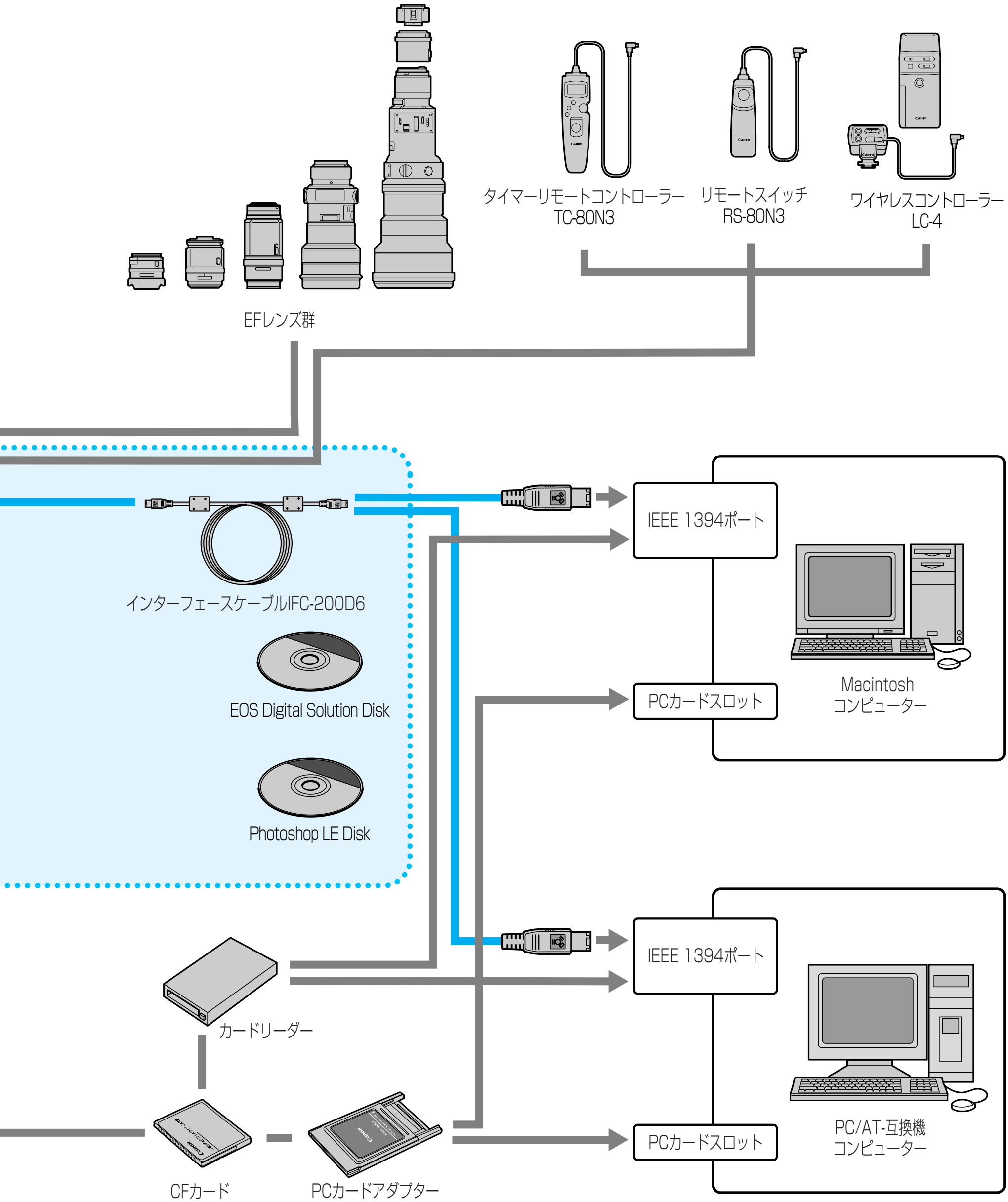


PCカードアダプター

CFカードをコンピューターのPCカードスロットや、カードリーダーへ差し込むためのアダプターです。

システムマップ


ST-E2
220EX
420EX
550EX
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
ラバーフレームEc
視度補正レンズE
アンチフォグアイピースEc
アイカップEc-II
アングルファインダーC
フォーカシングスクリーンEc
同梱品
ストラップL4
ハンドストラップE1
リチウム電池CR2025
ニッケル水素パックNP-E3
DCカプラーキットDCK-E1
ニッケル水素チャージャーNC-E2


タイマーリモートコントローラー
TC-80N3
リモートスイッチ
RS-80N3
ワイヤレスコントローラー
LC-4
EFレンズ群
インターフェースケーブルIFC-200D6
EOS Digital Solution Disk
Photoshop LE Disk
IEEE 1394ポート
PCカードスロット
Macintosh
コンピューター
カードリーダー
CFカード
PCカードアダプター
IEEE 1394ポート
PCカードスロット
PC/AT-互換機
コンピューター

主な仕様

■型式

型式..デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体.......................................CFカード（タイプI、II準拠）
撮像画面サイズ...........................28.7×19.1mm
使用レンズ...........................キヤノンEFレンズ群（有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.3倍に相当）
レンズマウント..........................キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式..高感度·高解像度大型単板CCDセンサー
画素数..有効画素：約415万画素（2496×1662）
総画素　：約448万画素（2664×1681）
アスペクト比..............................3：2
カラーフィルター方式................RGB原色フィルター
ローパスフィルター...................固定式、撮像素子前面に配置

■記録形式

記録フォーマット形式................DCF（JPEG）、およびRAW
記録画像形式..............................JPEG
RAW（12bit）
RAW+JPEG同時記録...............可能
ファイルサイズ...........................（1）ラージ／ファイン：約2.4MB（2464×1648画素）
(記録画素数)　（2）ラージ／ノーマル：約1.3MB（2464×1648画素）
（3）スモール／ファイン：約1.1MB（1232×824画素）
（4）RAW：約4.8MB（2496×1662画素）
＊ファイルサイズは、被写体条件、ISO感度により異なる
フォルダ設定..............................フォルダ作成／選択可能
ファイル番号　（1）通し番号
（2）オートリセット
（3）強制リセット
現像パラメーター.......................標準のほか、任意設定した現像パラメーターを3種類登録可能
インターフェース.......................IEEE1394（専用ケーブル使用）

■ホワイトバランス

種類..オート、太陽光、日陰、くもり、電球、蛍光灯、ストロボ、マニュアル、色温度数値・直接設定、カスタムホワイトバランス（計10種類）
オートホワイトバランス............撮像素子と専用外測センサーを用いたハイブリッド・オートホワイトバランス
カスタムホワイトバランス........任意設定したホワイトバランスを3種類登録可能
色温度補正..................................ホワイトバランスブラケティング：1段ステップ±3段

■カラーマトリックス

種類..sRGB、Adobe RGB　2種類の色空間。sRGBでは4種類の色合いから好みのタイプを選択可能（計5種類）

■ファインダー

方式……ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率……上下左右とも約100%（対有効画素･視野率）
倍率……0.72倍（50mmレンズ・∞・－1dpt）
アイポイント……20mm
視度調整範囲……－3.0～＋1.0dpt
フォーカシングスクリーン……交換式（9種類）、Ec-CIII標準装備
ミラー……クイッククリターン式全面ハーフミラー（透過：反射＝37：63、ミラー切れ：1200mm F5.6までなし）
ファインダー情報……AF情報（AFフレーム、合焦マーク）、露出情報（シャッター速度、絞り数値、マニュアル露出、測光範囲、ISO感度、露出レベル、露出警告）、ストロボ情報（充電完了、ハイスピードシンクロ、FEロック、調光レベル）、JPEG記録、撮影可能コマ数情報、CFカード情報
被写界深度確認……絞り込みボタンによる
アイピースシャッター……内蔵

■オートフォーカス

方式……CMOSセンサーによるTTL-AREA-SIR方式
測距点……45点（エリアAF）
測距輝度範囲……EV 0～18（常温・ISO 100相当）
フォーカスモード……ワンショットAF（ONE SHOT）
AIサーボAF（AI SERVO）
手動（MF）
AFフレーム選択……自動選択、任意選択、ホームポジション（登録AFフレームへの切り換え）
AFフレーム選択表示……ファインダー内スーパーインポーズと表示パネルによる
AF補助光……専用ストロボの内蔵AF補助光による

■露出制御

測光方式……21分割TTL開放測光
（1）評価測光（全てのAFフレームに対応）
（2）部分測光（中央部･ファインダー画面の約13.5%）
（3）スポット測光
・中央部スポット測光（ファインダー画面の約3.8%）
・AFフレーム連動スポット測光（ファインダー画面の約3.8%）
・マルチスポット測光（最大入力回数8回）
（4）中央部重点平均測光
測光範囲……EV0～20（常温・50mm F1.4使用・ISO100相当）
露出制御方式……プログラムAE（シフト可）、シャッター優先AE、絞り優先AE、深度優先AE、E-TTLストロボAE、マニュアル露出、ストロボメータードマニュアル
ISO感度……200～1600相当（1/3段ステップ）、ISO 100、3200相当の感度拡張が可能

露出補正......................................AEB：1/3段ステップ±3段
補正因子：①シャッター速度と絞り数値　②ISO感度
手動：1/3段ステップ±3段（AEB併用可能）
AEロック ....自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタン押しによる（全ての測光方式で可能）

■シャッター

形式..撮像素子による電子シャッターと、電子制御式・フォーカルプレーンシャッターを併用
シャッター速度 ....1/16000〜30秒（1/3段ステップ）、バルブ、X＝1/500秒
レリーズ方式...............................ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー ....10秒後／2秒後撮影
リモコン......................................N3タイプ端子リモコン対応

■ストロボ

EOS専用ストロボ ....EXシリーズスピードライト使用時、E-TTL自動調光
シンクロ端子 ....あり

■ドライブ関係

ドライブモード ....1コマ撮影／高速連続撮影／低速連続撮影
連続撮影速度...............................高速連続撮影：約8コマ／秒、低速連続撮影：約3コマ／秒
連続撮影時の最大撮影コマ数....21コマ
ラージ／ファイン　　ラージ／ノーマル
スモール／ファイン
16コマ
RAW　　RAW＋ラージ／ファイン
RAW＋ラージ／ノーマル　　RAW＋スモール／ファイン
＊被写体条件、ISO感度により異なる

■液晶モニター

形式..TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ..................................2.0型
画素数..約12万画素
視野率..100%（対有効画素･視野率）
輝度調整......................................5段階に調整可能

■再生機能

画像表示形式 ....①1コマ(Info.)、②1コマ、③4コマインデックス、④9コマインデックス表示
ハイライト表示............................画像表示形式1コマ（Info.）と、1コマのとき、画像情報のない白域部分を点滅表示

■記録画像のプロテクト／消去

プロテクト……1コマ／フォルダ内全画像／カード内全画像の単位でプロテクト、または解除
消去……1コマ／フォルダ内全画像／カード内全画像の単位で消去（プロテクト画像をのぞく）

■録音機能

記録方式……内蔵マイクで取り込んだ音声を記録画像に添付
録音形式……WAV形式
録音時間……1回につき最長約30秒

■メニュー機能

メニュー内容……①撮影系、②再生系、③セットアップ系、④カスタム機能／パーソナル機能
液晶モニター表示言語……日本語／英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語
ファームウェアアップデート……ユーザー対応にて可能

■カスタマイズ機能

カスタム機能……21種67項目
パーソナル機能……25種

■電源

使用電池……ニッケル水素パックNP-E3、1個使用
＊ACアダプター、DCカプラー併用により、AC駆動可能
撮影可能コマ数……常温（20℃）：約500
低温（0℃）：約350
＊フル充電のニッケル水素パックNP-E3使用時
バッテリーチェック……自動
節電機能……あり、設定時間（1／2／4／8／15／30分）経過で電源OFF
バックアップ電池……リチウム電池CR2025、1個使用

■大きさ・質量

大きさ……156（幅）×157.6（高さ）×79.9（奥行）mm
質量……1250g（本体のみ。電池335g）

■動作環境

使用可能温度……0℃～+45℃
使用可能湿度……85%以下

- 記載データは全て当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

索　引

英数字

あ

か

さ

た

Canon

キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社　カメラ販売事業部
〒108-8011 東京都港区三田3-12-15（東急三田ビル）　http://canon.jp/

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理サービスのご相談は、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店または、別紙のサービス窓口にご相談ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用のかたは、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノン販売株式会社
http://canon.jp/camera/

この使用説明書は、2001年9月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。

CT1 - 5133 - 003

PRINTED IN JAPAN